下佐野遺跡調査報告II

― 県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査 ―

2011年3月 高岡市教育委員会 高岡市埋蔵文化財調査報告 第23冊

下佐野遺跡調査報告Ⅱ

― 県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査 ―

2011年3月 高岡市教育委員会 下佐野遺跡は、高岡市市街地南西部の佐野地区に所在します。

周辺は庄川水系が形成した扇状地の末端にあたり、集落等の形成に適した佐野台地と、肥沃な耕地とにより構成されています。

我々の祖先が、この地に最初に生活の痕跡を残したのは縄文時代の後期 とみられます。弥生時代中期からは継続的な生活の痕跡がみとめられ、多 くの遺跡が集中します。

このたび報告をしますのは、県道高岡環状線の建設にともない調査をした、下佐野遺跡の発掘調査成果です。弥生時代の首長墓にも採用される方形周溝墓をはじめ、古代の掘立柱建物や井戸などを検出しています。

本書を郷土における歴史探求や学術研究にご活用いただければ幸いです。 末尾になりましたが、発掘調査の実施にご協力いただきました、関係各位、 地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

高岡市教育委員会 教育長 氷見 哲正

例 言

- 1. 本書は、主要地方道高岡環状線の建設にともなう、下佐野遺跡の発掘調査報告である。
- 2. 調査主体者は、富山県高岡土木センターから委託を受けた高岡市教育委員会である。
- 3. 試掘調査については、平成15年度に高岡市教育委員会直営にて実施した。
- 4. 屋外本発掘調査は、高岡市教育委員会による監理のもと、株式会社人間文化都市研究所が業務委託により平成16年度に実施した。また、平成18年度には有限会社毛野考古学研究所に業務委託し、上記の補足のため確認調査を行った。
- 5. 整理調査及び報告書作成作業は平成 19 年度より実施した。19 年度から 21 年度までは高岡市教育委員会の監理のもと、株式会社エイ・テックが遺構図版等を作成した。同様に、22 年度においては株式会社アーキジオに業務委託し、遺物図版のほか、報告書原案等の作成を実施した。

凡例

- 1. 本書に掲載した遺構図の方位は座標北であり、水平基準は海抜高である。
- 2. 座標は世界測地系を使用した。
- 3. 本書においては、各遺構に対し次のような記号を付してその種別を表した。

SA:柵 SB:掘立柱建物 SD:溝状遺構 SE:井戸 SK:土坑

S X : 凹地及び性格不明遺構 S Z : 方形周溝墓

4. 遺構図における平面図及び土層断面図の縮尺は、それぞれの図版に記載している。

高岡市埋蔵文化財調査報告第23冊

下佐野遺跡調査報告Ⅱ

目 次

序 例言・凡例 目次

第1章 周辺地域の概要等	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 周辺の環境	1
第3節 周辺の遺跡	3
第2章 遺跡の概要と過去の発掘調査歴	
第1節 下佐野遺跡の概要	8
第2節 下佐野遺跡における既往の調査成果	8
第3章 調査の概要	
第1節 概要	18
第 2 節 遺構	20
第 3 節 遺物	32
	40

参考・引用文献

図面目次

図面 01	遺構実測図	調査地区全体図
図面 02	遺構実測図	1 区全体図
図面 03	遺構実測図	2区全体図
図面 04	遺構実測図	3区⋅4区全体図
図面 05	遺構実測図	調査地区遺構配置図
図面 06	遺構実測図	調査地区遺構図〔1〕
図面 07	遺構実測図	調査地区遺構図〔2〕
図面 08	遺構実測図	調査地区遺構図〔3〕
図面 09	遺構実測図	調査地区遺構図〔4〕
図面 10	遺構実測図	調査地区遺構図〔5〕
図面 11	遺構実測図	調査地区遺構図〔6〕
図面 12	遺構実測図	方形周溝墓SZ01 実測図
図面 13	遺構実測図	方形周溝墓SZ02実測図
図面 14	遺構実測図	方形周溝墓SZ03実測図
図面 15	遺構実測図	掘立柱建物 S B 01 · 05 実測図
図面 16	遺構実測図	掘立柱建物 S B 02·03 実測図
図面 17	遺構実測図	掘立柱建物 S B 04 · 06 実測図
図面 18	遺構実測図	掘立柱建物 S B 07 実測図
図面 19	遺構実測図	掘立柱建物 S B 08 · 09 実測図
図面 20	遺構実測図	掘立柱建物SB10·11、柵SA01実測図
図面 21	遺構実測図	柵 S A 02∼04、井戸 S E 01∼03 実測図
図面 22	遺構実測図	土坑実測図〔1〕: S K01~08
図面 23	遺構実測図	土坑実測図〔2〕: S K 09~17
ाण वस्त १४	\tel.4# /5* \tel [57]	9 9 9 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 1
凶田 24	遺構実測図	土坑実測図〔3〕: S K 18~23
	遺構実測図	土坑実測図〔3〕: S K 18~23 土坑実測図〔4〕: S K 24~35
図面 25		土坑実測図〔4〕: S K 24~35
図面 25 図面 26	遺構実測図	土坑実測図〔4〕: S K 24~35 土坑実測図〔5〕: S K 36~47
図面 25 図面 26 図面 27	遺構実測図	土坑実測図〔4〕: S K 24~35 土坑実測図〔5〕: S K 36~47 土坑実測図〔6〕: S K 48~57
図面 25 図面 26 図面 27	遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図	土坑実測図〔4〕: S K 24~35 土坑実測図〔5〕: S K 36~47 土坑実測図〔6〕: S K 48~57 土坑実測図〔7〕: S K 58~67
図面 25 図面 26 図面 27 図面 28 図面 29	遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図	土坑実測図〔4〕: S K 24~35 土坑実測図〔5〕: S K 36~47 土坑実測図〔6〕: S K 48~57 土坑実測図〔7〕: S K 58~67 土坑実測図〔8〕: S K 68~78
図面 25 図面 26 図面 27 図面 28 図面 29 図面 30 図面 31	遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図	土坑実測図〔4〕: S K 24~35 土坑実測図〔5〕: S K 36~47 土坑実測図〔6〕: S K 48~57 土坑実測図〔7〕: S K 58~67 土坑実測図〔8〕: S K 68~78 土坑実測図〔9〕: S K 79~90
図面 25 図面 26 図面 27 図面 28 図面 29 図面 30 図面 31	遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図	土坑実測図〔4〕: S K 24~35 土坑実測図〔5〕: S K 36~47 土坑実測図〔6〕: S K 48~57 土坑実測図〔7〕: S K 58~67 土坑実測図〔8〕: S K 68~78 土坑実測図〔9〕: S K 79~90
図面 25 図面 26 図面 27 図面 28 図面 29 図面 30 図面 31	遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図 遺構実測図	土坑実測図〔4〕: S K 24~35 土坑実測図〔5〕: S K 36~47 土坑実測図〔6〕: S K 48~57 土坑実測図〔7〕: S K 58~67 土坑実測図〔8〕: S K 68~78 土坑実測図〔9〕: S K 79~90 土坑実測図〔10〕: S K 91~102
図面 25 図面 26 図面 27 図面 28 図面 29 図面 30 図面 31 図面 32 図面 33	遺構実測図	土坑実測図〔4〕: S K 24~35 土坑実測図〔5〕: S K 36~47 土坑実測図〔6〕: S K 48~57 土坑実測図〔7〕: S K 58~67 土坑実測図〔8〕: S K 68~78 土坑実測図〔9〕: S K 79~90 土坑実測図〔10〕: S K 91~102 溝状遺構実測図〔1〕: S D 02~06 溝状遺構実測図〔2〕: S D 02 溝状遺構実測図〔3〕: S D 08·09
図面 25 図面 26 図面 27 図面 28 図面 30 図面 31 図面 32 図面 33 図面 34	遺構実測図	土坑実測図〔4〕: SK24~35 土坑実測図〔5〕: SK36~47 土坑実測図〔6〕: SK48~57 土坑実測図〔7〕: SK58~67 土坑実測図〔8〕: SK68~78 土坑実測図〔9〕: SK79~90 土坑実測図〔10〕: SK91~102 溝状遺構実測図〔1〕: SD02~06 溝状遺構実測図〔2〕: SD02 溝状遺構実測図〔3〕: SD08·09 溝状遺構実測図〔4〕: SD17·18·21
図面 25 図面 26 図面 27 図面 28 図面 30 図面 31 図面 32 図面 33 図面 34 図面 35	遺構実測図	土坑実測図〔4〕: S K 24~35 土坑実測図〔5〕: S K 36~47 土坑実測図〔6〕: S K 48~57 土坑実測図〔7〕: S K 58~67 土坑実測図〔8〕: S K 68~78 土坑実測図〔9〕: S K 79~90 土坑実測図〔10〕: S K 91~102 溝状遺構実測図〔1〕: S D 02~06 溝状遺構実測図〔2〕: S D 02 溝状遺構実測図〔3〕: S D 08·09 溝状遺構実測図〔4〕: S D 17·18·21 溝状遺構実測図〔5〕: S D 22·23·25
図面 25 図面 26 図面 27 図面 28 図面 30 図面 31 図面 32 図面 33 図面 34 図面 35 図面 36	遺構実測図	土坑実測図〔4〕: SK24~35 土坑実測図〔5〕: SK36~47 土坑実測図〔6〕: SK48~57 土坑実測図〔7〕: SK58~67 土坑実測図〔8〕: SK68~78 土坑実測図〔9〕: SK79~90 土坑実測図〔10〕: SK91~102 溝状遺構実測図〔1〕: SD02~06 溝状遺構実測図〔2〕: SD02 溝状遺構実測図〔4〕: SD17·18·21 溝状遺構実測図〔4〕: SD17·18·21 溝状遺構実測図〔5〕: SD22·23·25 溝状遺構実測図〔6〕: SD27·28·33

図面 39 遺構実測図 溝状遺構実測図 [8]: SD41

図面 41 遺構実測図 溝状遺構実測図〔10〕: S D 49~51 · 53 · 54

図面 42 遺構実測図 凹地 S X 02 実測図

図面 43 遺構実測図 凹地 S X 03 実測図

図面 44 遺物実測図 弥生時代

図面 45 遺物実測図 弥生時代

図面 46 遺物実測図 弥生時代·古墳時代·古代

図面 47 遺物実測図 古代

図面 48 遺物実測図 古代

図面 49 遺物実測図 古代

図面 50 遺物実測図 古代

図面 51 遺物実測図 古代

図面 52 遺物実測図 古代

図面 53 遺物実測図 古代・中世

図面 54 遺物実測図 中世

図面 55 遺物実測図 中世

図面 56 遺物実測図 中世・近世

図面 57 遺物実測図 木製品

図版目次

図版 01 遺構写真 1. 大遠景 南

2. 遠景 北西

図版 02 遺構写真 1. 調査地区全景 直上

2. 1区全景 直上

図版 03 遺構写真 1. 2 区全景 直上

2. 3 · 4区全景 直上

図版 04 遺構写真 1. 1 区検出状況 東南東

2. 1区検出状况 西南西

図版 05 遺構写真 1. 1 区掘削状况 南西

2. 1区掘削状况 東南東

図版 06 遺構写真 1. 2 区検出状况 西北西

2. 2区検出状况 東南東

図版 07 遺構写真 1. 2 区掘削状况 東南東

2. 2区掘削状况 北西

図版 08 遺構写真 1. 3 区検出状况 北西

2. 4区検出状况 南東

図版 09 遺構写真 1.3 · 4 区掘削状况 北西

2. 3 · 4 区掘削状况 東南東

図版 10 遺構写真	1. 方形周溝墓SΖ01掘削状況 北東	
	2. 方形周溝墓SZ01 掘削状況 北西	
図版 11 遺構写真	1. 方形周溝墓S Z 02 検出状況 東南東	
	2. 方形周溝墓S Z 02 検出状況 西北西	
図版 12 遺構写真	1. 方形周溝墓SΖ02掘削状況 西北西	
	2. 方形周溝墓SZ02 掘削状況 北西	
図版 13 遺構写真	1. 方形周溝墓 S Z 03 検出状況 北東	
	2. 方形周溝墓SΖ03 検出状況 南	
図版 14 遺構写真	1. 方形周溝墓SΖ03掘削状況 北西	
	2. 方形周溝墓SΖ03 掘削状況 南	
図版 15 遺構写真	1. 掘立柱建物 S B 01 完掘状況 北	
	2. 掘立柱建物 S B 01 完掘状況 北東	
図版 16 遺構写真	1. 掘立柱建物 S B 04 検出状況 北東	
	2. 掘立柱建物 S B 04 完掘状況 北東	
図版 17 遺構写真	1. 掘立柱建物 S B 05·06 検出状況 北東	
	2. 掘立柱建物 S B 05 完掘状況 北東	
図版 18 遺構写真	1. 掘立柱建物 S B 07 完掘状況 南東	
	2. 掘立柱建物 S B 08 完掘状況 南東	
図版 19 遺構写真	1. 井戸SE01~03 完掘状況 東	
	2. 井戸SE01~03 断ち割り状況 北東	
図版 20 遺構写真	1. 井戸SE01 完掘状況 北東	
	2. 井戸SE02 遺物出土状況 北	
図版 21 遺構写真	1. 土坑 S K 07 完掘状況 南	
	2. 土坑 S K 14 完掘状況 北	
図版 22 遺構写真	1. 土坑 S K 18 完掘状況 北	
	2. 土坑 S K 18 完掘状況 北東	
図版 23 遺構写真	1. 土坑SK18 遺物出土状況 南南東	
	2. 土坑SK18 遺物出土状況 東南東	
図版 24 遺構写真	1. 土坑 S K 73 完掘状況 西	
	2. 土坑 S K 74 完掘状況 西	
	3. 土坑SK76 完掘状況 西	
図版 25 遺構写真	1. 溝状遺構 S D 02 · 05 · 06 掘削状況 北東	
	2. 溝状遺構 S D 05~09、土坑 S K 08 完捆状况	北東
図版 26 遺構写真	1. 溝状遺構SD02堰確認状況 北西	
	2. 溝状遺構 S D 02 堰近景 北西	
	3. 溝状遺構 S D 02 堰近景 北	
図版 27	1. 溝状遺構 S D 01 遺物出土状況 東	
	2. 溝状遺構 S D 32 遺物出土状況 南東	

3. 溝状遺構 S D 51 遺物出土状況 南東

図版 28

- 1. ピットP01遺物出土状況 北西
- 2. ピットP02遺物出土状況 南
- 3. ピットP03遺物出土状況 北北西

図版 29 遺構写真

- 1. 凹地SX03全景 西北西
- 2. 凹地SX03全景 東南東

図版 30

- 1. 溝状遺構 S D 32 遺物出土状況 北西
- 2. 凹地SX03遺物出土状況 南
- 3. 凹地SX03 遺物出土状況 北北西

図版 31

- 1. 作業風景 東
- 2. 作業風景 東
- 3. 作業風景 西北西
- 図版 32 遺物写真 弥生時代
- 図版 33 遺物写真 弥生時代・古墳時代・古代
- 図版 34 遺物写真 古代
- 図版 35 遺物写真 古代
- 図版 36 遺物写真 古代
- 図版 37 遺物写真 古代
- 図版 38 遺物写真 古代
- 図版 39 遺物写真 古代
- 図版 40 遺物写真 古代
- 図版 41 遺物写真 古代
- 図版 42 遺物写真 古代
- 図版 43 遺物写真 古代
- 図版 44 遺物写真 古代・中世
- 図版 45 遺物写真 中世
- 図版 46 遺物写真 中世
- 図版 47 遺物写真 中世·近世
- 図版 48 遺物写真 木製品

挿図目次

- 第1図 庄川扇状地の地積地図
- 第2図 周辺遺跡
- 第3図 高岡市の遺跡
- 第4図 下佐野遺跡の過去の調査区

- 第5図 下佐野遺跡各調査区1
- 第6図 下佐野遺跡各調査区2
- 第7図 下佐野遺跡各調査区3
- 第8図 下佐野遺跡各調査区4
- 第9図 下佐野遺跡各調査区5
- 第10図 下佐野遺跡出土の弥生~古墳時代初頭の土器
- 第11図 基本層序
- 第12図 時代別遺構配置図
- 第13図 方形周溝墓概略図1
- 第14図 方形周溝墓概略図2
- 第15図 掘立建物群概略図
- 第16図 出土遺物の時期区分表
- 第17図 方形周溝墓

挿表目次

- 第1表 遺跡一覧
- 第2表 過去の調査区一覧表

別表目次

- 別表1 遺構一覧表
- 別表2 遺物観察表

第1章 周辺地域の概要等

第1節 調査にいたる経緯

平成 15 年度、富山県高岡土木センターより県道高岡環状線の建設にかかる埋蔵文化財包蔵地の照会が高岡市教育委員会に打診された。しかし、当該地は下佐野遺跡の埋蔵文化財包蔵地に該当するため、協議の結果、同年度に約 30,000 ㎡の試掘調査を実施することで合意した。

その結果、弥生時代や古代をはじめとする遺構や遺物が検出されたため、両者間の協議により、翌年度以降に本発掘調査を実施することで合意がなされ、平成16年度にこれを行った。

屋外本発掘調査については、高岡市教育委員会の監理のもと、株式会社人間文化都市研究所に業務委託し作業を行った。しかし、調査天候等の影響を受け十分な調査を実施できなかったため、18 年度には毛野考古学研究所に業務委託をし、可能な限りの確認調査を行い上記の補足につとめ、これにより本件にかかる全ての屋外発掘調査を終了した。

なお、整理調査については、一部を屋外発掘調査等と並行し実施してきたが、19 年度以降に本格的な作業 を再開し、22 年度事業をもって本書作成にいたった。

第2節 周辺の環境

下佐野遺跡の立地

下佐野遺跡の所在する高岡市街地南西は、庄川水系により形成された扇状地と、東西を北流する千保川と祖父川により浸食・形成された標高約10~20mを呈する「佐野台地」からなる。

同台地上には、下佐野遺跡を含む複数の遺跡が密集し一つの遺跡群を形成する。存続年代としては、いまのところ縄文時代後期が最古となる。続いて弥生時代中期後半の様相が根を下ろし、以後、継続的に各時代の様相が展開され今日に至る。

なお、下佐野遺跡については、当初に弥生時代後期の遺物が出土したことから、近隣に所在する石塚遺跡との対比もあり弥生時代後期の遺跡としての印象が強かったようである。しかし、近年における大規模発掘調査の成果により、複数の様相が重層的に展開される複合遺跡であることが判明している。ことに古代においては官衙的な様相も所在したことが判明しており、上記のように遺跡群としての把握が必要な状況にあるといえる。

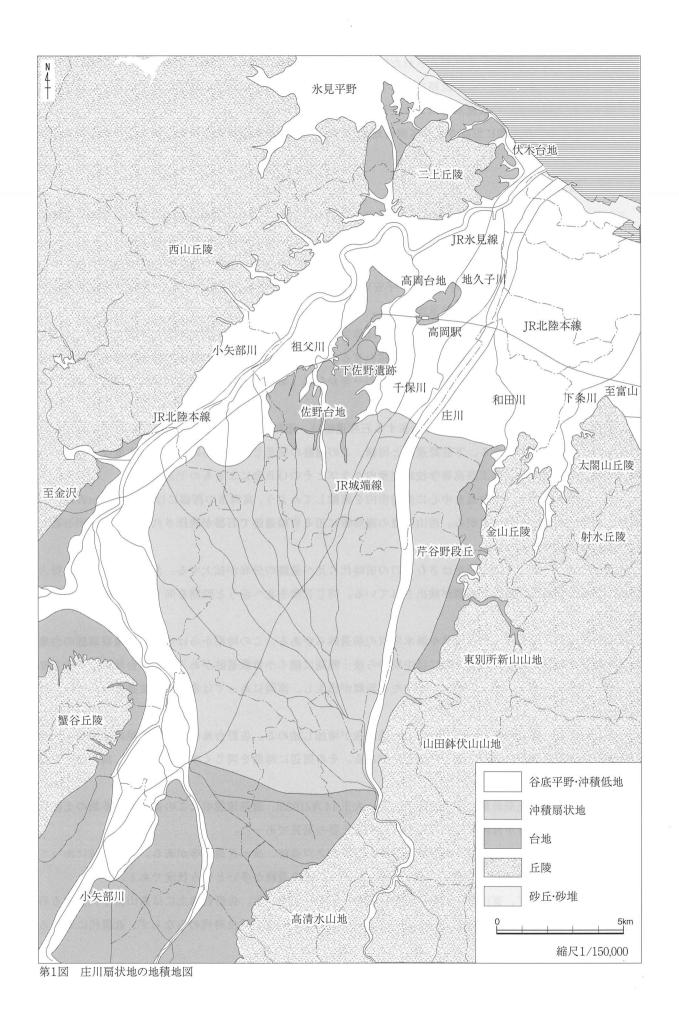
下佐野遺跡周辺の地理的環境

飛騨高地の中央部、岐阜県高山市烏帽子岳(標高 1,625m)を源とする庄川により形成された扇状地である。 県内最大の規模をはかり、西側を流れる小矢部川はこの勢いに押され、西山丘陵の山麓線沿いを流れる。

庄川は、岐阜県から富山県に入り南砺市小牧付近で利賀川を合わせたのち砺波平野に出て、射水市大門で和田川と合わせて日本海に注いでいる、延長 115km、流域面積 1,189kmの一級河川である。この川は、古来より、大洪水や大地震で幾度も流路を変え、扇状地に大小の流れが網の目のように広がり、川筋を残した。遺跡の東方を北流する千保川は、江戸時代までこの庄川の本流として豊富な水量を誇るものであった。

下佐野遺跡を含む石塚遺跡群の西方を流れる祖父川は、庄川と異なり庄川扇状地上の湧水を源とする。この祖父川と千保川(旧庄川)が長期にわたり大地を浸食し、佐野台地を形成する。

庄川扇状地扇端部には、下佐野遺跡の所在する佐野台地のほかにも高岡台地が存在する。



前者は東西を流れる河川により形成された標高 10~20mの台地である。台地の中央を切る旧河道は、庄川扇状地の旧河道と連続し庄川の旧流路を示している。また佐野台地は扇状地の端部に位置するため湧水が豊富であり、台地縁辺部には伏流水らによる浸食谷が形成されている。

なお、千保川を挟む東側に形成される高岡台地は、佐野台地とは本来連続する台地であったと考えられる。

第3節 周辺の遺跡

下佐野遺跡の所在する佐野台地上には、図 20 及び 3 に示すとおり多くの遺跡が所在する。とりわけ弥生時代中期から古墳時代前期と、古代を中心とする計 2 時期における県内屈指の遺跡が集中する。

下佐野遺跡の西側では、弥生時代から古代にかけて営まれた石名瀬A遺跡や西佐野千代遺跡が所在する。 北西側では縄文時代晩期と古墳時代後期~平安時代を中心とする泉ヶ丘遺跡がある。南側には弥生時代中期・後期と、古代の様相をもつ諏訪遺跡がある。

北側では東木津遺跡と一部隣接する。同遺跡は弥生時代から中世までの長期的様相が存続するが、古代を中心とし、木簡や墨書土器等、官衙的様相を窺わせる多量の遺物のほか、大型の掘立柱建物をはじめとする建物群が方位を揃え造営された。ちなみに、この一角からは「布忍(師)郷」と刻書された須恵器も検出されている。

下佐野遺跡から北西へ 1kmの地点に所在する石塚遺跡は、昭和 42 年(1967)に発見された県下を代表する弥生時代中期の遺跡である。下佐野遺跡と同様、この遺跡の発見と研究は当時この地を主要なフィールドの一つとして活躍した高岡工芸高等学校地理歴史クラブとその O B 会によるものである。

さらに視線を広げて佐野台地を中心に高岡市内を俯瞰してみよう。高岡市の西側には150~300mの山々が 連なる西山丘陵と平野部が広がる。西山丘陵の海岸線に迫る岩崎遺跡で石器が表採されているが、旧石器時 代の遺跡数は希少である。

縄文時代になると、空白期間をはさむものの前時代に比べ遺跡の分布が拡大する。西山丘陵上には上野A遺跡があり前期後葉の遺物と遺構が検出されている。同じ丘陵を北へ沿うと時期を同じくする岩坪岡田島遺跡がある。

縄文時代中期になると、堂前遺跡や勝木原宮の前遺跡らがある。この時期からは庄川扇状地扇端部の台地上にも遺跡が現れ始める。高岡台地には中期から後・晩期に続く小竹藪遺跡がある。この台地は低く小さな洪積層の段丘に過ぎないが、多数の土器片や石器類が出土し、高岡にあっては希少な縄文遺跡の代表格と評される。

しかしながら、縄文時代後・晩期になると遺跡数が増加し始める。佐野台地の最西端に晩期後葉から末葉の建物を伴う集落を検出した下老子笹川遺跡がある。その周辺に時期を同じくする駒方遺跡、高田新芽道遺跡、蓑島遺跡もある。

高岡台地北端には晩期前葉の中川遺跡がある。大正 14 年(1925)、道路建設中にこの遺跡から多数の土器片 や石器類が出土したのが高岡における初めての縄文土器の発見であった。

他にも遺物の散布地としては、石塚蜻保遺跡、石塚江之戸遺跡、泉ヶ丘遺跡等がある。高岡市域にあって は縄文時代の遺跡は全般的に遺構が少なく、包含層からの出土遺物が多いという状況である。

高岡市域のみならず、富山県下の弥生時代は概ね中期から定着する。佐野台地上には富山県を代表する石塚遺跡がある。同遺跡は、昭和42年(1967)以来幾多の調査の結果、弥生時代のみならず、近現代にわたる様相が確認されている。

その他に、佐野台地上には中期後半頃の方形周溝墓が検出された石名瀬A遺跡、西佐野千代遺跡、荒見崎

北遺跡、後期後半の装飾器台を出土した蔵野町東遺跡がある。また佐野台地西端には、縄文時代から弥生時代の移行期の建物や玉作集落等を検出した下老子笹川遺跡がある。

西山丘陵では、後期の土器溜まりを検出した石堤長光寺遺跡がある。小矢部川右岸には、多くの土器と木器と黒漆塗りの装飾付き木製短甲が出土した江尻遺跡がある。

古墳時代では、集落遺跡よりも数量的には古墳の占める割合が多くなる。広義としての西山丘陵には桜谷古墳群、城光寺古墳群、院内東横穴墓、板屋谷内B・C古墳群、頭川城ヶ平横穴墓群、古墳出現期とされる倉谷古墳群、馬場古墳群、下向田古墳群、上野古墳群、上五位神社古墳群等、他にも数多くの古墳が確認されている。概して円墳を主体とする群集墳や、横穴墓群も西山丘陵一帯には多く所在するが、集落遺跡の調査が少なく相関関係等の詳細は明らかではない。

なお、佐野台地では、石塚遺跡の北東部で前期から中期とみられる前方後方墳を含む古墳群が確認され、石名瀬A遺跡では古墳時代前期の竪穴住居などが、諏訪遺跡や下黒田遺跡でも方形周溝墓が検出されている。古代になると遺跡が飛躍的に増加するようになる。佐野台地には、船着場とそれに伴う水路や倉庫群を検出し、古代水上交通の中継点であると考えられた中保B遺跡がある。祖父川により二分される佐野台地の東方には東木津遺跡があり、両遺跡は官衙的様相を含むほか立地のうえでも対比される。

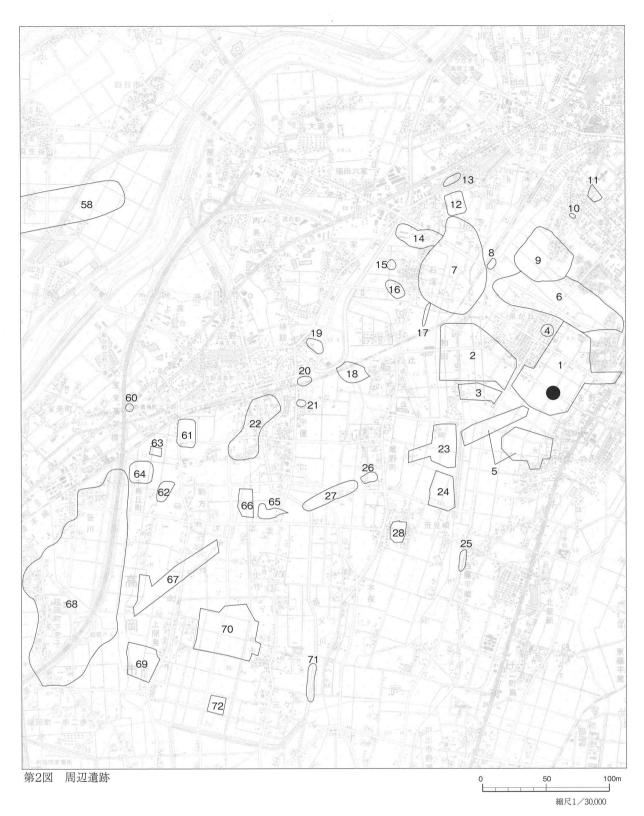
なおその他にも、小矢部川左岸では古代北陸道の川人(合)駅関連に比定する意見のある麻生谷遺跡や、延喜式段階の古代北陸道とされる道路遺構を検出した麻生谷新生園遺跡、東大寺領須加荘に比定する意見のある須田藤の木遺跡がある。伏木台地には、越中国府関連遺跡がある。

中世の遺跡は古代同様にほぼ全域でみられ、石黒氏が築城したといわれ天正地震(天正 13 年・1585)で崩壊した木舟城跡と、その城下町で 16 世紀後半の町屋群や炉関連遺構等が検出された開馞大滝遺跡がある。西山丘陵周辺には岩坪岡田島遺跡や手洗野赤浦遺跡、守山城跡があるほか、山城や砦が分布する。

近世以降は加賀藩の支配下となり、高岡台地とその周辺には高岡城跡のほか、瑞龍寺遺跡、八丁道遺跡などがある。

時代が進むにつれて生活環境や様式が異なることで、西山丘陵沿いや庄川扇状地にある微高地、そして低地へと生活の場を広げている。そして次第に丘陵地と扇状地上で、墓域、生産地域、集落地域、山城などとして、土地を使い分けるようになってくる。

下佐野遺跡の所在する佐野台地は、この微高地を利用して多くの人々の活動の場となり、遺跡が多く展開している。縄文時代後・晩期、そして弥生時代以降、いまのところ微細な断続はあるとしても、地域全体としては連綿と歴史的な様相が存続していたことがわかる。



1. 下佐野遺跡

2. 石名瀬A遺跡

3. 西佐野千代遺跡

4. 泉ヶ丘遺跡

5. 諏訪遺跡

6. 東木津遺跡

7. 石塚遺跡

8. 石名瀬B遺跡

9. 中木津遺跡

10. 西木津遺跡

11. 北木津遺跡

12. 上北島遺跡

13. 下北島住吉遺跡

14. 石塚江之戸遺跡

15. 石塚五俵田遺跡

16. 石塚蜻保遺跡 17. 石塚六方遺跡

18. 辻遺跡

19. 樋詰遺跡

20. 中保C遺跡 21. 中保A遺跡

22. 中保B遺跡

23. 辻南遺跡

24. 荒見崎北遺跡

25. 西藤平蔵遺跡

26. 蔵野町東遺跡 27. 蔵野町遺跡

28. 荒見崎村内遺跡

58. 赤丸古村遺跡

60. 近世北陸道遺跡

61. 立野地頭田遺跡

62. 駒方遺跡

63. 高田新芽道遺跡 64. 高田新西後遺跡

65. 小竹B遺跡

66. 小竹C遺跡

67. 駒方南遺跡

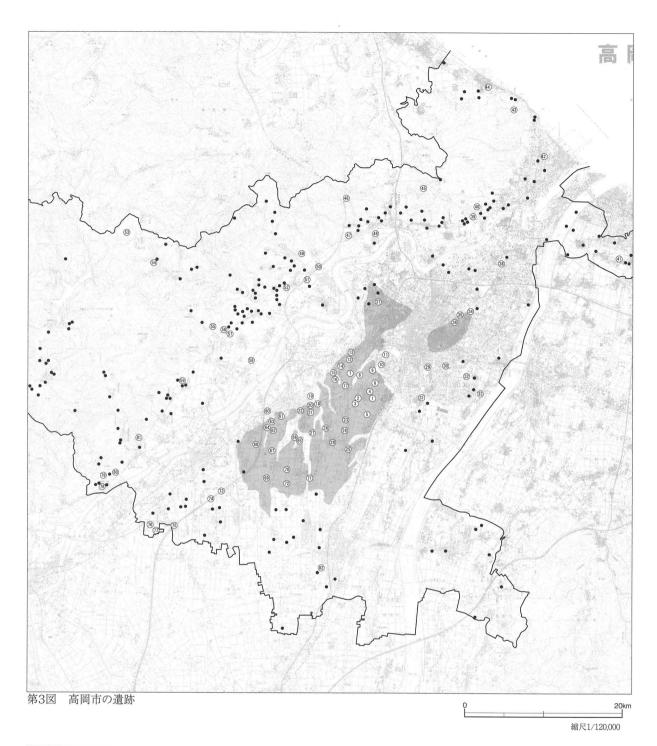
68. 下老子笹川遺跡

69. 上開発遺跡 70. 今市遺跡

71. 本保遺跡

72. 三ケ遺跡

調査地点



	遺跡名	主な時代	種 別	所在地	主な現状	備考
1	下佐野遺跡	弥生終、古墳前、古代、中世	集落	高岡市佐野ほか	水田、宅地	
2	石名瀬A遺跡	弥生中、弥生後、古墳前、古代	集落、散布地	高岡市石名瀬	水田、宅地	
3	西佐野千代遺跡	弥生中、弥生後、古墳前、古代	集落、散布地	高岡市西千代	水田、宅地	
4	泉ヶ丘遺跡	縄文晩、古墳後、古代	散布地	高岡市泉ケ丘	宅地	
5	諏訪遺跡	古代、中世	散布地	高岡市諏訪佐野	水田、宅地	
6	東木津遺跡	弥生、古墳前、古代、中世	集落、散布地	高岡市木津ほか	水田、宅地	
7	石塚遺跡	縄文後、縄文晩、弥生中、弥生終、古墳前、 古墳中、奈良、平安、鎌倉、南北朝、室町、 近世	集落、散布地	高岡市石塚ほか	水田、宅地	
8	石名瀬B遺跡	弥生、古墳	散布地	高岡市石名瀬	水田、宅地	
9	中木津遺跡	古代、中世、近世	散布地	高岡市木津	水田、宅地	旧木津神社遺跡
10	西木津遺跡	中世、近世、古代	散布地	高岡市木津	水田、宅地	
11	北木津遺跡	古代、中世、近世	散布地	高岡市木津	水田、宅地	
12	上北島遺跡	古代、中世	散布地	高岡市上北島	水田、宅地	
13	下北島住吉遺跡	縄文、弥生、古墳	散布地	高岡市下北島	水田、宅地	
14	石塚江之戸遺跡	縄文晩、古墳前、古代、中世、近世	集落、散布地	高岡市上北島ほか	水田、宅地	
15	石塚五俵田遺跡	縄文後、中世	散布地	高岡市石塚字五俵田	水田、宅地	Tax San
16	石塚蜻保遺跡	縄文晩	散布地	高岡市石塚字蜻保	水田、宅地	
17	石塚六方遺跡	古代、中世	集落	高岡市石塚	水田、宅地	

	Ver rate de	N. A. Phy /b.	se mil	≓C-∕r-Uk	47 EE 77 ←	備考
	遺跡名	主な時代	種別	所在地	主な現状	7佣 45
	辻遺跡	縄文晩、古代、中世	散布地		水田、宅地 水田、宅地	
	樋詰遺跡	古代、中世				
	中保C遺跡	古墳、古代		高岡市中保	水田、宅地自動車教習所等	
-	中保A遺跡	縄文晩、弥生中、古代	散布地	高岡市中保		
22	中保B遺跡	縄文晩、弥生後、古墳前、古代、中世	集落、散布地	高岡市中保	水田、宅地	
23	辻南遺跡	古墳、古代、中世	散布地	高岡市辻	水田、宅地	
24	荒見崎北遺跡	弥生中、弥生終	散布地	高岡市荒見崎	水田、宅地	
25	西藤平蔵遺跡	古墳、古代	散布地	高岡市西藤平蔵	水田、宅地	
26	蔵野町東遺跡	古墳、古代、中世	集落、散布地	高岡市蔵野町	水田、宅地	旧HS-19遺跡
27	蔵野町遺跡	古墳、古代、中世	散布地	高岡市蔵野町	水田、宅地	
28	荒見崎村内遺跡	弥生中、弥生後、弥生終、中世	散布地	高岡市荒見崎	水田、宅地	
29	瑞龍寺遺跡	古代、中世、近世	集落、散布地	高岡市関本町	社寺、水田、宅地	
30	八丁道遺跡	古代、中世、近世	近世道路	高岡市駅南	道路	
31	下黒田遺跡	古墳、古代	散布地	高岡市京田ほか	水田、宅地	旧HS-02遺跡
32	赤祖父羽座間遺跡	古墳、古代、中世、近世	集落、散布地	高岡市赤祖父	水田、宅地	
33	出来田南遺跡	古代、中世	集落、散布地	高岡市出来田	水田、宅地	
34	中川遺跡	縄文晩、弥生後、古墳前	集落、散布地	高岡市中川1丁目	宅地、駐車場	
35	小竹藪遺跡	縄文中、縄文後、近世	集落、近世城館	高岡市古城	公園	
36	高岡城跡	近世	近世城館	高岡市古城	史跡・公園	県指定史跡
37	瑞穂町遺跡	弥生、古墳、古代、中世、近世	散布地	高岡市瑞穂町	宅地	
38	際北新遺跡	弥生終、古墳、古代、中世、近世	集落	高岡市能町	宅地	
	院内東横穴幕	飛鳥白鳳	横穴墓	高岡市山薗町	山間地	
	城光寺古墳群	古墳	古墳群	高岡市城光寺	山間地	
41	中曽根遺跡	弥生中、弥生後、弥生終、古代、中世、近世		高岡市中曽根	水田、宅地	
41	工 61以起明			PARADA I DIM		
42	越中国府関連遺跡	縄文、弥生終、古墳後、飛鳥白鳳、奈良、平 安、中世、近世	官衙、集落、散布地	高岡市伏木	宅地	県指定史跡
43	岩崎遺跡	旧石器	散布地	高岡市岩崎	耕作地	
10	7.1 PH 38.90					
44	桜谷古墳群	縄文、弥生終、古墳前、古墳中、古墳後、飛 鳥白鳳、平安、近世	散布地	高岡市太田	史跡、公園、畑	国指定史跡
			1.5.45		.1.88 16	
45	守山城跡	中世、近世	城館	高岡市二上	山間地	UP AND A LANGE DA
	堂前遺跡	縄文後,飛鳥白鳳	集落	高岡市西海老坂	水田	旧NEJ-14遺跡
47	板屋谷内BC古墳群	古墳	古墳群	高岡市板屋	水田、宅地	
48	須田藤の木遺跡	古墳、古代	集落	高岡市五十里ほか	水田、宅地	
49	頭川城ヶ平横穴墓群	飛鳥白鳳	横穴墓	高岡市頭川ほか	山間地	
50	岩坪岡田島遺跡	縄文前、弥生終、古代、中世、近世	集落、散布地	高岡市岩坪	水田、工業団地	旧NEJ-11遺跡
51	手洗野赤浦遺跡	中世	集落	高岡市手洗野	水田	旧NEJ-10遺跡
52	倉谷古墳群	旧石器,縄文、弥生後、弥生終、古墳前,中	散布地	高岡市手洗野	山間地	
04	W	世, 近世	RATIFACE .	1941-1111-1-1-1-1		
53	勝木原宮の前遺跡	縄文中、縄文後	散布地	高岡市勝木原	山間地	
54	未窯跡	平安	窯	高岡市西広谷字栂野	山間地	
55	石堤長光寺遺跡	弥生後、奈良、平安、中世、近世	集落、散布地	高岡市石堤字長光寺	社寺、水田	
56	麻生谷新生園遺跡	縄文、古墳後、古代、中世、近世	集落、散布地	高岡市麻生谷	水田、宅地	
57	麻生谷遺跡	縄文、古墳、古代、中世、近世	集落、散布地	高岡市麻生谷	水田、宅地	
58	赤丸古村遺跡	縄文、古代、中世、近世	散布地	1		
59	PT 18 1-1-1-6-304		HX-110-AET	高岡市石堤	水田、宅地	
	馬場古項群	古墳	古墳群	高岡市石堤高岡市福岡町馬場	水田、宅地山間地	
60	馬場古墳群 近世北陸道遺跡					
61		古墳	古墳群	高岡市福岡町馬場	山間地	
	近世北陸道遺跡	古墳 近世	古墳群 近世道路	高岡市福岡町馬場高岡市笹川	山間地 宅地等	
61 62	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡	古填 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世	古墳群 近世道路 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市笹川 高岡市立野	山間地 宅地等 水田	旧高田新遊跡
61 62 63	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新茅道遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市笹川 高岡市立野 高岡市駒方	山間地 宅地等 水田 水田	旧高田新遊跡
61 62 63 64	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新茅道遺跡 高田新西後遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 縄文晩、古代、中世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市住川 高岡市立野 高岡市駒方 高岡市高田新宇茅道 高岡市高田新宇西後	山間地 宅地等 水田 水田 運動場建設予定地 水田	旧高田新遊跡
61 62 63 64 65	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新茅道遺跡 高田新西後遺跡 小竹B遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 縄文晩、古代、中世 古墳、古代、中世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場高岡市佐川高岡市立野高岡市駒方高岡市高田新字茅道高岡市高田新字西後高岡市高田新字西後高岡市小竹	山間地 宅地等 水田 水田 運動場建設予定地 水田	旧高田新進跡
61 62 63 64 65 66	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新茅道遺跡 高田新西後遺跡 小竹B遺跡 小竹B遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 縄文晩、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場高岡市佐川高岡市立野高岡市駒方高田新字茅道高岡市高田新字西後高岡市小竹高岡市小竹高岡市小竹	山間地 宅地等 水田 水田 運動場建設予定地 水田 水田	
61 62 63 64 65	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新茅道遺跡 高田新西後遺跡 小竹B遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 縄文晩、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市佐川 高岡市立野 高岡市高田新字茅道 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市小竹 高岡市別方ほか	山間地 宅地等 水田 水田 運動場建設予定地 水田 水田	旧高田新遠跡 旧HS-21 遊跡
61 62 63 64 65 66	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新茅道遺跡 高田新西後遺跡 小竹B遺跡 小竹B遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 縄文晩、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場高岡市佐川高岡市立野高岡市駒方高田新字茅道高岡市高田新字西後高岡市小竹高岡市小竹高岡市小竹	山間地 宅地等 水田 水田 運動場建設予定地 水田 水田	
61 62 63 64 65 66 67 68	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新茅道遺跡 高田新西後遺跡 小竹B遺跡 小竹C遺跡 駒方南遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 縄文晩、古代、中世 建文・古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 縄文、古代、中世 縄文、古代、中世 縄文、古代、中世 縄文後、縄文晩、弥生中、弥生後、弥生終、 古墳前、古墳中、古代、中世、近世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市位川 高岡市立野 高岡市高田新字茅道 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市小竹 高岡市駒方ほか 高岡市佐川	山間地 宅地等 水田 水田 運動場建設予定地 水田 水田 水田 水田	
61 62 63 64 65 66 67 68	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新芳道遺跡 高田新西後遺跡 小竹B遺跡 小竹C遺跡 駒方南遺跡 下老子笹川遺跡 上開発遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 雄文・古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 縄文、古代、中世 縄文、古代、中世 縄文、古代、中世 縄文後、縄文晩、弥生中、弥生後、弥生終、古墳前、古墳中、古代、中世、近世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市佐川 高岡市立野 高岡市高田新字茅道 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市小竹 高岡市駒方ほか 高岡市笹川	山間地 宅地等 水田 水田 運動場建設予定地 水田 水田 水田 水田	
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新芳道遺跡 高田新西後遺跡 小竹 B 遺跡 小竹 C 遺跡 駒方南遺跡 下老子笹川遺跡 上開発遺跡 今市遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 建文・古代、中世 五墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 さ墳、古代、中世 縄文、古代、中世 縄文、古代、中世 縄文後、縄文晩、弥生中、弥生後、弥生終、古墳前、古墳中、古代、中世、近世 古代、中世 弥生、古墳、古代、中世、近世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市佐川 高岡市立野 高岡市高田新字茅道 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市外竹 高岡市駒方ほか 高岡市佐川 高岡市上開発 高岡市今市	山間地 宅地等 水田 水田 運動場建設予定地 水田 水田 水田 水田 水田	
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新芳道遺跡 高田新西後遺跡 小竹 C 遺跡 駒方南遺跡 下名子笹川遺跡 上開発遺跡 今市遺跡 本保遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 建文・古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 さ墳、古代、中世 さ墳、古代、中世 縄文次 縄文・大・大・中世 に大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市佐川 高岡市立野 高岡市高田新字茅道 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市駒方ほか 高岡市笹川 高岡市上開発 高岡市今市 高岡市本保	山間地 宅地等 水田 水田 運動場建設予定地 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田	
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新芳道遺跡 高田新西後遺跡 小竹 C 遺跡 駒方南遺跡 下老子笹川遺跡 上開発遺跡 今市遺跡 本保遺跡 三ヶ遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 建文・古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 さ墳、古代、中世 さ墳、古代、中世 二墳、古代、中世 二墳、古代、中世 二墳、古代、中世 、近世 古代、中世 、近世 古代、中世 、近世 古代、中世 、近世 古代、中世 、古代、中世 、近世 古代、中世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市佐川 高岡市立野 高岡市高田新字茅道 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市駒方ほか 高岡市陸川 高岡市上開発 高岡市今市 高岡市本保	山間地 宅地等 水田 水田 連動場建設予定地 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田	
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新芳道遺跡 高田新西後遺跡 小竹 C 遺跡 駒方南遺跡 下老子笹川遺跡 上開発遺跡 今市遺跡 本保遺跡 三ヶ遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 建文・古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 さ墳、古代、中世 さ墳、古代、中世 二墳、古代、中世 二墳、古代、中世 二墳、古代、中世 赤生、赤生後、弥生終、 古墳前、古墳中、古代、中世 赤生、古墳、古代、中世 古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市佐川 高岡市立野 高岡市高田新字茅道 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市駒方ほか 高岡市陸川 高岡市上開発 高岡市今市 高岡市本保 高岡市三夕 高岡市江尻	山間地 宅地等 水田 水田 連動場建設予定地 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田	
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新茅道遺跡 高田新西後遺跡 小竹日遺跡 小竹日遺跡 下名子笹川遺跡 上開発遺跡 今市遺跡 本保遺跡 三ヶ遺跡 正東遺跡	古墳 近世 縄文晚、古代、中世 縄文晚、古代、中世 縄文晚 縄文晚 建文・古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 建文、古代、中世 進文、古代、中世 進文後、縄文・弥生や、弥生後、弥生終、 古墳的、古墳中、古代、中世 弥生、古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 神文、弥生、古墳、中世、近世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市佐川 高岡市立野 高岡市高田新字茅道 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市駒方ほか 高岡市を川 高岡市上開発 高岡市今市 高岡市本保 高岡市本保 高岡市福岡町江尻 高岡市福岡町登島	山間地 宅地等 水田 水田 速動場建設予定地 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田	旧日S-21遺跡
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新芳道遺跡 高田新西後遺跡 小竹 C 遺跡 駒方南遺跡 下老子笹川遺跡 上開発遺跡 今市遺跡 本保遺跡 三ヶ遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 建文・古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 さ墳、古代、中世 さ墳、古代、中世 二墳、古代、中世 二墳、古代、中世 二墳、古代、中世 赤生、赤生後、弥生終、 古墳前、古墳中、古代、中世 赤生、古墳、古代、中世 古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市佐川 高岡市立野 高岡市高田新字茅道 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市駒方ほか 高岡市陸川 高岡市上開発 高岡市今市 高岡市本保 高岡市三夕 高岡市江尻	山間地 宅地等 水田 水田 連動場建設予定地 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田	旧HS-21遺跡 旧NEJ-05遺跡
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新茅道遺跡 高田新西後遺跡 小竹日遺跡 小竹日遺跡 下名子笹川遺跡 上開発遺跡 今市遺跡 本保遺跡 三ヶ遺跡 正東遺跡	古墳 近世 縄文晚、古代、中世 縄文晚、古代、中世 縄文晚 縄文晚 建文・古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 建文、古代、中世 進文、古代、中世 進文後、縄文・弥生や、弥生後、弥生終、 古墳的、古墳中、古代、中世 弥生、古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 神文、弥生、古墳、中世、近世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市佐川 高岡市立野 高岡市高田新字茅道 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市駒方ほか 高岡市を川 高岡市上開発 高岡市今市 高岡市本保 高岡市本保 高岡市福岡町江尻 高岡市福岡町登島	山間地 宅地等 水田 水田 速動場建設予定地 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田	旧日S-21遺跡
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遠跡 高田新芳道遺跡 高田新西後遺跡 小竹日遺跡 別方南遺跡 下老子笹川遺跡 上開発遺跡 今市遺跡 本保遺跡 本保遺跡 天大選遺跡 大大東遺跡 大大東遺跡 大大東遺跡 大大東遺跡 大大東遺跡 大大東遺跡 大大東遺跡 大大東遺跡 大大東遺跡 大大東遺跡 大大東遺跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道跡 大大東道 大大東道	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 建文・古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 地 大古代、中世 地 大古代、中世 地 大古代、中世 地 大古墳、古代、中世 地 大古墳・古墳、古代、中世 大古墳・古代、中世 大古墳・古代、中世 大古墳・古代、中世 大古墳・古代、中世 大大・中世 、大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市在川 高岡市市立野 高岡市南田新字茅道 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市地内 高岡市地内 高岡市を川 高岡市を川 高岡市本保 高岡市本保 高岡市福岡町野菱島 高岡市福岡町開菱島 高岡市福岡町開菱	山間地 宅地等 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田	旧HS-21邀蘇 旧NEJ-05邀跡 旧NEJ-A-03、西中、大滝日0-1邀
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遠跡 高田新夢後遺跡 小竹日遺跡 小竹日遺跡 小竹日遺跡 東方南遺跡 下老子笹川遺跡 上開発遺跡 本保遺遺跡 本保遺遺跡 正瓦遺跡 天瓦遺遺跡 石名田木舟遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 縄文晩、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 建文、古代、中世 縄文後、縄文晩、弥生中、弥生後、弥生終、古墳前、古墳中、古代、中世 弥生、古墳、古代、中世 弥生、古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 は、古代、中世 建文、弥生、古墳、中世、近世 縄文、弥生、古墳、古代、中世 に、古墳、古代、中世 に、古墳、古代、中世 に、安本・古墳、古代、中世 に、安本・大田墳、中世、近世 神世、近世 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市在川 高岡市立野 高岡市助方 高岡市高田新字西後 高岡市高田新字西後 高岡市小竹 高岡市地方ほか 高岡市を川 高岡市を川 高岡市本保 高岡市本保 高岡市石川町町町 高岡市福岡町町開発 高岡市福岡町町開発 高岡市福岡町町開発	山間地 宅地等 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田	旧HS-21遺跡 旧NEJ-05遺跡 旧NEJ-A-03、西中、大滝日0-1遺跡
61 62 63 64 65 66 67 70 71 72 73 74 75 76 77	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新芳道遺跡 高田新西後遺跡 小竹竹 C 遺跡 下名子後遺跡 下名子後遺跡 下名子後遺跡 下名子後遺跡 大門境遺跡 本保遺跡 本保遺跡 三ヶ遠遺跡 正月遺跡 本保遺跡 三ヶ城跡 一五木舟遺跡 石名田木舟遺跡	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 縄文晩、古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 建文、古代、中世 縄文、古代、中世 縄文、古代、中世 縄文、古代、中世 縄文、新生巻、新生巻、 古墳前、古墳中、古代、中世 赤生、古墳、古代、中世 赤生、古墳、古代、中世 は、古代、中世 は、古代、中世 は、古代、中世 は、古代、中世 に、中世 に、赤生、古墳、古代、中世 に、赤生、古墳、古代、中世 に、赤生、古墳、古代、中世 、近世 神世、近世 弥生、奈良、平安、鎌倉、室町、近世 中世、近世 中世、近世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市在川 高岡市立野 高岡市・朝田新字子道 高岡市・高田新字西後 高岡市・ホー・ 高岡市・ルー・ 高岡市・生開発 高岡市・生開発 高岡市本保 高岡市本保 高岡市三福岡町町野島 高岡市福岡町町町野島 高岡市福岡町町町野路 高岡市福岡町町木井・ほか 高岡市福岡町木木井・ほか 高岡市福岡町木木井・西郷	山間地 宅地等 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田	旧HS-21遺跡 旧NEJ-05遺跡 旧NEJ-05遺跡 旧NEJ-A-03、西中、大滝日0-1遺 跡
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新西後遺跡 不竹B遺跡 小竹B遺跡 小竹B遺跡 小竹方南遺跡 下老子遺跡 今市遺跡 本年遺跡 本年遺跡 本年遺跡 本年遺跡 江尾遺跡 一五十遺跡 石名木舟遺跡 石名木舟遺跡 石名東京遺跡 江東山道跡 石名東京遺跡 石名東京遺跡 石名東京遺跡 石名東京遺跡 石名東京遺跡 上野古墳群	古墳 近世 縄文晩、古代、中世 縄文晩、古代、中世 縄文晩 建文・古代、中世 大方・大・中世 大方・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市在川 高岡市立野 高岡市・野 高岡市・南田新字子道 高岡市・高田新字西後 高岡市・小竹 高岡市・小竹 高岡市・地門発 高岡市・上開発 高岡市・上開発 高岡市本年 高岡市本年 高岡市福岡町町野豊島 高岡市福岡町町町野豊 高岡市福岡町町木井ほか 高岡市福岡町町木井ほか 高岡市福岡町町木井ほか 高岡市福岡町町木井ほか 高岡市福岡町町木井にか 高岡市福岡町町木井にか 高岡市福岡町町木井にか 高岡市福岡町町木井にか 高岡市福岡町町大井にか 高岡市福岡町町木井にか 高岡市福岡町町大井にか 高岡市福岡町町大井にか 高岡市福岡町町木井にか 高岡市福岡町町大井町郷	山間地 宅地等 水田 水田 運動場建設予定地 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 水田 、宅地 水田 、空地 水田 、空地 水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、水田 、空地 、水田 、水田 、空地 、水田 、水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、空地 、水田 、地 、地 、地 、神作地	旧 H S - 2 1 遺跡 旧 N E J - 05遺跡 旧 N E J - A - 03、西中、大滝日 0 - 1遺跡 県 指定史跡 旧 福 岡 上野 道跡、福岡 上野 A 遺跡
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76	近世北陸道遺跡 立野地頭田遺跡 駒方遺跡 高田新芳道遺跡 高田新西後遺跡 小竹竹 C 遺跡 下名子後遺跡 下名子後遺跡 下名子後遺跡 下名子後遺跡 大門境遺跡 本保遺跡 本保遺跡 三ヶ遠遺跡 正月遺跡 本保遺跡 三ヶ城跡 一五木舟遺跡 石名田木舟遺跡	古墳 近世 縄文晚、古代、中世 縄文晚、古代、中世 縄文晚 縄文晚 建文・古代、中世 古墳、古代、中世 古墳、古代、中世 建文、古代、中世 進文、古代、中世 進文、諸中、古代、中世 の方墳、古代、中世 が生、古墳、古代、中世 が生、古墳、古代、中世 が生、古墳、古代、中世 大墳、古代、中世 大り、古代、中世 大り、古代、中世 大り、古代、中世 大り、古代、中世 大り、古墳、古代、中世 大り、古墳、古代、中世 大り、赤生、古墳、古代、中世 、近世 中世、近世 ・中世、近世	古墳群 近世道路 散布地 集落、散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地 散布地	高岡市福岡町馬場 高岡市佐川 高岡市立野 高岡市前方 高岡市前高田新字茅道 高岡市高田新字字西後 高岡市小竹 高岡市小竹 高岡市施方ほか 高岡市佐川 高岡市佐川 高岡市本保 高岡市本保 高岡市本保 高岡市福岡岡町町町 高岡市福岡岡町町町町 高岡市福岡岡町町町町町 高岡市福岡岡町町本舟はか 高岡市福岡岡町町木舟等西郷 高岡市福岡岡町上上町田 高岡市福岡町町上向田、上野	山間地 宅地等 水田 水田 運動場建設予定地 水田	旧 N E J - 05遺跡 旧 N E J - 05遺跡 旧 N E J - A - 03、西中、大滝日 0 - 1遺跡 県 指定史跡 旧 福 面 上野遺跡、福岡上野 A 遺跡 高 岡 市 指定史跡

第2章 遺跡の概要と過去の発掘調査歴

第1節 下佐野遺跡の概要

下佐野遺跡は、昭和38年(1963)に発見されたが、同39年の下佐野地区一帯における区画整理事業により、 旧地形は大きく改変され、遺跡上面も削平を受ける。

この時、表面採集も行われ、また最も採集量の多い地点には緊急発掘が行なわれることとなる。その結果、 弥生時代中期から後期にかけての土器等を多量に採集することとなった。

これらの成果は、昭和 42 年 (1967) に上野章氏によって紹介され、広くその存在が知られることとなった。 平成 2 年(1990)からの発掘調査を始めとする幾多の調査が行われ、下佐野遺跡をめぐっては、弥生時代後期のほか、古代・中世の歴史的様相を得るに至っている。

第2節 下佐野遺跡における既往の調査成果

下佐野遺跡は、過去に試掘調査を含め幾度も発掘調査が実施されている。以下では既往の調査成果を簡潔にまとめてみた。

明光電気地区(1990年)

下佐野遺跡における包蔵地内の北西部に位置する 210 ㎡の調査区である。主な遺構は 4 基の井戸であり、構造は縦板組横桟・縦板組無支持・曲物・素掘りのものである。これらの中には接近し重複するものがある。 推定される時期差は少なく 15 世紀を主流とし、一部は 16 世紀初頭にくだる可能性がある。

溝状遺構も井戸と同時期とみられる。比較的小型の土坑についてはやや古く14世紀代に遡るものもある。 出土遺物は土器・陶磁器類をはじめ、土製品や木製品である。数量的には中世を主体とし、続いて古代、古 墳時代と続く。遺構に伴う遺物はすべて中世である。14~15世紀を主体とし12~13世紀頃のものは少ない。

井波地区(1990年)

包蔵地内の北東部に位置し面積は 487 ㎡をはかる。主な遺構は竪穴住居である。出土遺物は弥生時代後期、古代、中世の 3 時期が確認できる。出土遺物の多くを弥生土器で占めるが、年代的にはすべて後期に属する。概してこの時期の集落跡の中心部か、もしくはそれに近い地点と推定される。

横田地区(1990年)

包蔵地内の北東部に位置し面積は387㎡をはかる。竪穴住居のほか、土坑や溝状遺構を検出した。出土遺物については、弥生時代後期をはじめ、古代や中世のものが検出されている。当地区南東の「井波地区」でも竪穴住居を検出しており、周辺には集落が形成されていたとみられる。

新田地区(1990年)

下佐野遺跡の西端の一つに位置し面積は 272 ㎡をはかる。概して遺構上面の削平が著しかったためか遺構の深度は浅いが、土坑のほか、多くが南北方向の方位を呈する溝状遺構群を検出した。古代における土師器や須恵器が出土している。

なお、当地区は現在周知する下佐野遺跡の埋蔵文化財包蔵地の最西端に位置するが、この発掘調査成果に

よりその範囲はさらに西側に拡がるものとみられる。

中尾地区(1991年)

包蔵地の北西部に位置し面積は240㎡をはかる。東側隣接地は平成2年度調査の「明光電気地区」である。 太鼓を井戸枠に転用した中世後期の井戸1基のほか、溝状遺構2条を検出した。この溝状遺構は明光電気 地区で検出したものと連結するとみられる。

出土遺物については、土師器・須恵器・珠洲・陶器類・木製品・石製品である。年代的には古墳時代から 中世後期までのものが出土しているが、遺構に伴うものは中世のものである。

なお、当地区と明光電気地区からは計8基の井戸が確認されている。両地区は中世後期が主たる時期となり、下佐野遺跡における中世集落跡の一部を垣間見たものと考えられる。

さのクリニック地区(1996年)

包蔵地の北西部に位置する。圃場整備事業等による削平を受けており、遺構検出面より上位は約 20 cmの耕作土を残すのみであった。検出遺構は土坑1基と溝状遺構3条である。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲・勾玉である。概して中世の様相が主体と考えたい。

広瀬·堀地所地区(2006年)

下佐野遺跡の西端部の一つにある、本調査250㎡、試掘75㎡・85㎡の地区である。

古代から中・近世にかけての遺構や遺物が検出されているが、平安時代前期が中心とみられる。主要な遺構は、古代の掘立柱建物1棟と中世の掘立柱建物1棟である。隣接の東木津遺跡でも古代の掘立柱建物を検出しており、前者については建物の方位・規模・時期などから双方の関連性が検討される。

一方の中世の掘立柱建物をはじめとする遺構群からは、本区南西の「井波地区」や「明光電気地区」の様相をふまえるに中世集落の存在が想定されよう。

富山県埋蔵文化財センターB地区

富山県埋蔵文化財センターが行った調査区である。下佐野遺跡の包蔵地の南東部にあたり、調査合計面積は 10.917 ㎡をはかる。

弥生時代後期から古墳時代前期のほか、古代・中世・近世の遺構や遺物が主に検出されている。主要な遺構としては、弥生時代後期から古墳時代前期に比定される墳墓と、弥生時代終末期の焼失住居が挙げられよう。また、古代の川跡からは人面墨書土器や墨書土器が出土している。

富山県埋蔵文化財センターC地区

富山県埋蔵文化財センターが行った調査区である。下佐野遺跡の南西部分にあり調査合計面積は 9,121 ㎡ をはかる。主として 9 世紀後半の遺構や遺物が確認されている。調査区の東側や南側には浅い谷を利用して つくられた水田跡や、両側に大畦畔を伴う水路や小畦畔、そして溝状遺構が検出されている。個々の水田はおおよそ 12~30 ㎡の不整形なものである。

また、大型建物を含む計 16 棟以上の掘立柱建物が確認され、祭祀跡とみられる痕跡も複数確認されている。 本調査区の西側からは、弥生時代終末期から古墳時代前期とみられる前方後方墳 1 基も検出されている。

富山県埋蔵文化財センターD地区

富山県埋蔵文化財センターが行った調査区である。下佐野遺跡の南西部分にあり調査面積は 4,795 ㎡をはかる。主として 8 世紀後半から 9 世紀後半の遺構や遺物が確認されているが、祭祀に関連するとみられるものも確認されている。

祭祀関連とみられる検出物の大半は8世紀後半から9世紀初めと、9世紀後半に分かれる。この中には馬具を装着した飾り馬を描く9世紀頃の墨画土器がある。墨画土器を出土した溝状遺構からは、人面墨書土器や、人形・馬形・斎串なども出土しており、概してこの遺構は祭祀の場であったと考えられる。

富山県文化振興財団A~C, E2, F地区

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が行った調査区である。下佐野遺跡を北東方向から南西方向につらぬくように位置し、調査合計面積は9.251 ㎡をはかる。

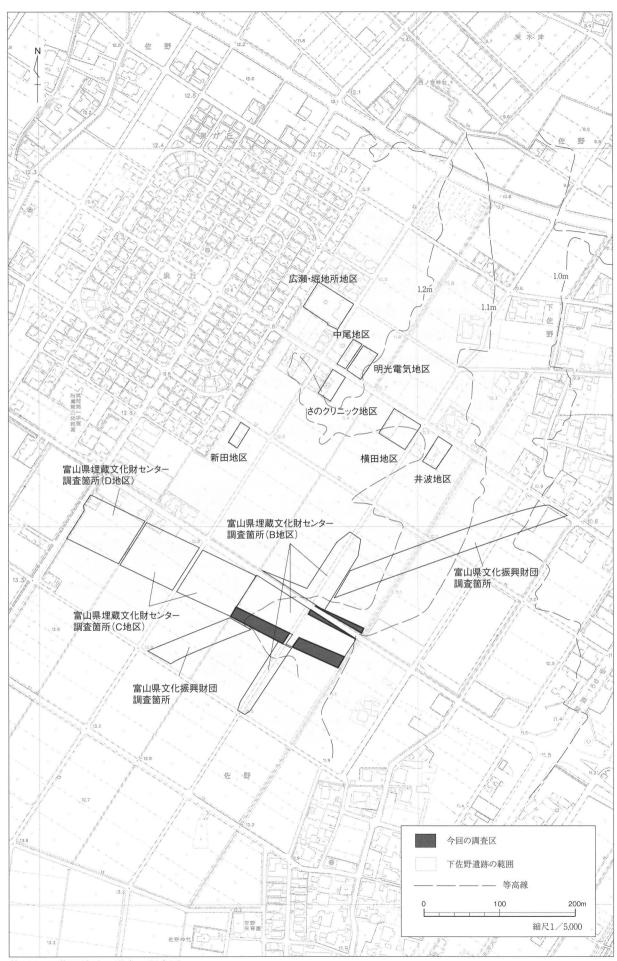
主体となる弥生時代終末期から古墳時代前期の遺構は、前方後方墳・方墳・方形周溝墓墳・竪穴住居・溝 状遺構・土坑などからなり、古墳群と竪穴住居はB地区に集中する。

主体部を残存する古墳時代初期とみられる前方後方墳が確認されている。主体部からは土師器の小破片を出土するのみであったが、周溝からは古墳時代の土師器(壺・甕・高杯・器台等)が出土している。

なお、平成19年度から21年度にかけて富山県埋蔵文化財センターと財団法人富山県文化振興財団が行なった調査結果は、概要報告に基づくものであり、今後刊行される本報告で弥生時代後期から古墳時代前期における墓制の形態等変遷が明らかにされることを期待したい。

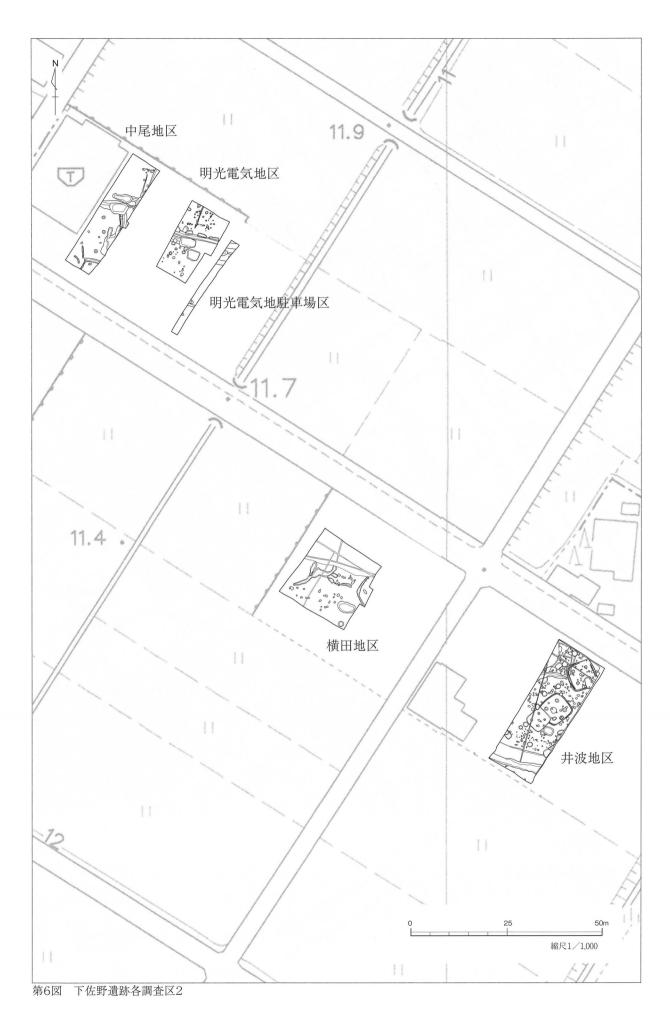
第2表 過去の調査区一覧表

界 4 衣 週 去 の 前	9.E.K. 5	見衣				
調査区名 調査機関	調査期間	調査面積 調査原因	時代	遊構 遺物		報告図書名
明光電気地区	19900416 ~19900510	210 m²	古代、中世	井戸5基 土坑7基 溝5条	土師器、須恵器、瓦質土器、珠洲、越 前、加賀、瀬戸灰釉、天目、青磁、土	下佐野遺跡調査概報 I
明光電気駐車場地区		住宅建設	D107 4.16:	井戸2基 土坑1基 溝1条	錘、井戸材、漆器椀、木簡、曲物、折 敷、箸、部材	
井波地区	19980826 ~19981216	487 m²	弥生時代後 期. 古代. 中	竪穴住居3軒 土坑23基 溝3条 凹地2基	弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、青	市内遺跡調查概報I
		住宅建設	# #	EXCENSE HANGE	磁、白磁、翡翠の勾玉、砥石、骨片	
横田地区	19980506	387 m²	弥生時代後 期,古代,中	竪穴住居1軒 土坑4基 溝3条	弥生土器、土師器、須惠器、珠洲、青	市内遺跡調査概報Ⅱ
	~19980603	住宅建設	世		磁、砥石	
新田地区	19980413	272 m²	奈良平安	土坑9基	土師器、須恵器	市内遺跡調査機報IX
	~19980820	住宅建設				
中尾地区	19980708 ~19980830	240 m²	古代、中世	井戸1基 土坑4基 溝7条 凹地1基	土師器、須恵器、珠洲、陶器類、土 錘、太鼓、曲物底板、折敷底板、砥	市內遺跡調查機報I
		住宅建設			石、五輪塔	
さのクリニック地区	19961115 ~19961215	298 m² 試掘24 m²		土坑、溝	勾玉、土師器、須恵器、珠洲	市内遺跡調査機報V
		住宅建設				
広瀬・堀地所地区	20060614 ~20060707	250㎡ 試掘160㎡	半安時代前	据立柱建物 2 棟 柵址 2 条 土坑4基 溝19条 ピット282基 土坑11基 溝28条 ピット69基	土師器、須恵器、八尾、瀬戸美濃、越 中瀬戸、鞴羽口、漆器椀、鉄さい	下佐野遺跡調査報告
		住宅建設	世			
富山県埋蔵文化財センター	ター 20070417 ~20071227		方形周溝墓15基、前方後方形周溝墓2 基、土坑墓、土坑、川、竪穴住居(焼失		富山県埋蔵文化財センター	
B地区		道路改良	世、近世	住居)、掘立柱建物4棟、井戸、畠、水 路	香土希	年報 一平成19年度一
富山県埋蔵文化財センター	センター 20080414 ~20081224	80414 9,121m 墳前期、古仁		前方後方墳1基、掘立柱建物16棟、土	 土師器(椀・鍋・甕)須恵器(壺・甕・ 杯)土錘、製塩土器、「西大家」「富	富山県埋蔵文化財センター 年報 - 平成20年度 -
C地区		道路改良	(9c後半)、中 世、近世	- 「	の墨書土器、転用硯、歯口	
富山県埋蔵文化財センター	zンター 20090507 ∼20091214	4, 797 m²	77.3371- 13.54	 溝状遺構(祭祀遺構含む)、道路状遺 構、橋状遺構、島状遺構、区画溝、土	木製祭祀遺物(人形、馬形、斎串、木 皿、舟形、火臼) 須恵器(杯、蓋、甕、	富山県埋蔵文化財センター
D地区		道路改良	中世、近世	坑	高杯、硯)土師器 (甕、椀) 墨書土器、 墨画土器	年報 一平成21年度一
富山県文化振興財団		9, 251 m²	弥生終末~古 墳前期、古	前方後方墳、方墳、方形周溝驀、円形周溝墓、竪穴住居、溝、土坑、掘立柱	土師器(甕、壺、高杯、器台)、「市」「大 」の墨書土師器椀、須恵器、中世土師	平成21年度埋藏文化財年報
A~C, E 2, F地区		北陸新幹線 関連	代、中世、近世	Zile frie rit	器、珠洲、木製品、青磁、白磁、石製 品、金属製品、土製品	



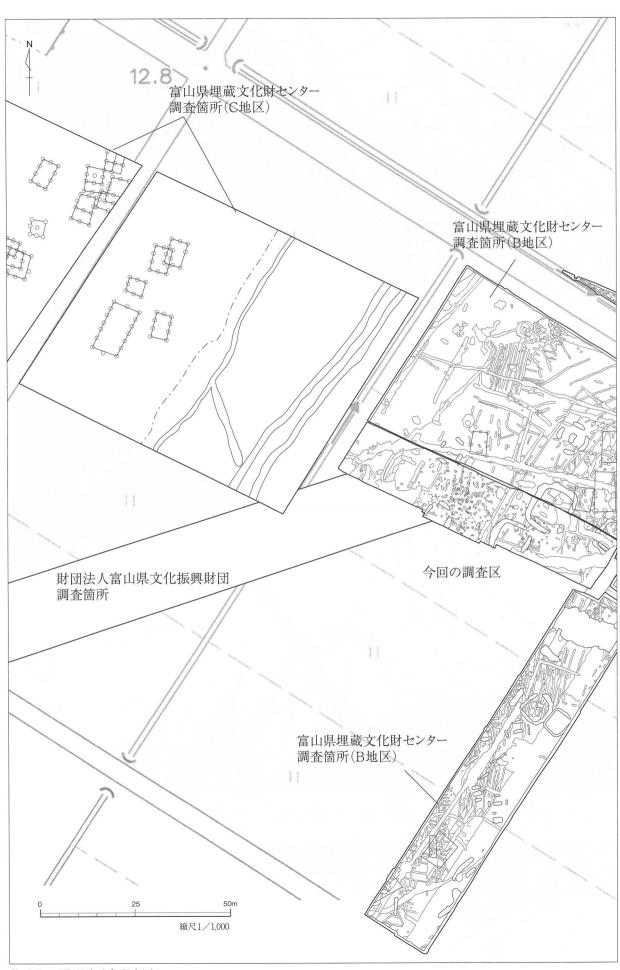
第4図 下佐野遺跡の過去の調査区







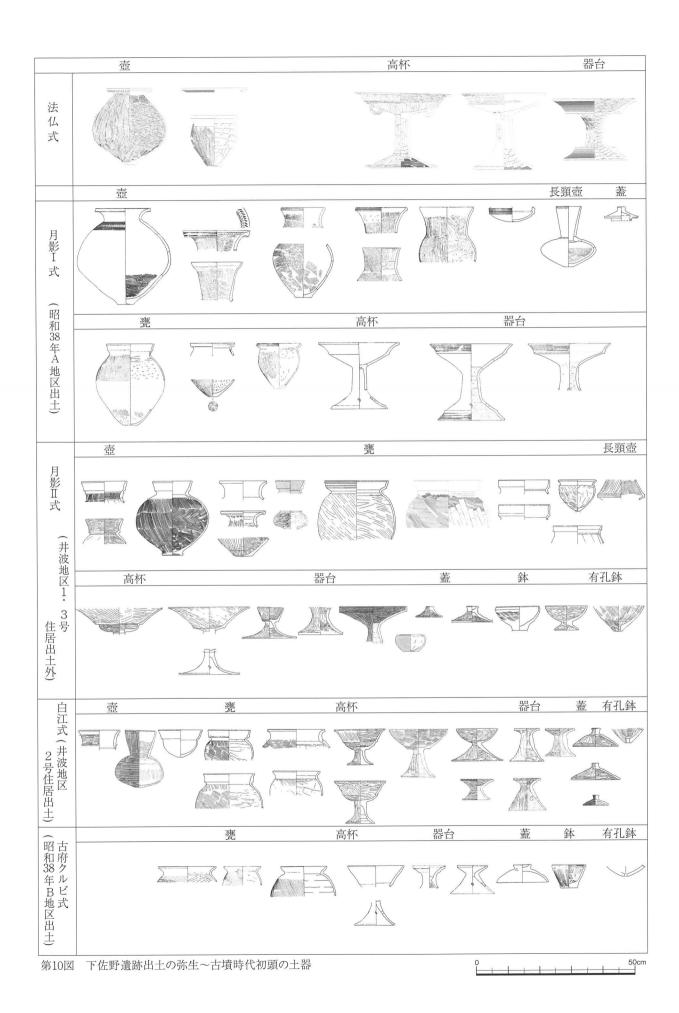
- 14 -



第8図 下佐野遺跡各調査区4



第9図 下佐野遺跡各調査区5

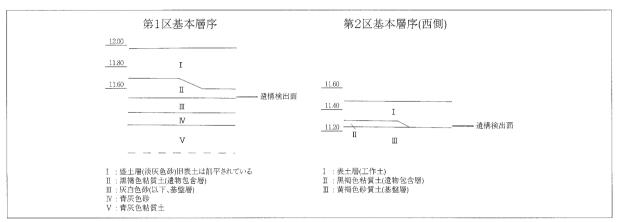


第3章 調査の概要

第1節 概要

1. 基本層序

基本層序は、耕作土及び盛土層が約20~30 cm堆積し、そして部分的に黒褐色粘質土(遺物包含層)が堆積しており、その下は黄褐色砂質土・灰白色砂等(地山)である。調査区は、圃場整備に伴う削平を受けているが、佐野台地に立地しており西から東に向かって緩やかに傾斜している。



第11図 基本層序

2. 検出遺構概要

検出遺構は、方形周溝墓 5 基をはじめ、掘立柱建物 11 棟、柵 4 条、井戸 5 基、溝状遺構 47 条、土坑 102 基、凹地 10 基、ピット多数、自然流路 2 条である。年代的には弥生時代~古墳時代・古代・中世以降の 3 時期に区分できる。

第1区が本調査地区の西側に位置し、遺物包含層が堆積しており遺構検出面が高く、多くの遺構と遺物を 検出した。弥生時代後期から古墳時代初頭の方形周溝墓が3基検出しているが、隣接する調査区でも幾つか の方形周溝墓が確認されており、その結果を踏まえると2基の方形周溝墓が確認できた。この調査区の中央 部に重複する掘立柱建物、井戸を検出しており、東側には第2調査区に続く自然流路がある。弥生時代か~ 古墳時代の遺構はこの調査区のみ確認した。

第2区では遺構数が減り、西側は遺物包含層が薄く表土下は地山が露出しており遺構が検出されたが、東側は腐植土層に覆われた凹地が占める。中央よりやや東側に、凹地の間にも遺構を確認した。

第3区は狭小であり、撹乱と凹地が占めるが、わずかに遺構を検出している。凹地は第2区から続くものと考えられる。

第4区も狭小であるが、東側に遺構が密集しており、掘立柱建物や柵を検出している。

3. 出土遺物概要

遺物の出土は次の通りである。弥生時代後期からの遺物があり、古墳時代、古代、中世、近世の遺物が確認されている。

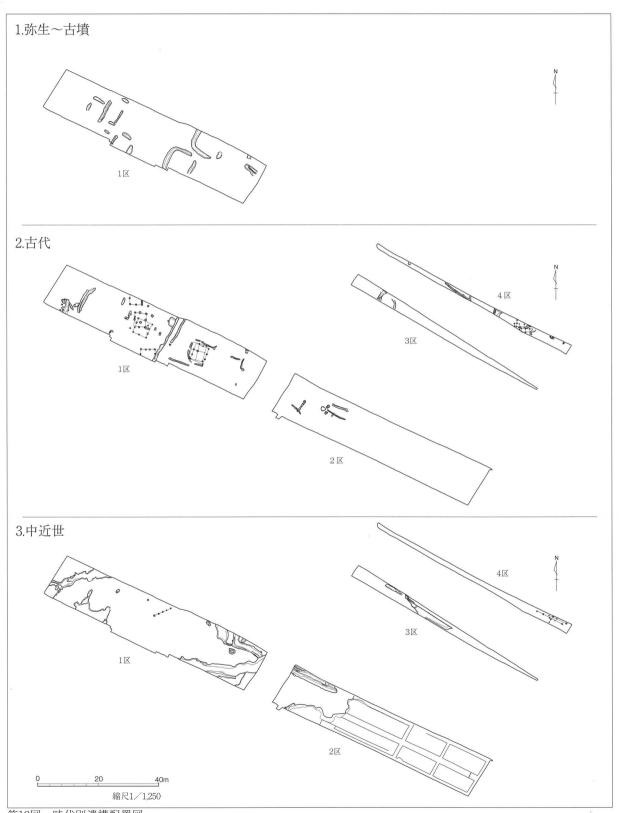
土器類 弥生土器、土師器、須恵器、青磁、珠洲焼、瀬戸・美濃焼、越中瀬戸、

木製品 漆器、曲物、下駄、箸状木製品、部材(板・角材)ほか

土製品 土錘

その他 キセル、古銭

調査区別に見ると、第1区からは弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、青磁、木製品が出土しており、第2区からは弥生土器、土師器、須恵器、木製品、土製品、古銭など、第3区は弥生土器、土師器、須恵器など、第4区は弥生土器、土師器、須恵器、中・近世陶磁器などが確認されている。



第12図 時代別遺構配置図

第2節 遺構

1. 弥生時代~古墳時代

方形周溝墓

方形周溝墓 SZ01 (図面一二)

1 区のグリッド 6~7-11~13 区で検出した方形周溝墓であ る。周溝のうち、北側周溝と東西側周溝を検出した。3 隅以上 の陸橋を有する。

周溝外側のところで東西 7.6mをはかる。西側の周溝が他に比 してやや狭い。西側周溝は全長 3.32m・幅 0.57~0.96m・深さ 0.6mをはかる。北側周溝は全長 3.33m・幅 0.89~1.24m・深さ 0.95mで、東側周溝は全長 3m・幅 1.08~1.72m・深さ 0.6mで ある。

土層は周溝の外側から徐々に堆積した状況がみてとれ、自然 堆積の可能性がある。遺構覆土からは土師器や須恵器が出土し ているが、後世の流れ込みと思われる。

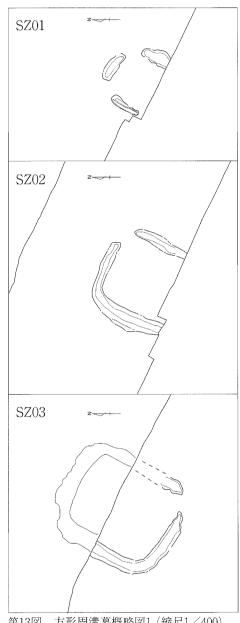
方形周溝墓 SZ02 (図面一三)

1 区のグリッド 9~11-10~12 区で検出した方形周溝墓であ る。南側は調査区外に達し、北東側の周溝は自然流路NR01に よって切られている。

墓の規模は周溝外側で東西 10.2mをはかる。北東部にのみ陸 橋を確認しているが、周辺調査区と照合するに陸橋はこの北東 部のみの可能性がある。

北東側周溝は全長 12.7m・幅 0.88~1.68m・深さ約 0.9mであ る。西側周溝は全長 4.88m・幅 1.06~1.2m・深さ 0.6mである。 西側周溝が他に比してやや広く掘り込まれている。

土層の堆積状況は、周溝の底部にシルト質や砂質の土層が堆 積しており自然堆積とみられる。遺物は弥生土器のほか、土師 器や須恵器が出土しているが、後世の流れ込みが含まれるもの と考える。(図面四六・四七 24・41)



第13図 方形周溝墓概略図1(縮尺1/400)

方形周溝墓 SZ03 (図面一四)

1区のグリット11~13-11~13区で検出した方形周溝墓である。SZ02とは主軸を同じくし、同時期ない しは双方を意識して造営された可能性がある。北側は調査区外へと達するが、隣接する調査区ではこの延長 部分が検出されている。遺構の規模は周溝の外側で東西 11.2m・南北 7.6mをはかる。陸橋は南東部に 1 箇所 存在する。

各周溝は、幅 1.2~1.7mとほぼ同規格でつくられている。土層の堆積は他と同様に自然堆積とみられる。

周溝からは須恵器や陶磁器片が出土しているが、後世の混入と 考えられる。(図面四四・五四 6・197)

方形周溝墓 S Z 04 [S K 13] (図面二三)

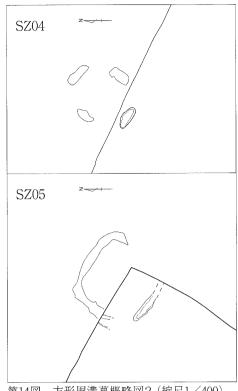
1区のグリッド6~7-15区で検出した方形周溝墓である。 調査時は土坑としていたが、後年の隣接区の調査成果により、 四隅に陸橋を有する方形周溝墓の一部であることが判明した。 主軸はSZ01と同様に西へ約30度傾く。

本調査区でみられた周溝の規模は、長軸 2.48m・短軸 1.08m の楕円形を呈する。深さは 0.31mをはかり、 S Z 01 等と比べる と若干浅い。遺構覆土は粘質土を主とした自然堆積であり、周 溝からは弥生土器が出土している。(図面四五 16)

方形周溝墓 S Z 05 [S D 38 · 40] (図面三八)

1 区のグリッド 15-10~11 区で検出した方形周溝墓である。 屋外調査の段階では2条の溝状遺構と認識していたが、後年に 隣接地が発掘調査され、方形周溝墓であることが判明した。

北西側周溝となるSD38は、北側が調査区外に続き、南側は SD32に切られる。南西側周溝となるSD40は東側が自然流路



第14回 方形周溝墓概略図2(縮尺1/400)

NR01に切られる。 並行するSD39との新旧関係は、断面観察の結果から本遺構の方が古いことが確認され ている。

なお、この方形周溝墓の北隅と東隅には陸橋がない。このためSD38とSD40の端部が注目されたが、中 世以降に造営された溝状遺構 S D32 の存在により不明となっている。

S D 38 は全長 1.19m以上・幅 1.1~1.2m、S D 40 は全長 3.2m・幅 0.6~0.9mをはかり、深さは 0.17mであ る。遺物は弥生土器のほか、後世の混入遺物とみられる土師器や須恵器が出土している。(図面四四 3・9)

その他の遺構

1区のSZ01付近では方形周溝幕と主軸の傾きをほぼ同じくする溝状遺構4条と土坑3基検出している。 これらのうち、SD07・SD08・SK10とSK18・SK19は方形周溝墓となる可能性も考えられるが、それ ぞれの配置や断面形状など肯定し難い要素をあるため、ここでは個別の遺構として以下に解説する。

溝状遺構 SD07 (図面三四)

1区のグリッド4~5-15区で検出した、北西から南東方向にはしる溝状遺構である。本遺構の主軸がSD 08 らに対し垂直方向となるため双方の関連性も検討したい。全長 4.26 m ・幅 0.7~1.0 m をはかり、深さは 0.34mを呈する。土師器が出土している。

溝状遺構 SD08 (図面三四)

1区のグリッド5~6-14~15区で検出した、北東から南西方向にはしる溝状遺構である。

主軸がSD07のそれと垂直となるが、北端はSD07よりも北側に飛び出す格好となる。また、土層断面をみる限り二度にわたり掘削された可能性があり、拡張もしくは他の遺構と重複をした可能性がある。SD05及び06と並行しており、その関係性を視野に入れたい。

規模は、全長 8.08m・幅 0.9~1.3m・深さ 0.44mをはかる。遺構覆土は上層が黒色粘質土を呈するが、下層は黄色土が堆積する自然堆積とみられる。土層の断面形状をみるに段差が存在する。西側が一段低く底面には平坦面をもつ。弥生土器や土師器が出土している。(図面四五 17)

溝状遺構 SD09 (図面三四)

1 区のグリッド 6-14 区で検出した北東から南西方向にはしる溝状遺構である。全長 4.74m・幅 $0.4\sim0.6$ m・深さ 0.18mをはかる。遺構覆土は黒色粘質土の単一層であり、土師器片が出土している。

溝状遺構 SD39 (図面三八)

1 区のグリッド 14~15-10~11 区で検出した、北西から南東方向に方位をとる溝状遺構である。SD40 に沿うように東西方向にはしる。

北西側をSD32 に、そして南東側を自然流路NR01 に切られる。SD38 との関連性も考えられるが、主軸の方位がSD38 を含む方形周溝墓のそれと若干異なるため、時期の似た別の遺構であると思われる。SD40 を切っており、これより新しい溝状遺構と判断できる。

規模は、全長 4.57m以上・幅 0.6~1.1m、深さは 0.2m と浅い。遺構覆土の堆積状況は黒色の砂質土を主体とした自然堆積である。弥生土器のほか、土師器や須恵器が出土している。

土坑 SK10 (図面二三)

1 区のグリッド $4-14\sim15$ 区で検出した土坑である。長軸の方位は北東から南西方向を呈する。南側を凹地 S X 01 に切られており、溝状遺構 S D 07 に対しては垂直に、S D 08 には平面的に並行関係にある。

規模は、長軸 2.7m以上・短軸 0.99m・深さ 0.39mをはかり、概して SD07 や 08 と近似する。遺物は土師器や須恵器が出土しているが、後世の可能性が考えられる。

土坑 SK18 (図面二四)

1区のグリッド5~6-13~14区で検出した、主軸を北西から南東方向にもつ土坑である。

完形に近い高杯2点が遺構底面において横たわる状態で出土している。この出土状況から、土坑内に高杯が据え付けられたまま放置され、やがて転倒し年月とともに埋没したものと思われる。このことから、墓等に関連する祭祀遺構の可能性を提起したい。

なお、上記をめぐっては周溝をもたない土坑墓の可能性もある。本遺構については断面形が逆台形型を呈 し、且つ底面に平坦面をもつなど、土坑墓とする要素も有する。

長軸 2.27m・短軸 0.83m・深さ 0.5mである。平面形は不整楕円を呈し、遺構覆土は黒色粘質土を主体とした自然堆積とみられる。上記した高杯以外にも、土師器や須恵器片が出土している。(図面四五 12・13)

土坑 SK19 (図面二四)

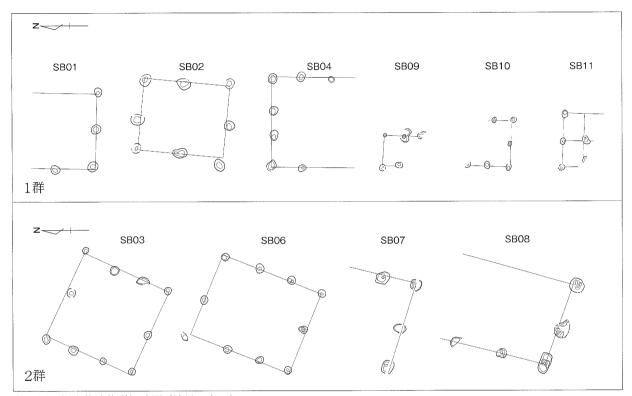
1区のグリッド 5-13 区で検出した、主軸を北西から南東方向にもつ土坑である。S K 18 と並行し、北西側をS X 01 に切られる。長軸 1.78m以上・短軸 0.72m・深さ 0.49mをはかる。遺物は土師器が出土している。

2. 古代

掘立柱建物

今回の調査では、合計 11 棟の掘立柱建物を検出した。建物の方位やその配置からおおよそに大別が可能とみられる。正方位に対し $0\sim5$ 度ほど東方に傾く掘立柱建物 S B $01\cdot02\cdot04\cdot09\cdot10\cdot11$ の一群と、同 20 度ほど東方に傾く S B $03\cdot06\cdot07\cdot08$ の一群がそれである。

なお、SB05のみ特異な方位を呈しこの2群に含まれない。以下、各掘立柱建物の概要を解説する。



第15図 掘立柱建物群概略図 (縮尺1/200)

掘立柱建物 SB01 (図面一五)

1区のグリッド 7~8-14~15区で検出した側柱構造の掘立柱建物である。調査区内では桁行は1間以上と 梁行を2間検出したのみである。建物の北側は調査区外へと達する。が、隣接する調査区内ではこの延長部分が検出されていないため、2間×2間の規模を呈すると考えた。

調査区内で検出された範囲では桁行 2.0m以上(1 間以上)・梁行 4.0m(2 間)となる。ただし、上記の組立が正しければ柱間は桁・梁行とも 2.0mに達するため、他の事例に比して広いかと思われる。

建物の方位は N-2°-E で、SB02・04・09・10・11 とほぼ同方位である。掘方ないし柱穴の面形は不整楕円ないし不整円形、断面形はすり鉢状を呈する。土師器が出土している。

掘立柱建物 SB02 (図面一六)

1区のグリッド 7~8-13~14区で検出した掘立柱建物である。2間×2間の側柱構造の建物であるが、東西方向に比して南北方向が長い。SB03と平面的に重複するが新旧関係は不明である。全容が把握できる建物のうち最も床面積の小さい建物となる。

建物の規模は桁行 4.6m・梁行 3.6m、床面積は 16.56 ㎡をはかる。方位は N-6°-E を呈するが、SB01

とは建物の配置や方位などに意識的なものがみられ、SB01を考慮して建てられたものと考えられる。

掘方ないし柱穴は、不整楕円ないし不整円形の平面形を有し断面形はすり鉢状を呈する。柱間は不同であるが桁行はおおよそ 2.3m 間隔である。遺物は出土しなかった。

掘立柱建物 SB03 (図面一六)

1 区のグリッド $7 \sim 8 - 12 \sim 14$ 区で検出した S B 02 と切り合う掘立柱建物である。 3 間 $\times 2$ 間の側柱構造の建物であるが、平面形は正方形に近い規格をもつ。

建物の方位は N-25°-E で、SB06・07・08 とほぼ同方位となる。掘方ないし柱穴の平面形は不整楕円ないし不整円形、断面形はすり鉢状を呈する。土師器片が出土している。

掘立柱建物 SB04 (図面一七)

1 区のグリッド 8~9 – 11 区で検出した側柱構造の掘立柱建物である。建物の南側が調査区外に達しており全容は把握されていないが、現状では 3 間 $(4.8 \text{m}) \times 2$ 間以上 (3.2 m) 上) の規模を呈することを確認した。

柱間は南北方向 1.6mの等間隔であるのに対し、東西方向は 1.8・1.2・1.8mと同一ではない。建物の方位は S B 01 と同様にほぼ正方位である。掘方ないし柱穴の平面形は不整楕円ないし不整円形を呈する。遺物は出土しなかった。

掘立柱建物 SB05 (図面一五)

1 区のグリッド $11\sim12-11\sim12$ 区で検出した 2 間×2 間の側柱構造を呈する掘立柱建物である。桁行は 5.6 m・梁行は 4.8mをはかり、床面積は 26.88 ㎡となる。柱間は一定ではない。

方形周溝墓 S Z 02 及び 03 を切る。また S B 06 とも平面的に重複する。建物の方位は N - 13° - E である。 今回の調査区内で検出された掘立柱建物は方位により二大別されるが、この S B 05 のみ特異な方位を呈しており、そのいずれにも該当しない。 掘方ないし柱穴の平面形は不整楕円ないし不整円形、 断面形は逆台形状を呈する。 土師器が出土している。

掘立柱建物 SB06 (図面一七)

1 区のグリッド $11\sim12-10\sim12$ 区で検出した 3 間×2 間の側柱構造をもつ掘立柱建物である。桁行は 5.6 m・梁行 4.6mを呈するが、柱間は一定ではない。床面積は 25.76 ㎡をはかる。

SB05とはその大部分が重複する。方形周溝墓SZ02及び03を切る。

建物の方位は N-22°-E を呈し、S B 03・07・08 と共通する。掘方ないし柱穴の平面形は不整楕円ないし不整円形、断面形はすり鉢状を呈する。土師器が出土している。

掘立柱建物 SB07 (図面一八)

2 区のグリッド $18\sim19-8\sim10$ 区で検出した側柱構造を呈するとみられる掘立柱建物である。北側大部分は調査区外に達しており、現状では梁行方向 1 間 (4.6m) 以上と桁行方向 2 間 (4.4m) 以上を確認したのみである。

柱間は現状では桁行・梁行とも 2.2m前後である。 S B 08 と重複するが新旧関係は不明である。

建物の方位は $N-22^{\circ}$ -E を呈する。また他の建物に比してやや大きな掘方ないし柱穴で構成されている。 これらの平面形は不整方形ないし不整楕円、断面形は不整形を呈し、底面の高さは不揃いである。 覆土は上 層に黒色粘質土と下層に暗黄灰色砂が堆積する。

掘立柱建物 SB08 (図面一九)

2区のグリッド17~18-8~9区で検出した側柱構造の掘立柱建物である。SB07と平面的に重複する。北側は調査区外に達しており、今回の調査では桁行方向2間(4.8m)以上と、梁行2間(4.4m)を確認したのみである。北側同様、西側も調査区外へと達するものと思われ、概して今回検出された建物の中では比較的大型の建物となる可能性をもつ。

梁行方向の柱間は 1.8mをはかる。一方の桁行方向はいまのところ 2.4mで一定する。建物の方位は $N-18^\circ$ -E であり、 $SB03 \cdot SB06 \cdot SB07$ とは概ね同様の方位を呈する。掘方ないし柱穴は、不整方形ないし不整楕円の平面形を呈する。断面形は方形を呈し底面は概ね一定である。土師器や須恵器が出土している。

掘立柱建物 SB09 (図面一九)

4区のグリッド32~33-13区で検出した掘立柱建物である。全容は不明ながら概ね2間以上×1間以上の総柱構造を呈する可能性がある。

建物の規模は桁行方向 1.9 m・梁行方向 1.6 m をはかる。建物の方位は $N-3^\circ$ -E を呈し、SB10 や 11 と同方位となる可能性がある。掘方ないし柱穴の平面形は、不整楕円ないし不整円形、断面は逆台形状を呈し底面の高さは必ずしも一定ではない。遺物は出土しなかった。

掘立柱建物 SB10 (図面二〇)

4 区のグリッド $32\sim33-13$ 区で検出した側柱構造の掘立柱建物である。建物の北側は調査区外へと達しており、今回の調査区では桁行 2 間(2.2m)以上×梁行 2 間(2.4m)を確認したのみである。

建物の方位は N-2°-E を呈し SB09 や 11 と同様である。掘方ないし柱穴平面形は、不整楕円ないし不整円形、断面は逆台形状を呈する。遺物は出土しなかった。

掘立柱建物 SB11 (図面二〇)

4区のグリッド33-12~13区で検出した掘立柱建物である。

総柱構造の可能性をもつが、南側が調査区外に達しており、現状では桁行 1 間($1.0 \,\mathrm{m}$)×梁行 2 間($3.0 \,\mathrm{m}$)を確認したのみである。柱間も一定ではない。

建物の方位は N-5°-E であり、1 区の S B 01・02・03、また 2 区の S B 09・10 と同様の方位を呈する。 掘方ないし柱穴の平面形は不整円形である。 断面形は逆台形状が多く、 底面は概ね一定である。 遺物は出土しなかった。

溝状遺構

調査区内では多数の溝状遺構を検出している。このうち古代に属する可能性をもつものは 28 条である。1 区では道路状遺構の側溝と思われるものなどを検出している。以下では、遺構の性格を想定できるものについて解説する。

溝状遺構 SD05·06 (図面三二)

1 区のグリッド $3\sim5-14\sim15$ 区で検出した溝状遺構である。 S D 05 と 06 は平面的に並走関係にあり、と

もに南北方向にはしる。

SD05 については、南北端をそれぞれ凹地 SX01 と SD02 により切られる。土師器や須恵器が出土しており古代に属する可能性がある。

規模は、SD05 が全長 8.28m以上・幅 $0.5\sim0.7$ m・深さ 0.28mを呈する。SD06 は全長 9.34m・幅 $0.6\sim1.1$ m・深さ 0.32mである。SD05 の土層の堆積状況については黒色粘質土の単一層である。これに対しSD06 は 2 層に分層でき、上層は黒色粘質土層、下層は黄褐色粘質土層である。(図面四七~五〇・五三・五五 $44\cdot73\cdot99\cdot127\cdot143\cdot179\cdot186\cdot222$)

溝状遺構 SD17 (図面三五)

1 区のグリッド 8~10-11~14 区で検出した溝状遺構である。北東方向から南西方向にはしる溝状遺構であり、両端は調査区外へと達する。隣接する富山県教委の実施した発掘調査成果と照合するに、後述する S D18 と対をなし、道路状遺構となる可能性が考えられる。

今回の調査区内では全長 16.7m以上・幅 0.4~1.5m・深さ 0.3mをはかる。掘立柱建物 S B 0.4 と土坑 S K 48 に切られる。覆土 2 層に分層でき、上層が黒褐色粘質土であるのに対し、下層は黒褐色を主体としたシルト層が堆積している。須恵器の杯が多く出土している。(図面四四・四六・四八~五〇 5・31・34・77・81・82・132・133・137)

溝状遺構 SD18 (図面三五)

1 区のグリッド $10\sim11-12\sim13$ 区で検出した溝状遺構である。S D17 と同様に北東方向から南西方向に並走する溝状遺構であり、双方で道路遺構を構成していた可能性がある。また、S Z02 の掘方部分と重複しているため明瞭ではないが、S D19 もまた本溝状遺構の続きにあたる可能性も考えられる。

本遺構の北側は調査区外へと達する。が、確認できる範囲では全長 8.86m以上・幅 0.5~0.7m・深さ 0.32 mを呈しており上記の S D17 と同規模である。土層は暗灰色粘質土に黄褐色砂質土が混在する単一層である。土師器や須恵器の破片が出土している。

溝状遺構 SD21 (図面三五)

1 区のグリッド $9\sim11-10\sim11$ 区で検出した溝状遺構である。西北西方向から東南東方向に方位をとり、道路遺構の可能性をもつ S D 17 や 18 とは概ね直交する。この状況から、道路遺構から派生する区画溝となる可能性があるかと思われる。

確認できた範囲では全長 10.5m程度・幅 0.3~0.6m・深さ 0.17mを呈する。覆土は黒褐色粘質土と黄褐色 砂質土との混土層である。須恵器片が出土している。(図面四八 94)

なお、本遺構から北東側に直交する S D 20 と 24 についても、S D 17 や 18 と平行するため、同様の性格を有すると考えられる。

溝状遺構 SD22 (図面三六)

1 区のグリッド $12\sim13-12$ 区で検出した溝状遺構である。西北西方向から東南東にはしり、東端付近で北側へと湾曲しSD27 に切られる。

全長 5.54m以上・幅 $0.2\sim0.5$ m・深さ 0.24mをはかる。遺構覆土は黒色粘質土の単一層である。須恵器の 稜椀が出土している。(図面四八 85)

溝状遺構 SD23 (図面三六)

1 区のグリッド $11\sim12-10\sim12$ 区で検出した溝状遺構である。北西方向から南西方向へと湾曲し、南東に達する。

全長 16.42m・幅 $0.45\sim0.5$ m・深さ 0.16mをはかる。覆土は黒色粘質土の単一層である。周辺遺構との新旧関係については、方形周溝墓 S Z $02\cdot03$ と溝状遺構 S D 26 を切るが、S D 25 には切られる。とくに遺物は出土していない。

溝状遺構 SD37 (図面三八)

1 区のグリッド $14-10\sim11$ 区で検出した南北方向にはしる溝状遺構である。北側は S D 32 に切られるが、 S D 36 とは同一の遺構であった可能性が考えられる。

全長 3.45m程度・幅 0.2~0.5m・深さ 0.15mの規模を呈する。遺構覆土は 2 層に分層でき、上層は黒褐色シルト質土、下層は黄褐色砂質土である。土師器や須恵器の杯が出土している。(図面四六・四七 32・42)

溝状遺構 SD46·47 (図面四○)

2区のグリッド20~21-7~8区で検出した並行する2条の溝状遺構である。

北西方向から南東方向へとはしり東端は凹地 S X 02 に切られる。富山県教委の発掘調査した隣接調査区からはこの延長上とみられる溝状遺構が検出されている。遺構の間隔などから区画溝の可能性が考えられる。ちなみに S D 46 と S D 47 のそれは $2.0\sim2.4$ m である。

S D 46 については、全長 6.8m以上・幅 $0.2\sim0.5$ m・深さ 0.16mをはかる。S D 47 は幅 $0.5\sim0.6$ m、深さ 0.23mをはかり、全長は調査区内では 5.86mである。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

溝状遺構 SD51 (図面四一)

3区のグリッド24-14~15区で検出した南北方向にはしる溝状遺構である。僅かに東方へと湾曲し、南側は調査区外に達する。

規模は全長 3.87m以上・幅 $0.45\sim0.65$ m・深さ 0.23mをはかる。遺構覆土は黒色粘質土の単一層である。 弥生土器や土師器が出土している。(図面四六 26)

溝状遺構 SD58

4 区の 33~34-12~13 区で検出した南北にはしる溝状遺構である。平面形は不整形を呈し、北側は調査区外に達する。

規模は、全長 2.46 以上m・幅は 0.3~1.4m・深さ 0.11mをはかる。土師器の甕が出土している。(図面五二 168)

土坑

土坑 SK04 (図面二二)

1 区のグリッド $3\sim4-14\sim15$ 区で検出した土坑である。平面形は楕円形を呈し、南側の S K 05 を切る。規模は長軸 1.6m・短軸 0.88m・深さ 0.4mを呈する。弥生土器のほか、土師器や須恵器が出土している。(図面四五・四七 $15\cdot40\cdot56$)

土坑 SK20 (図面二四)

1区のグリッド 6-13区で検出した土坑である。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸 1.00m・短軸 0.50m・深さ 0.26mをはかる。遺構覆土は黒色と黒褐色の粘質土が堆積し、土師器が出土している。(図面四四 10)

土坑 SK42 (図面二六)

1区のグリッド 8-13区で検出した土坑である。SB02と切り合うが新旧関係は不明である。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸1.40m・短軸0.93m・深さ0.18mをはかる。土師器、須恵器が出土している。(図面四六 25)

土坑 SK43 (図面二六)

1 区のグリッド $8\sim9-13$ 区で検出した土坑である。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸 $0.58\,\mathrm{m}$ ・短軸 $0.44\,\mathrm{m}$ ・深さ $0.38\,\mathrm{m}$ をはかる。 須恵器のほか柱根も検出されている。

土坑 SK45 (図面二六)

1 区のグリッド $9-12\sim13$ 区で検出した土坑である。南接する S K 46 を切る。規模は長軸 0.54 m・深さ 0.14 m を呈する。 弥生土器と土師器が出土している。(図面四六 21)

土坑 SK48 (図面二七)

1 区のグリッド 9~10-13~14 区で検出した土坑である。平面形は不整方形を呈し、規模は長軸 3.53m・短軸 2.18m・深さ 0.28mをはかる。遺構覆土は 2 層に分層でき、上層は明灰色粘質土、下層は暗灰色粘質土が堆積する。土師器と須恵器が出土している。(図面四八 74)

土坑 SK72 (図面二九)

3 区のグリッド $19\sim20-7\sim8$ 区で検出した土坑である。平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 1.56m・短軸 1.4m・深さ 0.12mをはかる。覆土は暗灰褐色砂質土を主体とする。土師器や須恵器が出土している。(図面四九 121)

3. 中・近世

今回の調査では、弥生時代や古代の遺構の他に、中世から近世に属すると思われる遺構を確認している。 複数の時期の遺物が混在するため、出土遺物からの明確な時代の特定は難しく、ここでは中・近世の遺構と して取りまとめることとする。ここで上げる遺構は、井戸・柵・溝状遺構・凹地・自然流路である。

井戸 (図面二一) (図面五五 209·224)

1 区のグリッド 12-13 区から 3 基の井戸を確認した。これらは平面的に重複していることから 2 度の造り替えが行われたと考えられる。新旧関係については S E 03 が最も古く、ついで S E 02 となり、 S E 01 が最も新しい。

それぞれの井戸の底面からは水溜として利用されたとみられる曲物が出土している。このうち S E 01 から

出土した曲物は比較的遺存状況が良く、井戸の断面形状を確認することができた。 S E 02 や 03 においても 曲物の一部が残存していた。

3 基とも同様の規模を呈するとみられるが、最も遺存の良い S E 01 では、長軸 $0.84 \,\mathrm{m}$ ・ 短軸 $0.66 \,\mathrm{m}$ ・ 深さ 約 $0.44 \,\mathrm{m}$ を呈する。出土遺物としては珠洲や中世漆器が主体であり、この時期に造られた井戸と考えられる。 (図面五五 $209 \cdot 224$)

柵

柵 SA01 (図面二〇)

1 区のグリッド $8\sim10-13\sim14$ 区で検出した柵である。今回の調査区内では柱間は 4 間を検出したが、北端が調査区北壁に隣接するため全容は不明である。柱間は南西から 1.6m・1.4m・1.4m・1.6mである。傾きは E-5° -N を呈する。

掘方ないし柱穴の平面形は不整楕円形ないし不整円形で径 $0.3\sim0.6$ mを呈し、深さは $0.1\sim0.29$ mをはかる。 土師器片が出土している。

柵 SA02 (図面二一)

4区のグリッド $34\sim35-12\sim13$ 区で検出した 4 間の柵である。柱間は、北西から 2.4m・2.4m・2.0m・2.6mと必ずしも一定ではない。傾きは $E-28^\circ$ -Sとなっている。

掘方ないし柱穴は不整楕円ないし不整円形の平面形を呈する。規模は径 $0.1\sim0.24$ mをはかるが、深さは $0.03\sim0.14$ m にとどまり、後世の削平を受けているものと思われる。土師器片が出土している。

柵 SA03 (図面二一)

4 区のグリッド $35\sim36-12$ 区で検出した 2 間の柵である。柱間は一定ではなく北西から $2.8m\cdot3.4m$ となる。傾きは $E-25^\circ-S$ を呈し S A02 に近似する。

各掘方ないし柱穴の規模は、径 0.23~0.48m、深さ 0.05~0.27mと不揃いである。遺物の出土はなかった。

柵 SA04 (図面二一)

4 区のグリッド 35-12 区で検出し積極的に柵と考えた遺構である。南北端が調査区外に達する。ため全容は不明であるが、ここでは柵としてとりあげた。方位は N-56° -E を呈しており S A 02 や 03 とほぼ垂直に位置する。柱間は一定ではない。

掘方ないし柱穴の平面形は不整楕円形ないしは不整円形を呈し、径 $0.3\sim0.45\,\mathrm{m}$ ・深さ $0.07\sim0.12\,\mathrm{m}$ をはかる。遺物の出土はなかった。

溝状遺構

溝状遺構 SD01 (図面三二)

1 区のグリッド 2-15 区で検出した西北西から東南東の方向にはしる溝状遺構である。東側はSD02 に切られ、西側は調査区外へと達する。ため全容は不明である。

確認された範囲では、全長 2.9m以上・幅 $0.5\sim0.9$ m・深さ 0.27mをはかる。土師器のほか、珠洲・陶器・煙管が出土している。(図面四四 2)

溝状遺構 SD02 (図面三二·三三)

1区のグリッド 1~6-14~16区で検出した、主軸を西南西から東北東にとる溝状遺構である。両端は調査区外へと達するが、北接する富山県教委の調査区で片側の延長部分が検出されている。

全長 19.34 m以上・幅 1.7 ~4.2 m・深さ 0.51 mをはかり、今回の調査区内にあっては比較的規模が大きい。 S D $01\cdot05\cdot06$ を切るため、これらよりも新しい。遺構内から珠洲や陶器を出土しており、中世以降に埋没したと考えられる。

なお、この溝状遺構は、調査区北壁に接する部分において堰とみられるものを確認している。(図面四九・五〇・五五・五六 124・152・206・254・257)

溝状遺構 SD27 (図面三七)

1 区のグリッド $12\sim13-11\sim13$ 区で検出した、ほぼ南北方向に主軸をとる溝状遺構である。北側は調査区外に達しており全容は不明である。 S Z 03 や S D 22 を切る。

全長 5.2m・幅 3.2~3.7m・深さ 0.31mをはかる。弥生土器のほか、土師器・須恵器・珠洲・陶器・石製品・木製品が混在して出土している。(図面四五・四九 $18\cdot 102$)

溝状遺構 SD32 (図面三八)

 $1 \, \Box$ のグリッド $14 \sim 16 - 10 \sim 12 \, \Box$ で検出したL字形にはしる溝状遺構である。両端は調査区外に達するが、調査区北側で隣接する富山県教委の調査区でもこの延長部分が検出されている。周辺の遺構との切り合いについては $SD36 \cdot 37 \cdot 38 \cdot 39 \cdot 40$ を切るが、NR01には切られる。

今回の調査区内で確認できる範囲では全長 12.3m以上・幅 1.8~2.4m・深さ 0.38mをはかる。 S D 27 と同様に、弥生土器のほか、陶器・古銭・木製品等が混在して出土している。(図面四五~五〇・五二・五四 19・22・35・37・61・62・80・112・130・151・170・198)

溝状遺構 SD41 (図面三九)

2 区のグリッド 17~22-8~10 区で検出した西北西から東南東にはしる溝状遺構である。両端及び北側は調査区外に達する。隣接する富山県教委の調査区でも延長部分がみられないため、ちょうど本調査区北壁に沿って所在するものと思われる。

確認された範囲では、全長 22.0m・幅 1.2~2.6m・深さ 0.48mをはかる。土師器のほか、陶磁器・木製品が混在して出土している。(図面四七・四九・五〇・五一・五四・五六 58・117・138・140・141・146・155・195・248・250・256)

凹地

凹地 S X 01 (図面○六)

1区の3~6-13~14区で検出した凹地である。南側は調査区外に続き、またSD41・42・46を切る。 規模は縦11.8m・横5.5mをはかり、平面形は不整形を呈する。出土遺物は須恵器のほか、珠洲・陶磁器・煙管などが出土している。(図面四七・四九・五〇・五二 45・46・103・105・128・134・136・173)

凹地 SX02 (図面四二)

2区の17~26-3~8区で検出した腐植土層をもつ凹地である。本址とSX03とにより2区の大部分を占有するが、北側に隣接する富山県教委の調査区においても延長部分検出されている。

出土遺物は土師器・須恵器・珠洲・陶磁器のほか、腐植土層から木製品が多数出土している。(図面四六・四七・四九~五一・五三~五六 38・39・52・125・149・154・180・181・188・194・211・215・216・219・223・258)

凹地 S X 03 (図面四三)

 $2 \boxtimes 0.26 \sim 31 - 1 \sim 5 \boxtimes 0.00$ 区で検出した凹地である。 $S \times 0.000$ と同様に腐植土層をもつ遺構である。ともに後世において上層を削平されているとみられるため、 $S \times 0.000$ と $S \times 0.000$ は本来同一の遺構であった可能性がある。

規模については、南北側と東側が調査区外に続くため明確ではない。深さについても 0.76m以上の腐植土層の堆積を確認したのみである。腐植土層から多数の木製品が出土している。(図面四六・四八・五一~五三・五五・五六 29・93・158・167・184・208・217・226・229・230・234・235・240・241)

自然流路

1区では交差する2本の自然流路を確認した。1区の東端に位置し西方から東方にむけて緩やかに弧を描きながらはしる。両端は調査区外に達するが東接の2区では延長部分は確認されていない。幅3.2~4.2m・深さ0.63mをはかる。土師器のほか、須恵器・珠洲・陶磁器・土錘が出土している。

NR01の南側に位置するNR02は、部分的な確認にとどまるため全容は明らかではないが、概してNR01と同種の流路と考えられる。確認した範囲では南東方向から北東方向にはしり北端はNR01と合流する。また深さ0.41mにとどまりNR01よりも若干浅い。接触する全ての遺構を切る。

(図面四四・四六~五〇・五二~五六 4・27・33・36・43・49・59・64・67・69・90・92・97・104・147・ 162・189・191・193・200・203・237・238・247・251・252)

第3節 遺物

1. 弥生~古墳時代

弥生時代

壺

1 は有段口縁を呈する壺である。口縁部上方が欠損しており口径は不明である。口縁部下端は角張り、頸部が強く屈接している。内外面が屈曲する部分まで横ナデしおり、内面下方は斜めケズリしている。

2 は幅の狭い有段口縁をなした長頸壺である。内面に粘土帯の繋ぎ痕が斜め上方に伸びており、表面にも 対応した緩い凹凸がみられる。口縁部の先端は上方に丸く短く伸びる。外面は粗い間隔の縦ハケを施した後 に器面に軽くナデを加えている。

3 は完形の壺であり、口縁部は受口状で外面にヘラによる刻みを加えている。胎土には海綿骨針を含み、1 mm以下の細砂を少量混入させる選練した粘土を用いている。底部は4cm程の大きさで平坦にしている。体部の最大径は大きく下半よりにある。土器の成形は、底部側下半と体部に二分して成形した痕跡が内面のハケとミガキの境にみられる。体部の内面頸部より下にかけて縦ハケを行う。外面は斜めハケ後に、縦ミガキを全体に行なっている。体中央部付近から上部と、外底面や底近くにそれぞれ赤彩が残ることから、本来は外面赤彩の土器と推測される。

5 については小破片であり甕の可能性も含む。色調が橙色をなし、丸みをもつ口縁外面内面には3条の擬凹線文が引かれており古い時期の特色を有する。

甕

6 は口縁部の幅が狭く 4 条の沈線がめぐり、壺と考えた 5 の断面形状とやや類似する。ともに橙褐色の色調を呈しており胎土に 1 mm大前後の砂粒は少ない。体部内面には斜めケズリにより器面厚の器薄化を行なっている。

7はやや内傾する口縁部に4条の凹線が引かれている。外面は煤状炭化物が付着する。

9 は口縁部が「く」の字状を呈する甕であり、外底面に数方向からのハケを留める。外面には口縁部から底部にかけ煤状炭化物が付着する。体上部は斜めハケ、体中部から底部までは縦ハケを先に行なっている。内面の体上半は横ケズリ、体下半は縦ケズリであり、胎土には3~5 mm大の荒い砂を多く混入している。

10 は幅の狭い口縁端部にさらに横ナデを加え先細りさせた甕である。11 は「く」字状に外半する月影期のものとみられる甕である。

高杯

12 及び13 は、短く外反する杯部と長い棒状部、それと安定した脚部をもつ。12 は胎土が軟質であり、器面の剥落等により調整痕が不鮮明な部分がある。外反し厚みをもつ口縁部の直径は約25.3 cmと大きく、内外面を横ミガキし口縁端部をやや肥厚させている。柱状部より下位は「ハ」の字状に開脚する。脚内面については、端部が横ハケとやや斜め方向のケズリを、柱状部は横ケズリの調整を行なっている。

13 は保存状態がよく直径 30.1 cmの大きな杯部をもつ。対称となる位置に 2 個の半円形の環状粘土紐を取り付ける。 脚の先端は屈折をさせ脚端部としている。 器面の調整は外面全面を丹念にミガキ調整し、大きな杯部と棒状柱状部との接合は 12 のような半円球や粘土塊を柱状部に押し込み杯部を支えている。柱状部内面は横ケズリを行い、剥離した脚部との接合は漆(茶褐色)を接着材代わりに接合し再使用している。 内面が横ハケ調整の脚部には 4 個の円孔があり、内面から外方に向け穿孔している。

16 は、高杯の杯部内外面と棒状部が赤彩されている。杯部外反部との接合面で剥離し、さらに短めの棒状

部が杯部内面まで達する。杯部下端を伸ばして接合させた様子がわかる土器であり、杯部と棒状部の閉塞が 剥がれている。

17 は焼成のほか、胎土や赤彩などの点で16 と類似する。同一個体の可能性をふくむが前出13 と比較するならば小形となる。内面は横ナデと横ケズリがされている。

18 は柱状部の下半部で脚部との屈曲部にあたる。遺存状態が悪く調整痕は不明瞭ではあるが、内面は横ケズリがわずかに残り外面は幅約 2 cmの平面を有する。内面に段を設けており $12 \cdot 13$ と同時期とみられる。器台

21 は山陰地方にみられる鼓形の形態をしたものであり、厚みのある受部と脚部が相似している。器面を飾る擬凹線文は、1.5 cmの幅に8本程のヘラ状具を一単位としたもので、受部と脚部に各3回ずつ施文する。

22 は、2 本の沈線を渦巻き状にした円形文を 2 個繋ぎ一単位としたスタンプ文である。破片の大きさから 器台脚部に連続施文したもので、今回の調査で唯一の出土となる。

23 は器台脚部の破片であり、鼓形の脚端部に7条以上の沈線を引いている。24 は器台の脚端部にあたる小破片で、脚部内面をナデている。

古墳時代

十師器

甕

26 はほぼ一周する甕の上半部であり、外面全体に煤状炭化物が付着する。幅広の口縁部は無文であるが、横ナデ後に弧状沈線が全長 2.5 cm以上にわたりへラ先による沈線を引いているところが 1 箇所ある。口縁部の下端がやや突出する傾向にあり山陰系の影響を受けた甕であろう。体部の器厚は、斜めハケと斜めケズリで厚さ 3 mmと薄く仕上げている。胎土には 2~3 mm大の砂粒を多く含有している。

25 は「く」の字口縁部で、先端が細くなっている。

須恵器

28 の杯G は 1/12 ほどの小さな破片で、口径約 11.0 cmである。口縁端部も同期の杯身に比べ厚作りであり、外面の受け部側外面も厚みをもっている。

29 の杯Gは受け部にあたり、口径 10.4~cmで、立ち上りの高さも 0.7~cm程と低く、口径から 7~tm 世紀第 1~tm 期の中でも後半の時期のものであろう。

2. 古代

須恵器

杯Α

杯Aにおいても概して破片が多い傾向にある。 $30 \cdot 33 \cdot 35 \cdot 36 \cdot 37$ については器高 3.0 cm前後を呈し、11.0 ~14.0 cm台の口径をはかる。あまり外傾しない口縁部は8世紀中頃から末にかけての時期に該当する。

口縁部を欠き口径が不明のものは 7 点である。外底面には約 1.0 cm幅の粘土巻き上げ痕を残す。32・37 については、外底面の中央において回転台から切り離した際にヘラを抜いた後が観察できる。

 $32 \cdot 35 \cdot 37 \cdot 39 \cdot 42 \cdot 44 \cdot 52 \cdot 53$ などには底面に平行した線状痕が浅く付き、成形品を一時的に仮置した痕跡か、または乾燥時の置き台の条線であることが推測される。

31 は生焼け気味の薄茶色を呈する軟質焼成品である。口径 12.0 cmほどで、8 世紀末から 9 世紀前半のものである。また、37・55 には $\lceil - \rceil$ 、34 には $\lceil \times \rceil$ のヘラ記号状の沈線が外底面に記されている。

底部の形態では、38・40 のように平坦なものや、34・35 などのように浅く内面が窪むものと、37・42 のようにやや丸味をもって外面と連なるものがある。44 は口径 12.8 cmと大きく 8 世紀中頃から後半のものである。32 は口縁部が外面に丸く出る特異なものであり、今回の調査では 1 例のみの存在で 8 世紀末頃にあたる。

48 は器高が 2.4 cmと今回出土した坏Aの中では最も器高が低く、口径の小さな 42 及び 43、外傾度が強い 41・46 は 9 世紀中頃から後半の時期に含まれよう。

杯蓋

65 は口径 15.0 cmで摘みが宝珠形で、頂部外面には右回りヘラケズリを 2 回ほど行い、平坦面を成形する。 胎土には 1~3 mm大の砂を多く含む。

66 は口径 15.0 cmで外面頂部はヘラ切りし、摘みは中窪みである。63・66 は外面全体に自然釉がかかり、 65 は口縁部外面の縁辺のみに釉がかかり、杯Bと組合せた焼成を示している。口縁端部の形状から8世紀中頃に属する。

69の摘みは直径 2.5 cmと大きな宝珠形であり、67 は先の尖った宝珠摘みである。時期は 8 世紀中頃であり、 尖った摘みは 8 世紀中頃~9 世紀初頭の例に類する。

64 は小ぶりのタン状の摘みを有し 9 世紀前半代に下る。62 は口径 11.4 cmの大きさで、外面全体に自然釉がかかり小さな摘みがつく。

60 は、内面の口縁端部をのぞき全体が黒褐色を呈する。墨状の炭化物が部分的に残存しており転用硯の可能性もある。61 は口径が13.0 cmで黄褐色の生焼け品で、内面の一部に炭化物がつく9世紀前半の時期である。 杯 B

82 は口径 16.2 cm・器高 7.0 cmを呈する。底部からの立ち上りが直線的で傾きが少ない。83 は、口径 17.0 cm・器高推定 4.9 cmを呈する。立ち上がりは比較的垂直に近い。また口辺部中程に沈線を巡らせており 8 世紀中頃のものである。

口縁部を欠く133は高台径が12.0cmでヘラ切り後にナデており、83のような形の底面であると想定される。132は高台径が11.8cmで内面全体をナデており、体部への立ち上りがおそらく83に近い形で外方への傾きが少ないものであろう。8世紀中頃の時期に近いものであろう。

85 は口径 12.4 cm・器高 5.1 cmを呈する稜椀である。内面を丁寧にナデているが、外面下半の調整をしておらず 8 世紀後半代のものとみられる。

84 も体部下半に鋭く角が張った稜線がめぐる小形の稜椀である。稜椀は金属器写しの須恵器とされ、各集落からの出土数は杯Bに比べ数点と少なく、特殊な用途に使用されたものであろう。

75・76 は外面にのみ自然釉を有しており、窯跡での焼成方法が身と蓋を交互に積み重ねたことを示している。74 はヘラ切り痕のヘラ抜き跡が深く、底中央に全長 3.0 cmに凹面が残り成形の未調整痕跡がみられる。

 $74 \cdot 113$ は丸みのある立ち上がりもつもので 8 世紀末頃の所産と考える。高台径が約 6.0 cmと比較的小型な $86 \cdot 87 \cdot 88 \cdot 94$ などは器面の内外面に自然釉のかかりがみられず、蓋の付かない杯Bの小形品にあたる。 $72 \cdot 73 \cdot 74 \cdot 75 \cdot 85$ は底部からの立ち上りの外傾度合いが少なく 8 世紀後半から末にかけての時期が考えられている。

このほか高台幅の狭い90·92·99·104·121·122 は小形の杯Bであり9世紀末の時期にあたる。胎土は薄い灰色のやや軟質の焼成となっている。高台の取り付け位置は88・94・117 など縁辺よりに片寄っているものも9世紀後半から末に属しよう。

なお、食膳具の杯A・杯蓋・杯Bは、底面や内面中央が使用により滑らかになっており、使用頻度の高さを示すとみられる。

小形壺

134 は短い口縁部端部を有する。体部が「く」の字状で、口縁から屈曲部は自然釉がかからず、蓋付きの状態で焼かれた短頸の壺である。

壺

135 は底内面と体部外面に自然釉がかかった壺である。現状で高さ 17.15 cmを呈するが上部を失っている。 胴下半部の外面は斜めケズリされ、同内面も同様な高さまでナデを施す。胴上半部は回転ナデであり、8 世 紀後半から末とみられる高台を有する。

壺・瓶類

 $140 \cdot 141 \cdot 142 \cdot 143 \cdot 147$ は、長頸瓶をはじめとする壺瓶類の底部であり、内面に自然釉がみられる。高台のみで器種の特定はできないが $142 \cdot 143$ が長頸瓶・短頸壺の高台の可能性があり、概ね8世紀中頃から9世紀前半のものであろう。 $140 \cdot 141$ は短頸壺の高台とすれば8世紀末から9世紀前半とみられる。

152 は平底であり内面に釉がかかっている。焼成は硬く8世紀後半末のものであろう。148・149 に底部下半部の外面に斜めケズリがある。150・151・152 は双耳瓶をはじめとする器形の下半部と思われる。

横瓶

136 は横瓶の口縁部かと思われる。口径 12.4 cmで短い口縁部を有する。

長頸瓶

137 は長頸瓶の頸部であり自然釉が比較的多く付着している。8 世紀中頃のものであろう。

平瓶

138 は頸部から体上部にかけての平瓶である。口頸部の 1/3 強が残存し、口縁部や上部の閉塞用の円盤は遺存しない。口縁部の高さは 6.0 cmで、体部直径が 19.5 cmほどであり全形がない。石川県高松町八野古窯第2 号窯跡で口縁部が大きく開いた同形をした平瓶が出土しており (折戸 1985)、8 世紀中頃のものにあたると考えたい。

双耳瓶

139 は、体部の上半の肩に細い突帯が巡り、凸帯の両側に長く伸びる板状の耳をもつ瓶の肩部の小片である。この破片は、焼成は軟質の淡灰色である。双耳瓶は9世紀になって普及し、底部は平底である。

甕

甕には次の二形態がみられる。一つは、口縁部を大きく外反し頸部からの長さが 10 cm $\pm 0 \text{ lm}$ ± 0

153 は上記前者の甕であり端部を外反させる。外面に幅 2.5 cmの沈線を描き、この間に 4 本の波状文を巡らす。154 も口径約 36 cmをはかり、外反した口縁部の外面に 4 本以上の櫛状具で波状文を施す。

156 は口径 18.6 cmを呈し、且つ口頸部の長さが 4.0 cmで頸部にいたる。頸部側にヘラ先による沈線を 4 cm 以上にわたり 1 条引く。157 は口径 27.7 cmの口縁部であり、内面が尖って肥厚している。

158 は、口径 23.2 cmの口縁部がわずかに外反し、大きく球状に膨らむ体部をもつ。外面には 3 cm幅に 8~9本の条線を掘り込み、条線内に右下がりの板目痕がある。

内面の当て具は棒状円盤の芯材を用いて先端に中心部から5本以上の同心円が施されている。内面の当て 具による叩きは内外面同時に粘土の叩きしめを下方から上方に向かって逆時計回りに行い、外面は叩き後に カキ目を入れ成形している。

十師器

骶

160 は口径 22.3 cmの甑である。口縁部の外側に 2.5 cmの薄い粘土帯を付け強度を増している。この粘土帯をつけた甑の完形品は、小杉流通団地No.18 A 遺跡の土師器焼成遺構が多く調査され8世紀第3四半期の土師器が多く出土した谷部から4例が出土しており(池野他1993)、8世紀中頃から末頃の形態である。

紐

161・162・163 は、短い口縁部と、浅く丸みを帯びる胴部をもつ。161 は口縁部の形状から 8 世紀後半から末の時期である。162 は、口縁部が上方にやや突出し、且つ体部外面にカキメを加えており 9 世紀前半のものとみられる。163 は内面全体と外面に煤状炭化物が厚く付着する。口縁部の端部を内側に折り返しており 9 世紀後半から末に属するとみられる。外面ではカキメの下方に斜めケズリ調整がつく。

甕

口径 12.5~16.0 cmの比較的小形のものと、口径 20.0 cm程度で器高 30 cm前後となるものがみられる。

164~169 は規格的には小形の部類に属する。このうち 168 は8世紀末から9世紀初頭頃のものである。164 は甕の体下半部の全体が残り、体部はヘラケズリ、外底面は回転糸切り痕があり、外面に煤状炭化物が厚く付着する。

171 は口径 16.8 cmを呈する。口縁部先端が細くなり 8 世紀中頃のものとみられる。166・169 も外面に煤状炭化物が付着しており、回転ナデ調整で 8 世紀末頃のものである。165 の口縁部はやや内面に傾き 9 世紀前半頃のものとみられる。

170 は9世紀中頃に属し、167の口縁部は内面に屈折し9世紀中頃から後半期のものである。174 は口径 19.9 cmをはかり8世紀後半のものとみられる。172 は口径 19.0 cmで9世紀中頃のものであり、173 は口径 19.7 cmで9世紀中頃のものとみられる。

椀・皿

175 は低い高台をもち椀又は皿の可能性がある。176 は外面のみを赤彩した皿とみられるものの底部で、底面中央に糸切り痕がある。

比較的明瞭に椀とみることができるものは、内外面無彩色でいずれも底面は回転ケズリである。概して食膳具については、9世紀後半以降は須恵器に変わり土師器の占める割合が徐々に多くなる。

177 は口径 12.0 cm・器高 4.0 cmを呈する。9 世紀末から 10 世紀初頭頃になるであろう。178 は口径 12.0 cm で・器高 3.3 cm・底径が 4.7 cmを呈する。

179~186 はいずれも糸切り痕があるが、底径にばらつきがある。180 のみに外面赤彩がわずかに残存するが、他は無彩色である。

緑釉陶器

187 は底径 6.1 cm・残存高 7 mmを呈する蛇の目高台を有する緑釉陶器の椀である。幅 1.5 cmの高台が一周し中央が 3 mmほど窪みヘラケズリしてある。胎土には 1 mm以下の細かい砂粒をわずかに含む。底部内面を磨き直径 5.5 cmのところに低い圏線がめぐる。焼成は良好で硬く焼きあげられており全体に淡灰色をなし、体部外面に淡灰緑色の釉が少量見受けられる。京都産の搬入品であり 9 世紀前半頃のものとみられる。

3. 中世

珠洲

甕

192·193 は大型品で珠洲 I 期の 12 世紀後半にあたる。192 は口縁端部が下方に折れ肩部に段を有する。193 は口縁部が大きく伸びる。

190・191 は珠洲Ⅲ期に属し13世紀前半の時期のものとみられる。189 はⅡ及びⅢ期の13世紀代に含まれるが、Ⅰ期に比べ口縁部が短く丸く変化する。188 はⅢ期の13世紀後半にあたり、口径が30 cm程とやや小型の甕である。194 は大形甕の底部である。底部に細かな砂粒が付着しており砂粒は焼成の際の離れに利用している。

大壺・中壺

195・196 は底部が外方に向かう立ち上りの状態から、壺の底部近くの破片にあたるとみられる。197 は壺 R種の壺である。

片口鉢

198 は口径 24.8 cmの珠洲Ⅱ期の片口鉢である。片口部付近から卸し目(幅 3.0 cmに 10 条)を体下半に向かって施している。鉢の厚さは 9 mmと薄く成形されている。口縁端部は丸く内傾する。

すり鉢

203 は底部破片であり、卸し目が間隔をあけ 1.4 cm幅に 7 本入れた状態が確認される。底部条痕は糸切であるうが、静止か回転かは判らない。

202 は珠洲Ⅳ期の口縁端部である。口唇部に波状文をいれた小破片で 14 世紀の後半にまで及ぶ。201 は片口鉢付近の口縁部であり、わずかに卸し目が入る。

200 は内傾する口縁部片であり、2.2 cm幅に 8 本の卸し目を施す。胎土も緻密で焼成もしっかりしている。 時期は珠洲 V 期の特色があり 14 世紀第 4 四半期から 15 世紀中頃までに属するとみられる。

208 は幅 2.4 cmの櫛条具に 11 本の卸し目を施す。底部外面に糸切り痕が若干残る。207・209 は焼成の緩い底部片である。胎土の砂粒の混入が多く I・II 期に比べ粗雑な印象を残す。

207の卸し目は 2.7 cm幅に 11 本の器具を用い内面底部全体に卸し目が及ぶ。外底面の平行な静止糸切り痕が 1/4 にわたっている。

209 は底部を 1/2 ほど残存しており、静止糸切り後に一部ナデが入る。卸し目の器具は幅 $3.4~\rm{cm}$ に $11~\rm{a}$ と 荒い目で入り、底部中心から $7.0~\rm{cm}$ は摺り減り磨耗している。時期は珠洲 VI・VII期であり $15~16~\rm{b}$ 世紀の範疇におさまる。

土師器

Ш

211 は口径 9.25 cm・器高 3.7 cmを呈し、概して京都の土師器を模倣したものとみられる。糸切り底の柱状高台をもち 12 世紀末から 13 世紀前半の時期のものである。

また、212 は口径 17.0 cmで大形の口縁部が二段ナデの非ロクロ形で京都の影響を受けており、淡橙褐色で器壁は厚い。時期は 12 世紀末~13 世紀に属する。213 は口縁部両面にロクロ回転を利用し、下半を指頭痕及びナデ調整した 14 世紀の皿である。

ロクロ成形のまとまった資料は以下の小皿であり 15 世紀代のものである。214 は口径 8.44 cm・器高 2.0 cm である。215 は口径 8.7 cm・器高 1.6 cmを呈する。216 は口径 9.6 cm、器高は 2.42 cmと高い。217 は口径 9.0 cm

で器高 2.1 cm、219 は口径 9.7 cmで器高 2.5 cmとなり法量差が少々ある。いずれも口縁部が外反し、底部は糸切りされた小皿である。

223 は口径 13.8 cm・器高 3.5 cm前後で糸切りする大皿である。15 世紀末の時期とみられる。220 は、内外面に回転ナデを、底部には糸切りを施すものである。口縁部下半がふくらみ有段状となる。15~16 世紀の古い時期にあたる。

221 は数少ない橙色の胎土であり、器高 7.5 cmの口縁部のみの破片で 16 世紀前半になる。222 は底部が磨 耗気味で糸切痕が不明瞭であるが、内面には回転によるナデを施しており器面が滑らかとなっている。

非ロクロ成形の皿は時期がロクロ成形品と若干ずれているが、このうち 224 はロクロ回転のナデが底部に及び、外底面は気泡状となっている。内面全体にタール状炭化物が付着している。

225・226 は非ロクロ成形の平底の皿で、口縁端部を押しナデしたものである。225 は残存率 1/4 の破片で、口縁部内外面に油状のタールが付着しき灯明皿として利用されたものである。時期は 14 世紀後半である。

227 は表面が風化し内面のナデがわずかに残る橙色の軟質の器面であり、228 は淡灰色の色調で口縁部内外面のみ押しナデし外面に指頭痕が残る。その形態から 14 世紀代のものであろうか。

230 は口径 6.5 cmで、口縁部内面全体にタール状炭化物が付く。底部は丸底となり内面をナデ外面に指頭痕が残る。231 にも口縁端部から内面を回転ナデし、外面は指頭で成形した 16 世紀前半頃のものである。

232 は口径 8.1 cmであり、全体が厚作りで丸い底部の厚さが 1.2 cmである。口縁内外面にタール状の炭化物が全体に付着し外面に指頭痕がめぐる。16 世紀前半のものになる。

青磁椀

235 は口径 18.7 cm・器高 4.8 cmの中国龍泉窯の青磁であり 13 世紀後半代のものとみられる。外面に鎬のある蓮弁が彫り込まれ淡緑色の釉薬が厚くかけられている。

染付け小皿

236 は小破片であり口径 13.2 cmと推定される。口縁部は緩く外反りし端部が丸くなっている。中国製であり白色の釉薬の上にうすい青色を彩色し、色が重なる部分がより濃い藍色になる。内面の口縁端部と底部近くに各一条の線が巡り時期は 16 世紀後半に含まれる。

瀬戸・美濃

237・238 は天目茶碗である。口径 13 cm前後の大きさで口縁下に暗茶褐色で下半は黒色の釉がかかる。時期は 15 世紀代である。239 は口径 5.9 cm・器高 2.92 cmの小形椀であり、底部と底部近くは鉄釉のかからない生地のままである。底部は糸底状高台であり外面の底内はヘラ削りしている。時期は 17 世紀である。

240 は口径 $6.4 \, \mathrm{cm}$ ・器高 $4.1 \, \mathrm{cm}$ の香炉で、口縁部が内傾して下半が膨らんだ形態となる。胎土には精選された粘土を用いている。底部は糸切り後おそらく 3 個の小さな粘土塊を張付けて脚部にしている。鉄釉は外面体上部と内面の口縁部 $0.5 \, \mathrm{cm}$ にかかり、その他は生地のままである。口縁部と底部の割れを漆接ぎしている。時期は $15\sim16$ 世紀である。 241 は口径 $26.6 \, \mathrm{cm}$ の鉢であり茶褐色の鉄釉は内外面にかかる。胎土に $3\sim5 \, \mathrm{cm}$ の砂粒を多く含み、時期は $16 \, \mathrm{世紀後半にあたる}$ 。

瓦器

242 の火鉢は体径が 19.8 cmの小形品であり、ロクロ回転を利用し成形している。色調は内面と外面が黄褐色で、外面の体部はうすい橙色をしている。また直径 2.0 cmの菊の印花文を押している。1.0 cmの円形で瘤状

の円盤形を脚部とする。時期は15~16世紀である。

243 は黒褐色の瓦質土器であり、焼成温度が低く軟質の黒褐色の色調をした破片である。底径が 18.0 cmであり、斜めに丸みをもった体部で火鉢の底部と思われる。内面には「大」の文字を焼成前に刻んでいる。底面から 1.7 cmの高さに水平な沈線が 1 条入る。時期は明確でないが近世の遺物であろう。

越中瀬戸

246 は鉄釉をかけた皿で、内底面を釉剥ぎし外周に圏線がみられる 16 世紀末の時期のものである。244 及び 246 は鉄釉の皿である。244 は内底面も有釉で圏線を巡らし外底面内は回転ナデしている。245 は内面を釉剥ぎし外周に圏線が入る。247 は底部の一部に白い灰釉がかかり、内面に釉剥ぎに外周に圏線があり、12 弁の菊花文の押し印を行う。244・246・247 はいずれも、16 世紀末から 17 世紀初めにかけての時期にあたる。249 は鉄釉をかけ内底面に釉剥ぎを行うが圏線がなく 17 世紀代に下る。

唐津·肥前他

251 は口径が 12.4 cmの唐津の椀であり、内外面に緑灰色の釉をかけ外面下部は淡橙褐色の無釉とする。252 は越中瀬戸の椀底部の破片で外面にロクロナデの痕をよく留めている。淡茶褐色の無釉の生地である。内底面のナデを行い平滑な器面に黒い斑点 2 個が 3.5 cm間隔で残っている。時期は 17 世紀代である。

254 は口径 23.4 cmのうすい鼠色の釉がかかり、釉面が若干ざらざらした感触の器面となる。口縁部近くが緩く屈折した断面の肥前皿であり、17 世紀頃のものであろうか。

257 は口径 13.2 cmの備前の椀であり、白色の釉に淡緑色の松葉状の文様が描かれ、内面下は釉剥ぎされる。 18 世紀後半で産地が不明である。 258 は直径 3.0 cmの白磁の蓋の摘みであり、乳白色の釉がかかっている。 蓋の器種が明らかでなく、時期は不明である。

木製品

木製品は、自然流路や凹地の腐植土層から出土したものが多く、箸状木製品のほか、板材・曲物・底板・下駄・漆器皿・祭祀用木製品などがある。いずれも遺存状況が芳しくはなく、且つ小片のものが多かった。 259 の板状木製品は、全長 22.7 cm、厚さ 0.8 mmの薄い針葉樹の板材を用いている。上端は斜めに加工されており下端が磨耗している。板の一面は刃物跡が多方向に付いており、本来は幅のある板材をまな板として利用されたものを二次使用していると考えられる。

 $260 \cdot 261 \cdot 262$ は曲物の側板である。260 には縦と斜め方向のケビキあり、綴じ皮がわずかに残る。261 には細かいケビキがはいる。262 にはケビキはみられなかった。263 は口径 8.5 cm・器高 1.3 cmの内外面が黒色漆の浅い小皿である。264 の漆器椀は高台が欠損している。内外面は黒色漆で見込みには赤色漆で描かれた文様が残る。また見込み部分に意図的にあけられたと思われる孔がある。265 は全長 11.1 cmの箸状木製品である。上端近くが 5 mmの太さがあり先端を削り尖らせている。266 は直径 13.9 cm・厚さ 0.7 cmの円形を呈する。柾目材であり 2/3 が残る。側面には木釘の痕跡が見られないことから容器の蓋に使用したものであろう。

267 は工具類の柄である。差込みの先端部分は丸く加工されており差込みは約8.9 cmの深さがある。268 は 一木連歯の下駄である。左半分を欠損している。縦に2箇所の小孔が穿たれている。

269 は男根状木製品である。270 の棒状木製品は先端と片側側面を加工しており、剣先のような形状となっている。

第4章 まとめ

本章では、周辺の調査区や遺跡の調査成果とあわせ、今回検出した遺構や遺物を検討し、また富山県全体 を俯瞰した下佐野遺跡の位置づけを行うものとする。

県道高岡環状線の建設工事にかかる平成 16 年度の調査区から検出された遺構は、調査区が矮小なため全体の把握が困難なものがある。また、出土遺物から弥生時代後期・古墳時代初め、古代・中世といった複数の時代に帰属するものと考えられる。ここでは主だった遺構の概要を述べることとしたい。

弥生時代後期の遺構について (第17図)

第1区では、弥生時代の方形周溝墓5基が調査区内に存在することが明らかとなった。墳丘部は後世の削平により盛土や主体部を失い、周溝のみが検出されている。5基の方形周溝墓の周溝からは弥生時代の土器や副葬品の出土はないが、周辺からは弥生後期後半の法仏期から古墳時代初頭のものが出土しており、築造時期はその前後と推測される。

次に、近年の研究成果をもとに、隣接調査区を含めた方形周溝墓群の分析を行いたい。

方形周溝墓の平面形態は第17図のように各種類に分類されており、下佐野遺跡ではこのうちの二形態が確認できる。すなわち周溝の四隅に陸橋部を設けるA1類と、一箇所に陸橋部を残す形態のC1類である。

下表は今回の調査区で確認された方形周溝墓の一覧表である。全容が不明なものについては、墳丘部が方形であることを前提に規模を復元し平面面積を推定した。また形態は「伊藤 2005」の分類に従った。

今回の調査区では、小規模な方形周溝墓でA1 形態のS Z 01・S Z 04 (表No.1・4) が 10 m余り隔てた近距離に存在し一つの群とした。この西側にもS Z 01・S Z 04 と方位等を同じくする溝状遺構や土坑が確認されており同形態の方形周溝墓が存在した可能性もあるが、後世の掘削の影響を受けており断定できる状況にはない。さらに、中規模で1箇所に陸橋部を有するC1の形態も、S Z 02・03・05 (表No.2・3・5) の 3 基が 30 m程の範囲に存在し方向も同じであることから一つの群として捉えることができる。

隣接している富山県埋蔵文化財センター調査区で検出されたC1形態の方形周溝墓2基は、同方位を呈し、且つ周溝の東西辺が切り合って検出されている。これも一つの群として捉えることができよう。また、A1 形態の方形周溝墓3基が、規模は若干違うものの同方位で、約30㎡の広さに群としてまとまる。こうして見ると、2ないし3基が一つの群として存在し、且つ規模や形態の同一性が認められよう。

なお、C1形態は下佐野遺跡の西方に位置する石塚遺跡(高田地区)の方形周溝墓にも類例がある。

県内の周溝墓について

県内の周溝墓の検出遺跡は現在 20 遺跡にのぼり、呉羽山を境とする県西部に多く、県東部では希少である。 県内では弥生時代前期に遡る例はみられず、弥生時代中期のものが現状における県内最古の例となる。

なお、中期の例としては、高岡市石塚遺跡 6 基、石名瀬 A 遺跡 9 基、諏訪遺跡 1 基、下黒田遺跡 2 基、射水市高島 A 遺跡 1 基の計 5 遺跡 19 基の例がある。これらの平面形態は D 1 類・C 1 類・A 1 類に分類される。

残る 15 遺跡からは弥生時代後期から終末の周溝墓が検出されている。平面形態が円形の G 類を採るものもあり、富山市杉谷 A 遺跡 1 基、百塚遺跡 D 区 1 基、清水堂南遺跡に 1 基と 3 遺跡で確認されている。

方形周溝墓の形態では各種類が存在するが、もっとも多く採用されているのは四隅の切れるA1類のものである。上市町飯坂遺跡では一辺の両端が切れる形態のB1類が4基と多い。23基の周溝墓が確認された射

水市布目沢北遺跡では四隅の切れた形態のA1で統一され、15基の周溝墓が確認された富山市杉谷A遺跡でも13基がA1形態を採っている。

既往の発掘調査もふくめ下佐野遺跡からは計27基の周溝墓が検出されている。これは県内最多数の検出例であり、弥生時代から古墳出現期までの形態や墓域の変遷を把握するうえで良好な遺跡となるであろう。これらの周溝墓を分析していくことは、当時の社会を復元する重要な論点となる。さらに、被葬者たちが生活した集落の動態と合わせて分析することで、弥生時代から古墳時代への時代の動きを復元できるであろう。被葬者たちの集落の発見が待たれる。

古代・中近世の遺構について

古代の遺構としては、掘立柱建物のほか、溝状遺構や土坑等が検出されているが、伴出遺物などが伴わないため詳細な時期判定が困難である。以下では年代が比較的明らかなものに限り示すこととした。

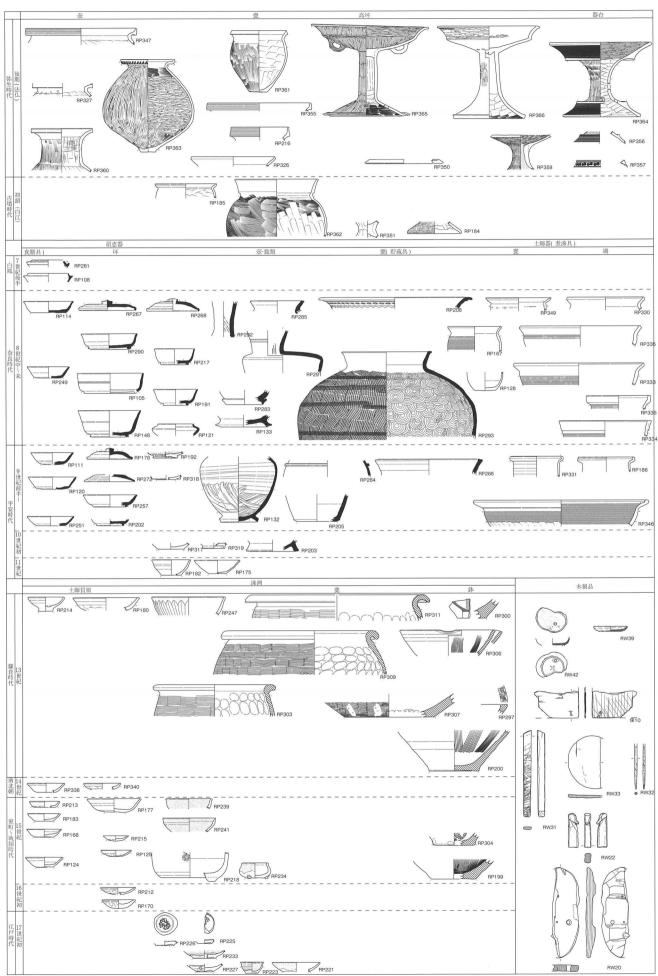
掘立柱建物については、 $SB01\cdot03\cdot05\cdot06\sim08$ が出土遺物により古代に属すると考えられる。また、遺物は出土していないが SB02 と 04 は柱穴の規模から古代に含めた。SB09 から 11 も、遺物の出土はなく他の建物よりも小規模で柱穴の掘り形も小さい。

これらの建物をめぐっては、方位により SB01·02·04·09·10·11 らで構成する第 1 群と、SB03·06·07·08 の第 2 群、そして SB05 の計 3 群に分けられる。

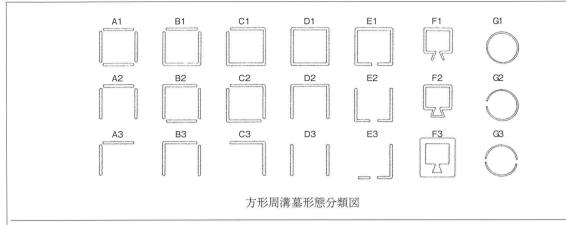
SB05・06 は重複関係等により建て替えと考えられ、8世紀中頃から9世紀中頃までの須恵器や土師器が出土しており、間接的ながら上記の建物の存続時期を示していると思われる。

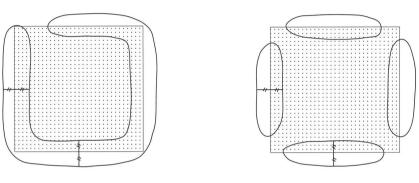
なお、隣接する富山県教委の調査区では掘立柱建物が4棟確認されている。このうち3棟の方位は今回の 調査の第1群に属し、残る1棟は第3群に属するものと思われる。建物のほかに古代の遺構としては、人面 墨書土器や墨書土器が出土した川跡が注目される。建物群とあわせて、祭祀行為を復元する良好な資料であ るといえる。

中近世の遺構は出土遺物の時期幅が大きく時代の特定が難しい。遺構は井戸をはじめ、柵・溝状遺構・凹地・自然流路等を確認している。

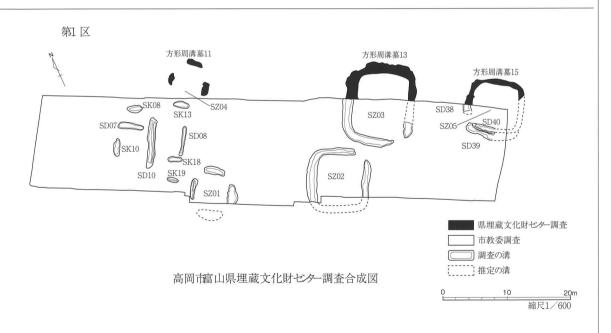


第16図 出土遺物の時期区分表





方形周溝墓平面積計測位置



	高岡市遺構名	埋蔵文化財センター 遺構名	形態	墳 丘 部 (m)	墳 丘 規 模 (面積)	規模
1	S Z 01	_	A 1	$(5.0) \times 4.6$	33.0㎡(推定值)	小規模
2	S Z 02	_	C 1	(9.0)× 8.6	77.4㎡(推定值)	中規模
3	S Z 03	方形周溝墓13	C 1	9.6× 11.5	110.4m²	中規模
4	S Z 04 (SK13)	方形周溝墓11	A 1	6.0× 6.1	36.6m²	小規模
5	S Z 05 (SD38·37)	方形周溝墓15	C 1	9.0× (10.0)	99.0㎡(推定值)	中規模

高岡市富山県埋蔵文化財セター調査の方形周溝墓一覧

引用・参考文献

青山晃 2008「下黒田遺跡」『平成 20 年度埋蔵文化財年報』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 伊藤敏行 2005「宇津木向井原遺跡と関東の方形周溝墓|『方形周溝墓研究の今』雄山閣 射水市教育委員会 2007 『本江畑田 I 遺跡発掘調査報告(3) 一個人住宅建築に伴う埋蔵文化財調査―』 上野章 1967「高岡市下佐野遺跡」『大境』第3号 富山考古学会 越前慶祐 2009「古代の有力農民の屋敷地?―高岡市下佐野遺跡―|『埋文とやま』106号 富山県埋蔵文化財センター 岡田一広 2005「富山平野における弥生墓制 ―中期から後期にかけて―」『季刊考古学』第 92 号 雄山閣 岡本淳一郎・三島道子・町田賢一・上田尚美 1999「佐野台地における古墳出現期の土器について」 『富山考古学研究紀要』第2号 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 鹿島昌也ほか 2008「I16.富山県|『日本考古学年報 -2006 年版-』日本考古学協会 上市町教育委員会 1981 『北陸自動車道遺跡調査報告 一上市町遺構編一』 上市町教育委員会 1884『北陸自動車道遺跡調査報告 —上市町木製品・総括編一』 近畿弥生の会編 2007 『墓制から弥生社会を考える』 六一書房 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2009『とやまの発掘だより ―平成 21 年度発掘調査速報―』 新湊市教育委員会 2003『富山県新湊市高島A遺跡発掘調査概要 —1999 年度—』2000 椙山林繼ほか 2005 『方形周溝墓研究の今』 雄山閣 富山県教育委員会 1884『都市計画街路 七美·太閤山·高岡線内遺跡群発掘調査概要(2) ─南太閤山Ⅰ·Ⅱ遺跡─』 富山県埋蔵文化財センタ― 1993 『富山県小杉町・大門町小杉流通団地内遺跡群 ―第 10・11 次発掘調査報告概要―』 富山市教育委員会 2009 『富山市百塚住吉遺跡·百塚住吉B遺跡·百塚遺跡発掘調査報告書』 富山大学人文学部考古学研究室 1989「越中上末窯 富山大学考古学研究報告第3冊」 大門町教育委員会 1992『大門町企業団地内遺跡発掘調査報告(2) 一布目沢北遺跡第3次調査―』 大門町教育委員会 1995『大門町企業団地内遺跡群調査報告(3) 一布目沢北遺跡第4次調査報告一』 大門町教育委員会 1999『富山県大門町二口油免遺跡第Ⅱ次発掘調査概要 ―土地区画整備事業に係る調査―』 高岡市 1957『高岡市史 上』 高岡市教育委員会 1992『下佐野遺跡調査概報 I 一平成 2 年度、明光電気地区の調査―』 高岡市教育委員会 1993『市内遺跡調査概報 I ―平成3年度、石塚遺跡、下佐野遺跡の調査(井波地区)―』 高岡市教育委員会 1993『市内遺跡調査概報Ⅱ ―平成4年度、下佐野遺跡(横田地区)、間尽遺跡の調査─』 高岡市教育委員会 1997『市内遺跡調査概報V ―東木津、石塚遺跡、下佐野遺跡の調査(さのクリニック地区)―』 高岡市教育委員会 1997『市内遺跡調査概報 ―平成10年度、下佐野遺跡(新田地区)の調査ほか―』 高岡市教育委員会 2001「下佐野遺跡 ―黒越地区・荒木地区の調査―| 『市内遺跡調査概報 X Ⅲ ―平成 14 年度東木津遺跡・越中国府関連遺跡の発掘調査ほか― 』 高岡市教育委員会 2005 『中曽根西遺跡調査報告 ―県道姫野能町線改良事業に伴う発掘調査―』 高岡市教育委員会 2007 『下佐野遺跡調査報告 一有限会社広瀬エステート企画による造成工事に伴う平成 18 年度の調査 』 高瀬重雄ほか 1994『日本歴史地名大系第16巻 富山県の地名』平凡社 高橋浩二 2005「北陸の弥生墳墓から古墳へ」『季刊考古学』第92号 雄山閣

高橋真実 2010「ただいま、整理作業中 ―高岡市下佐野遺跡―」『埋文とやま』110号 富山県埋蔵文化財センター 高松町教育委員会 1985 『八野古窯跡群発掘調査概要報告書 ―農業構造改善事業に係る埋蔵文化財発掘調査―』 藤田富士夫 1975「富山市における古墳発生期の調査とその成果」『古代学研究』 76 古代学研究会 細辻真澄 2010 A「下佐野遺跡の古墳群について」『富山考古学研究 紀要』第13号

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

細辻真澄 2010 B 「下佐野遺跡の墳墓群」 『埋文とやま』 112 号 富山県埋蔵文化財センター

宮田進一 1997 「越中国における土師器の編年」

『中・近世の北陸一考古学が語る社会史』北陸中世土器研究会編 桂書房

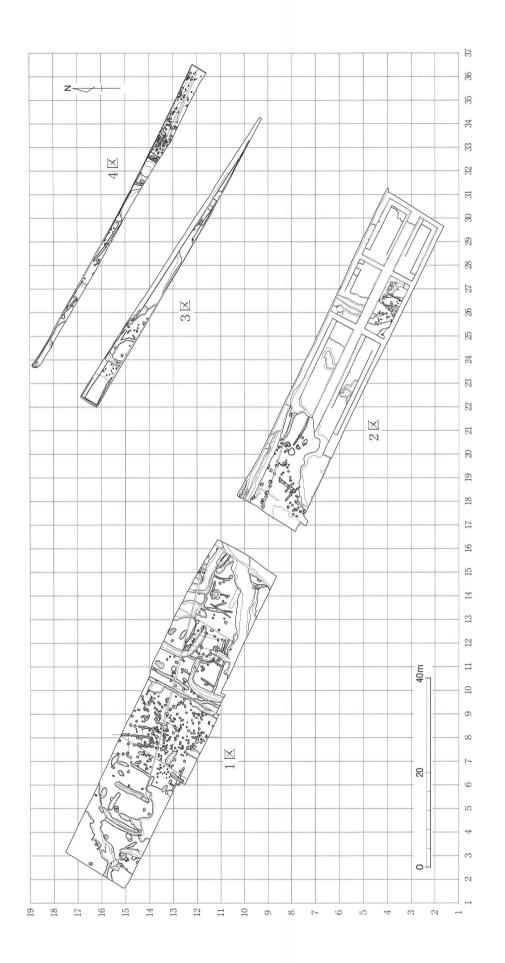
宮田進一 2007「下佐野遺跡現地研究会」『埋文とやま』101号 富山県埋蔵文化財センター

宮田進一 2008「高岡市下佐野遺跡発掘調査」

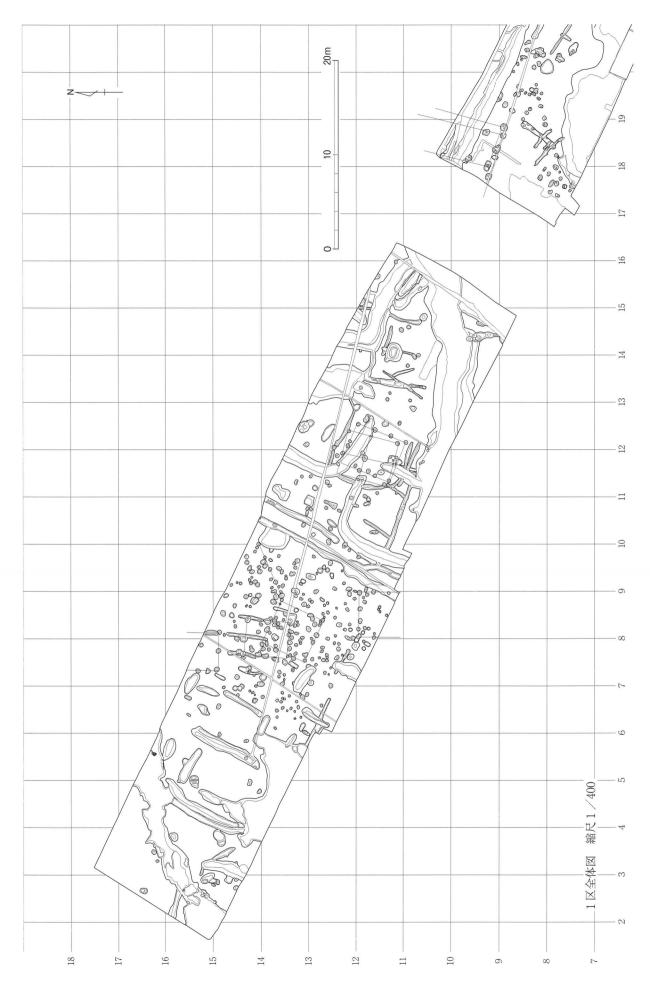
『富山県埋蔵文化財センター年報 ―平成 19 年度―』 富山県埋蔵文化財センター

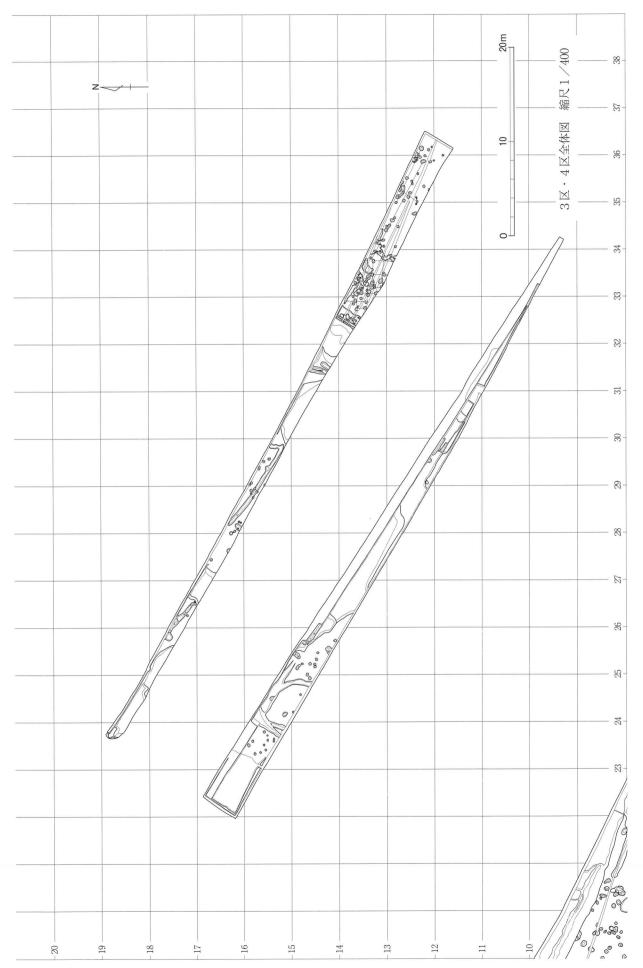
山岸良三 2005 「方形周溝墓研究 40 年」 『方形周溝墓研究の今』 雄山閣

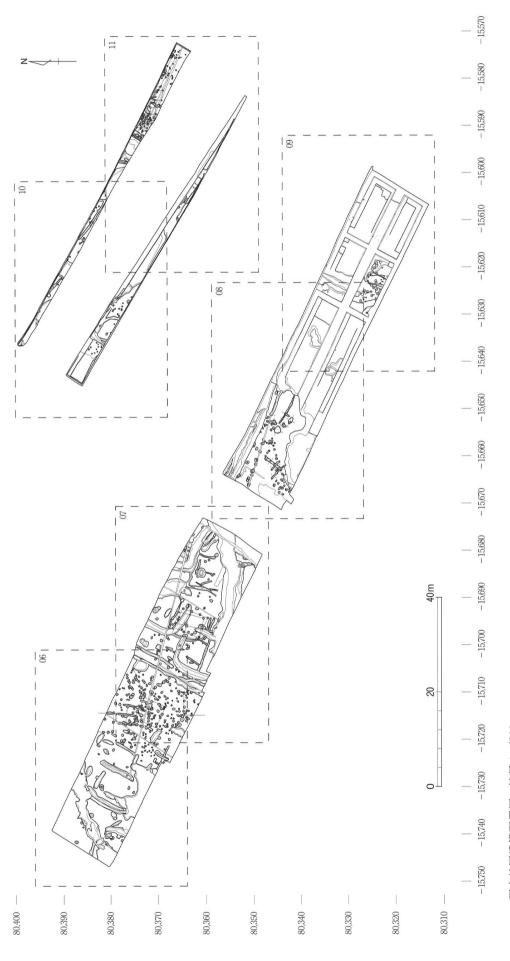
吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』 吉川弘文館



調査地区全体図 縮尺1/800



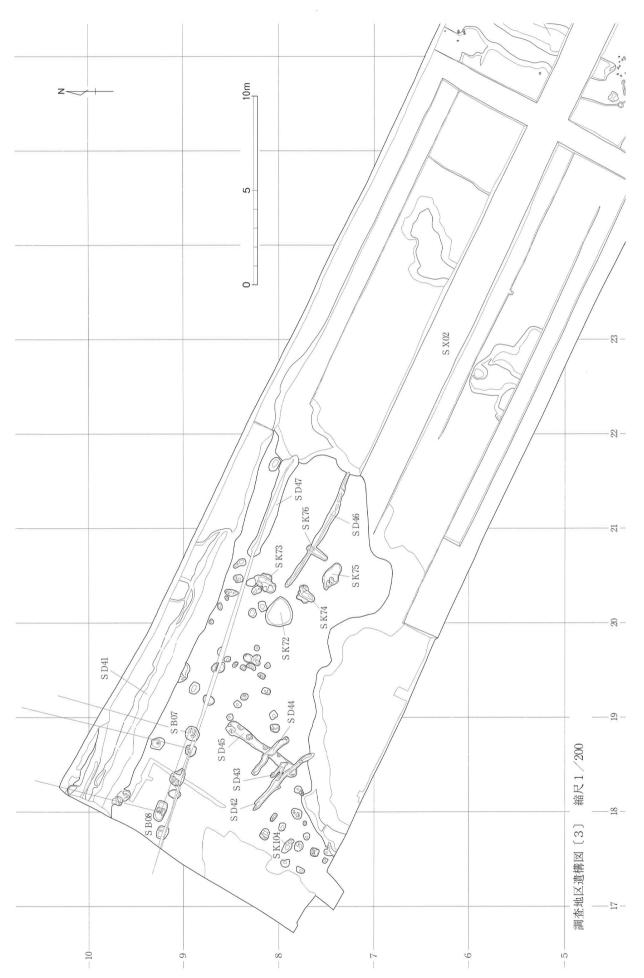


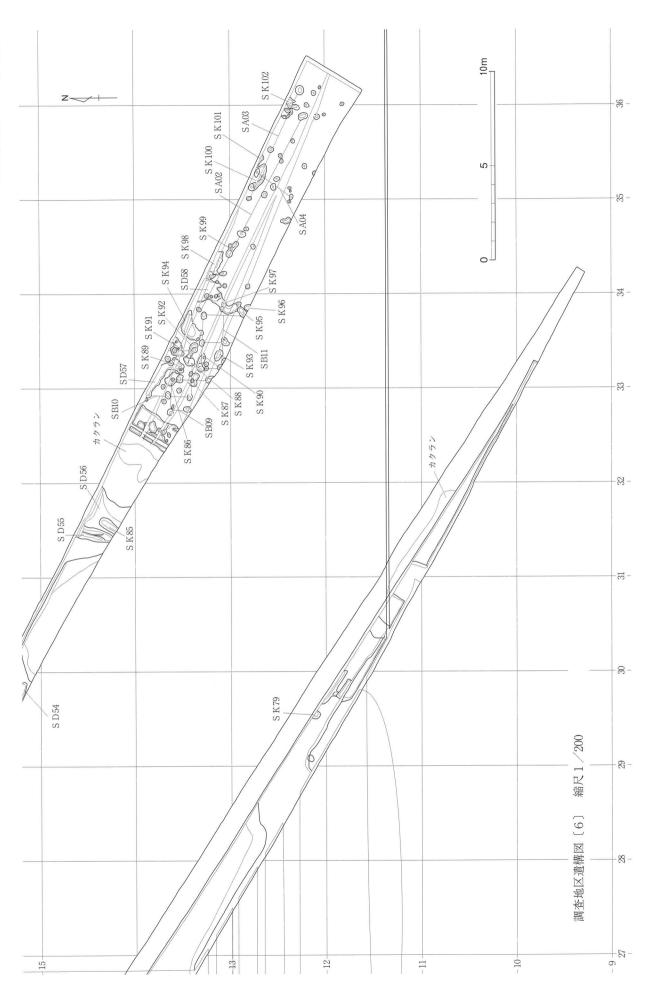


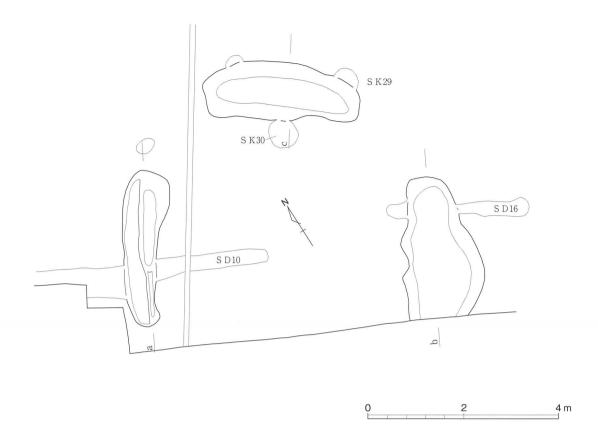
調查地区遺構配置図 縮尺1/800

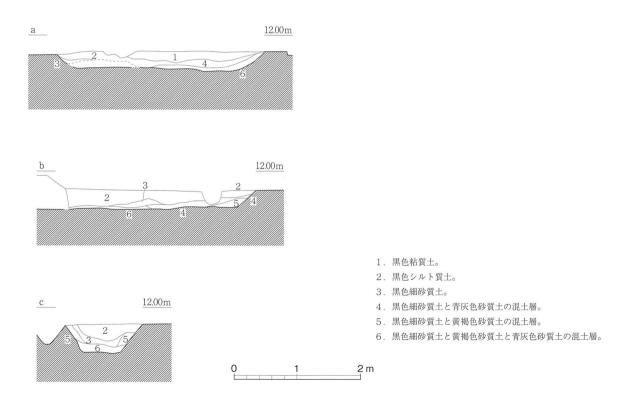


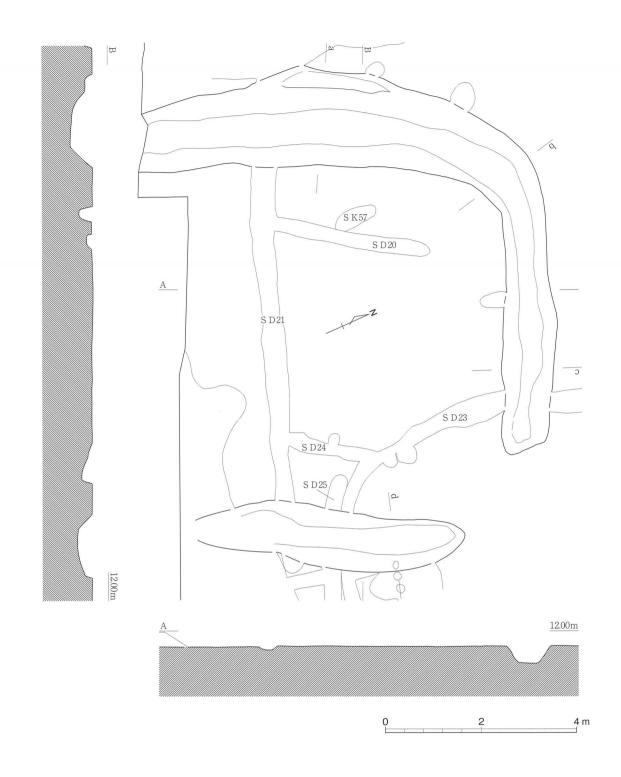


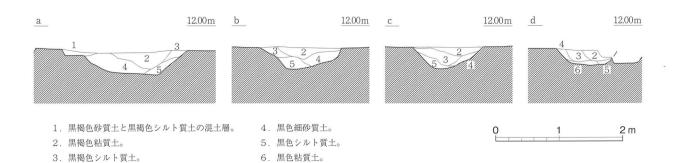


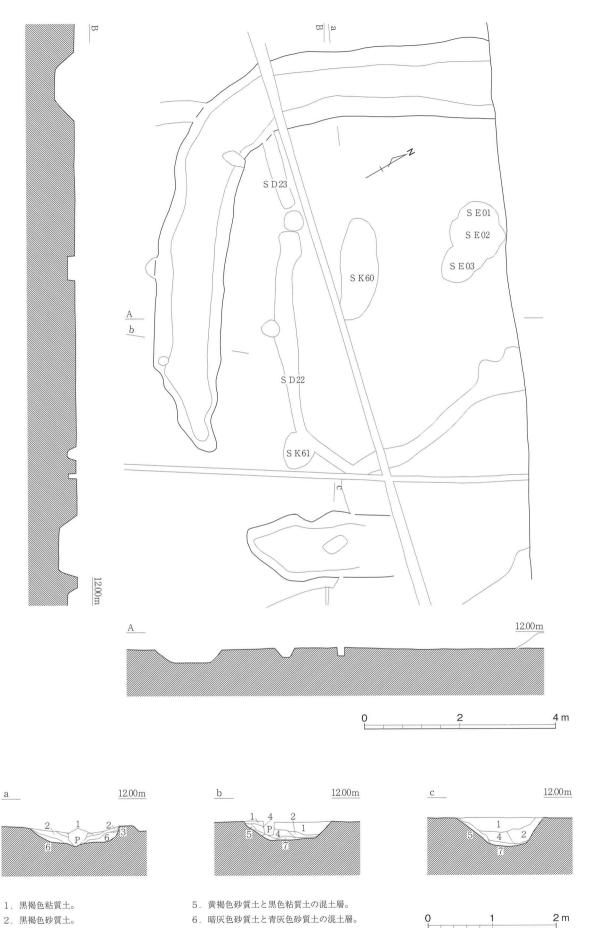








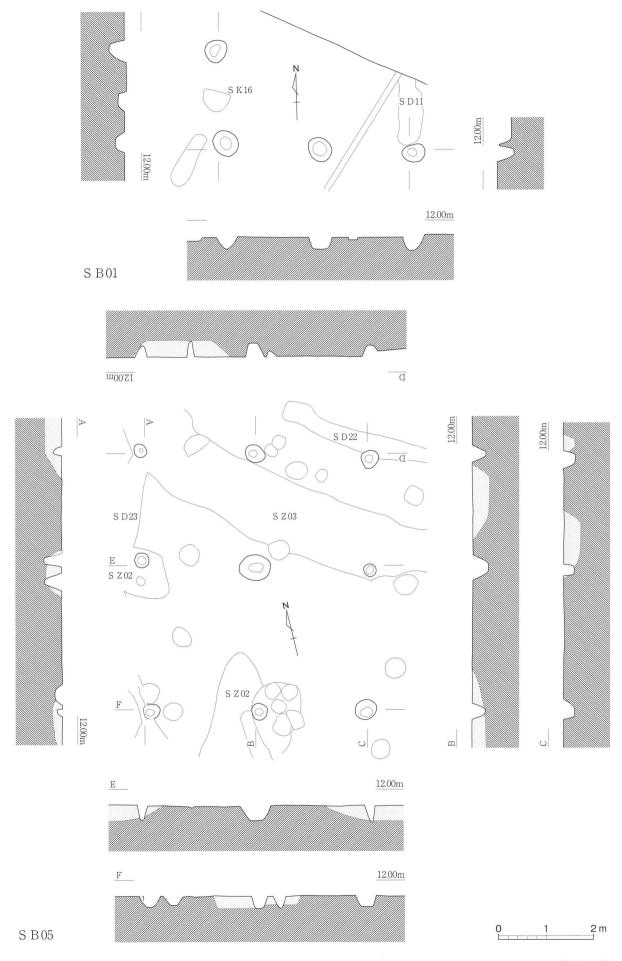


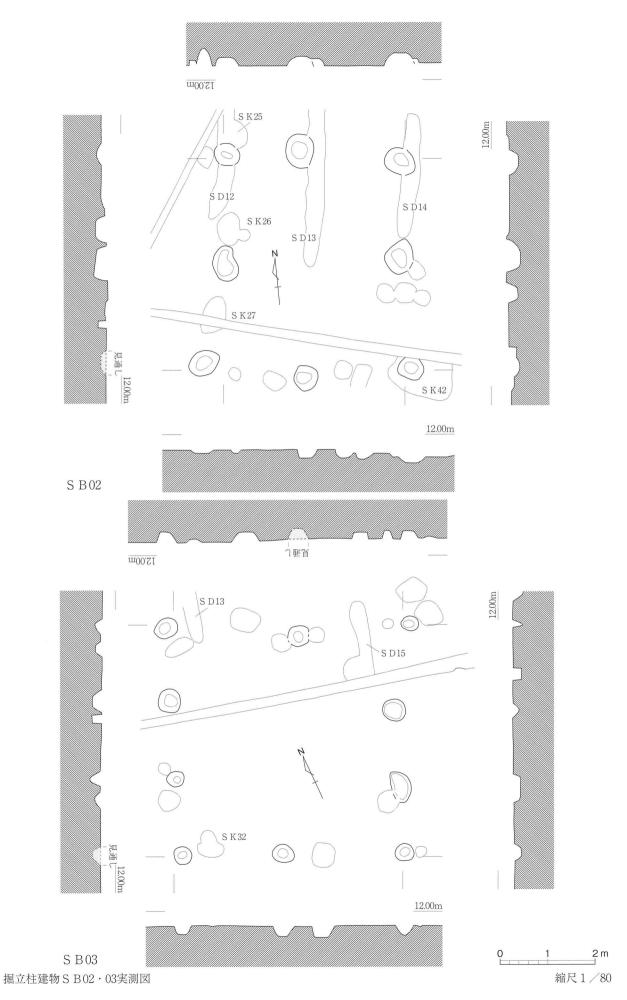


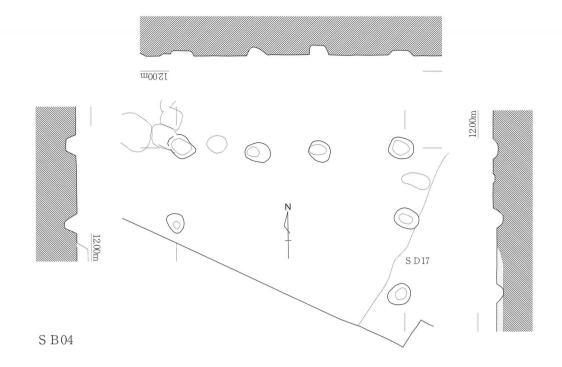
7. 黒色粘質土と青灰色砂質土の混土層。

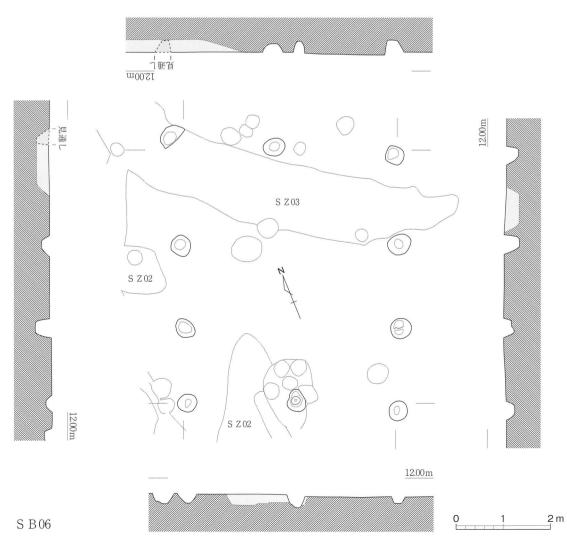
4. 黑色粘質土。

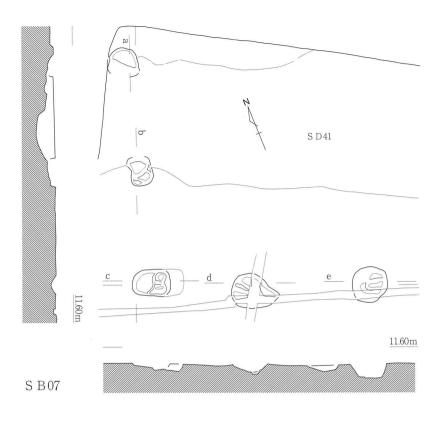
3. 暗灰色粘質土と暗灰色砂質土の混土層。

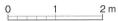


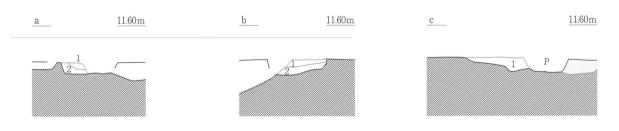








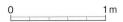


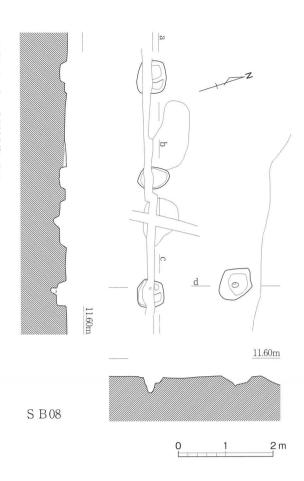


- 1. 黑褐色粘質土。
- 2. 暗黄灰色砂に暗灰色粘質土が混在。
- 1. 黒褐色粘質土。
- 2. 暗黄灰色砂に暗灰色粘質土が混在。
- 1. 黒褐色粘質土と暗灰色粘質土と黄灰色砂の混土層。



- 1. 黒褐色粘質土と暗灰色粘質土の混土層。
- 2. 黒褐色粘質土と黄灰色砂の混土層。
- 1. 黒褐色粘質土と暗灰色粘質土の混土層。
- 2. 黒褐色粘質土。暗灰色粘質土と黄灰色砂を含む。





1. 暗灰色粘質土。

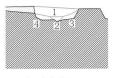
_a__

2. 黒褐色粘質土と暗灰色粘質土の混土層。 2. 黄灰色砂に黒褐色粘質土を含む。

11.60m

11.60m

3. 黄灰色砂に黒褐色粘質土を含む。



- 1. 暗灰色粘質土。

11.60m

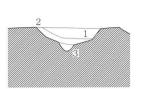
11.60m

- 3. 黄灰色砂に暗灰色粘質土を含む。
- 4. 黄灰色砂。

b

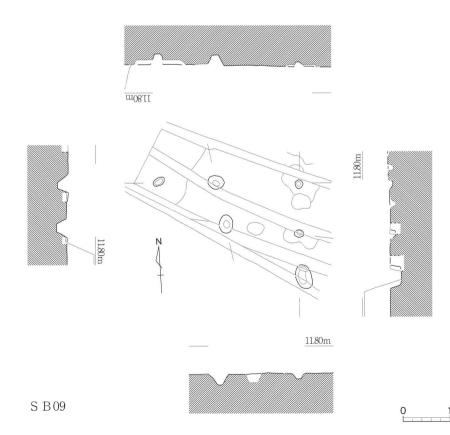
/2

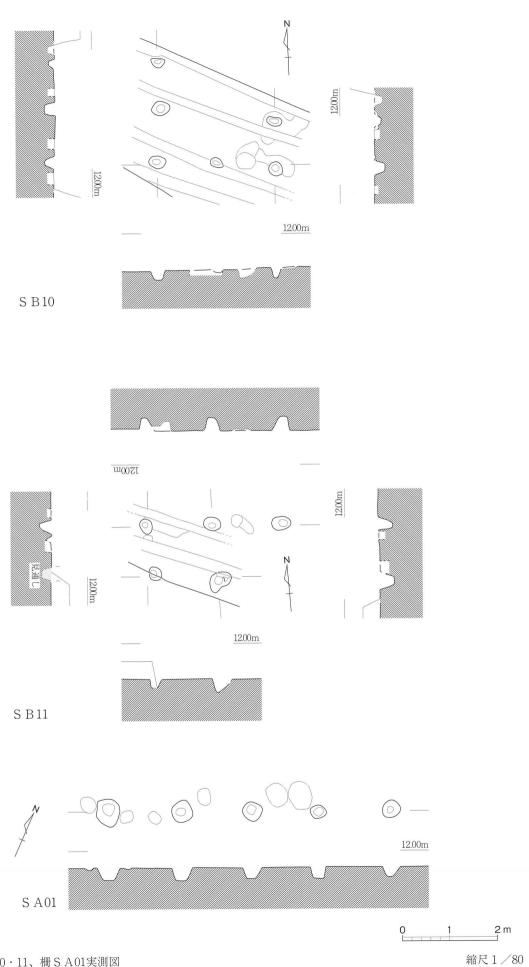
- 1. 暗灰色粘質土と黄灰色砂の混土層。
- 2. 黄灰色砂に黒褐色粘質土を含む。
- 3. 暗灰色砂質土。

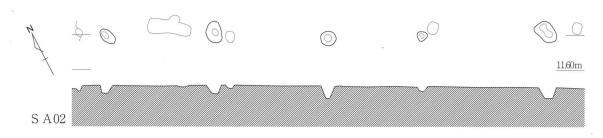


- 1. 灰色粘質土。
- 2. 黄灰色砂と灰色粘質土の混土層。
- 3. 黒褐色粘質土。

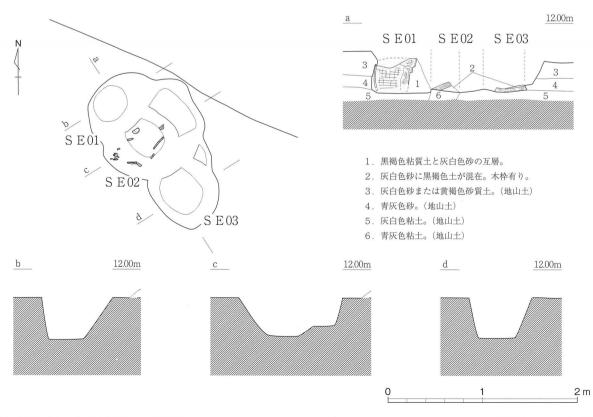


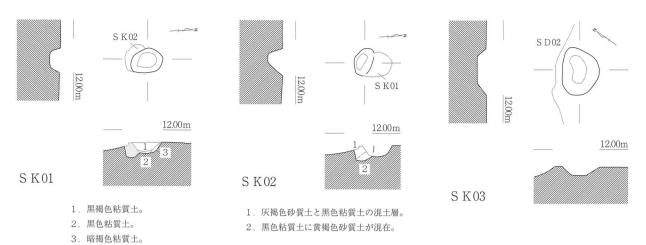


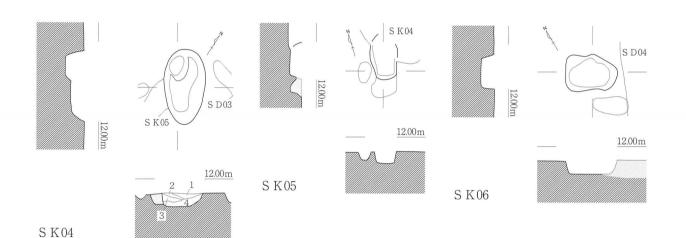




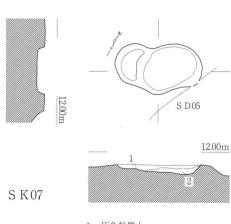




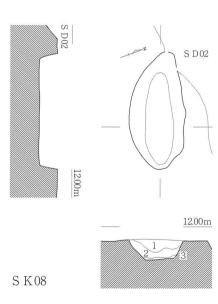




- 1. 灰色粘質土。
- 2. 黒褐色粘質土。
- 3. 黒褐色粘質土と灰色粘質土の混土層。
- 4. 黄褐色砂質土と3層混土層。

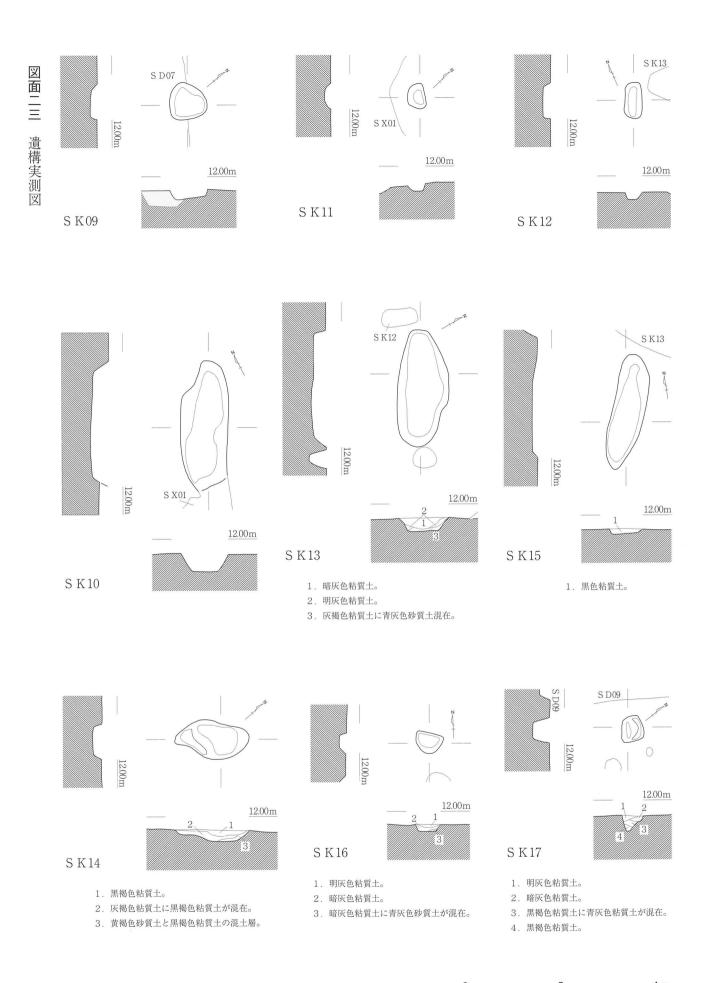


- 1. 灰色粘質土。
- 2. 暗灰色粘質土。



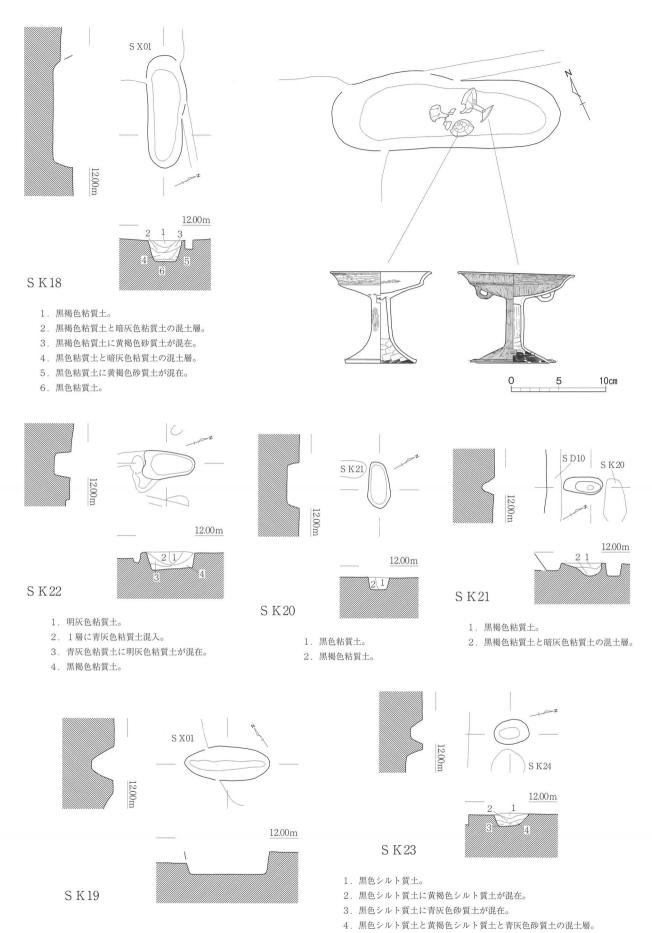
- 1. 暗灰色粘質土。
- 2. 暗灰色粘質土と青灰色砂質土の混土層。
- 3. 青灰色粗砂。

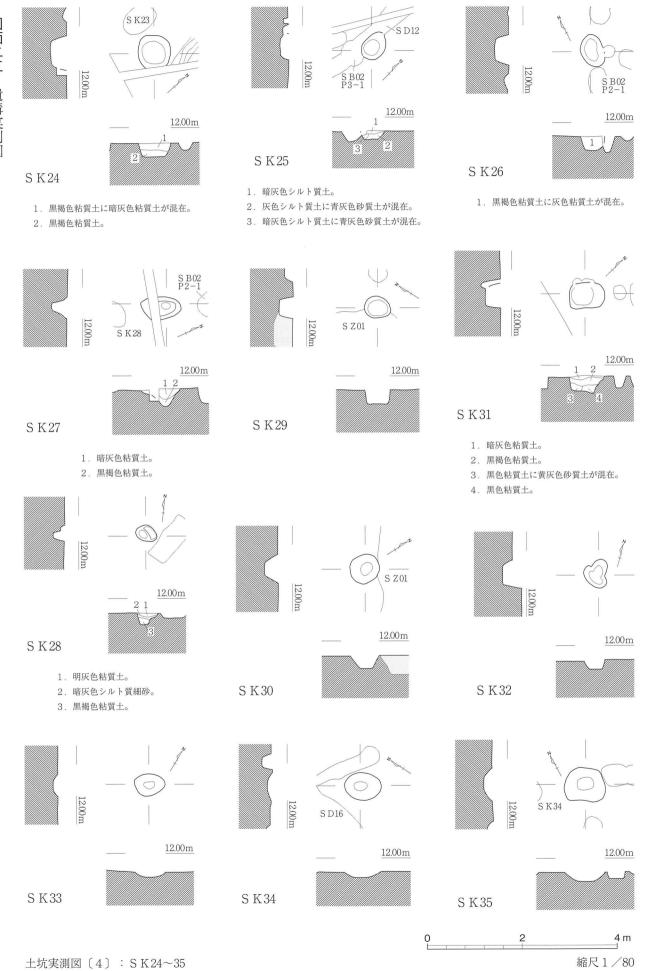




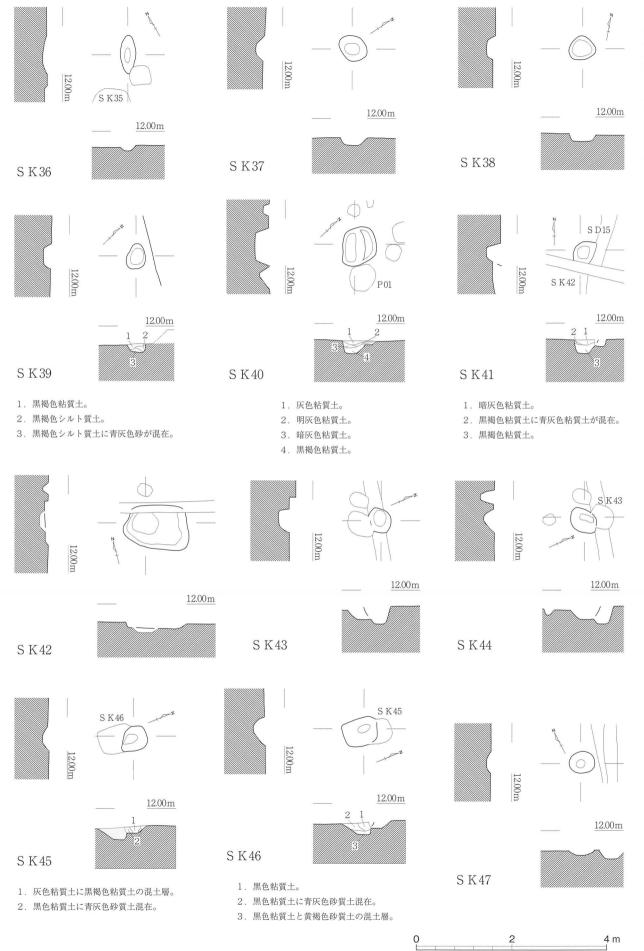
 0
 2
 4 m

 土坑実測図〔2〕: S K 09~17
 縮尺 1 / 80

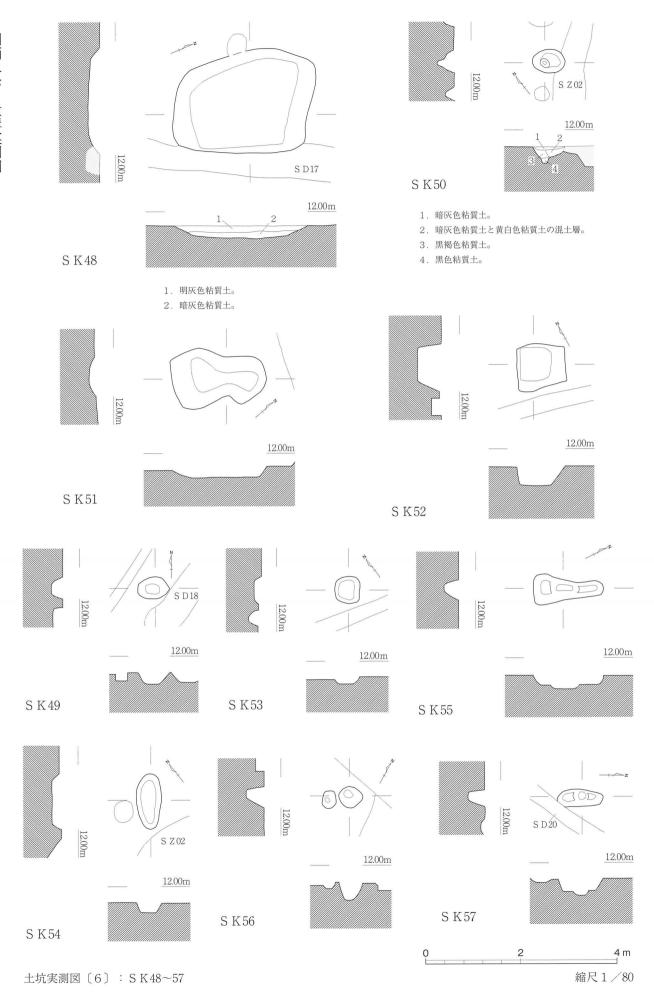


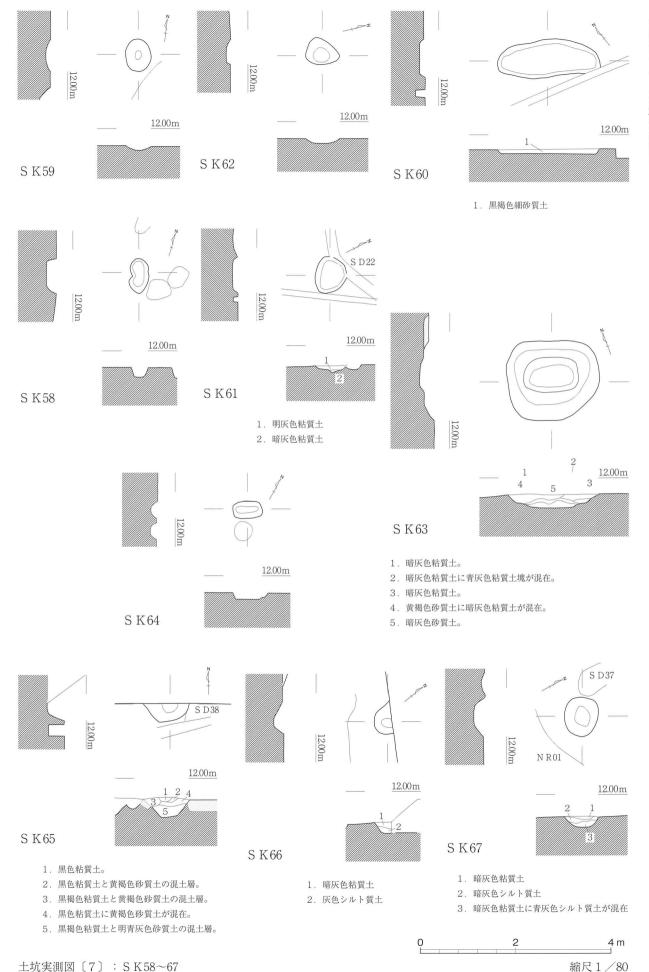


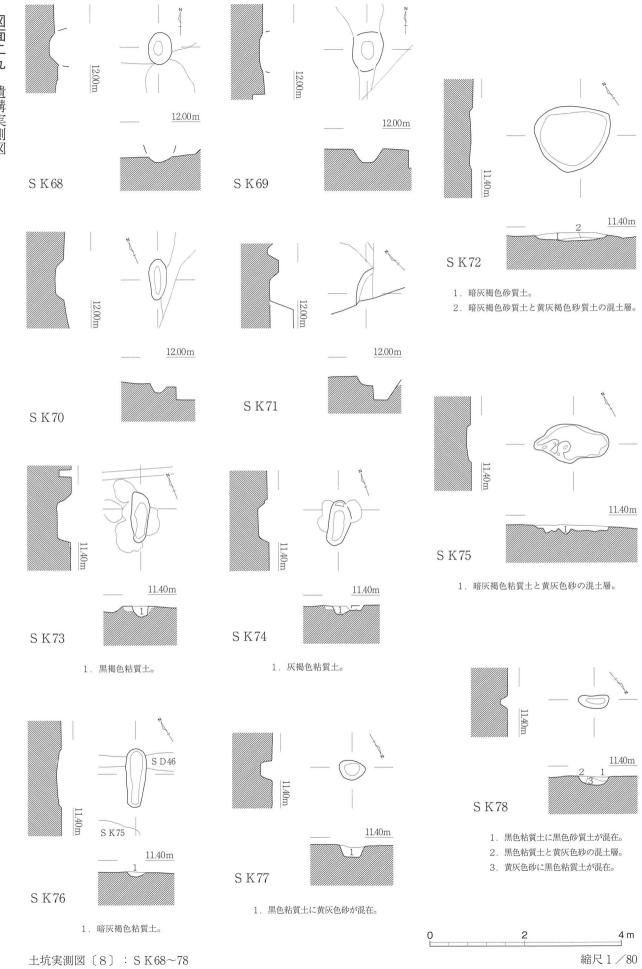
縮尺1/80



土坑実測図〔5〕: S K 36~47







土坑実測図〔9〕: S K 79~90

図面三〇

遺構実測図

縮尺1/80

- 1. 黑色粘質土。
- 2. 黒色粘質土と褐色粘質土と青灰色粘質土の混土層。
- 3. 黒色粘質土に黄灰色砂質土が混在

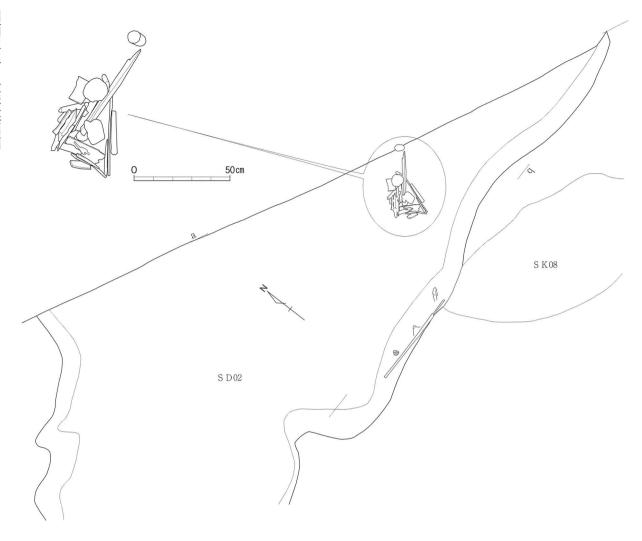


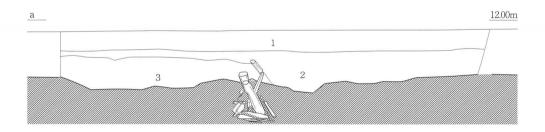
溝状遺構実測図〔1〕: S D 02~06

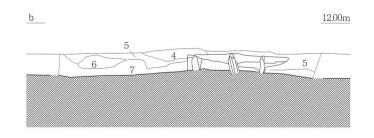
図面三二

遺構実測図

縮尺1/60·1/80

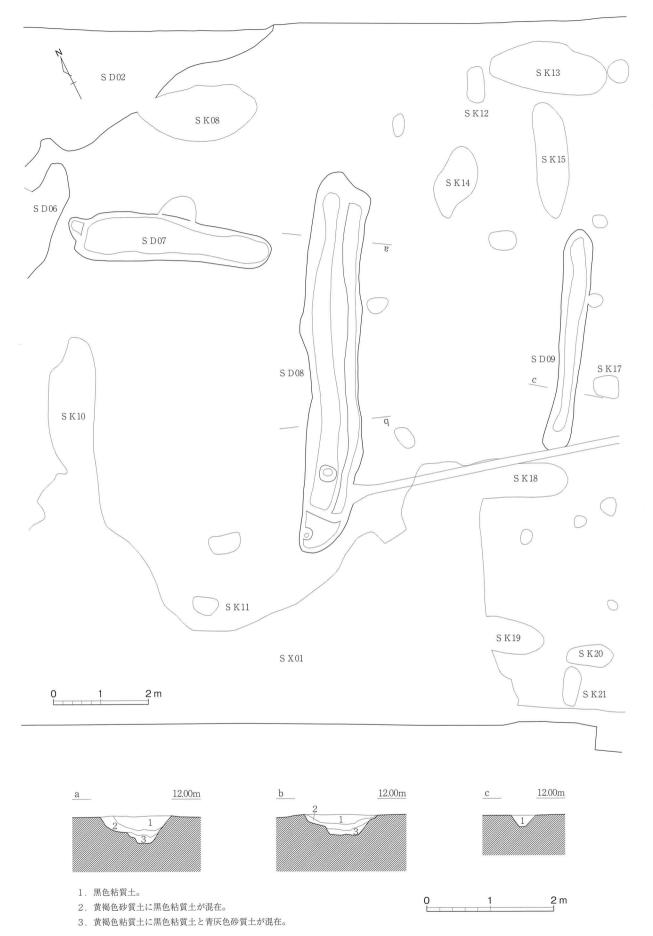


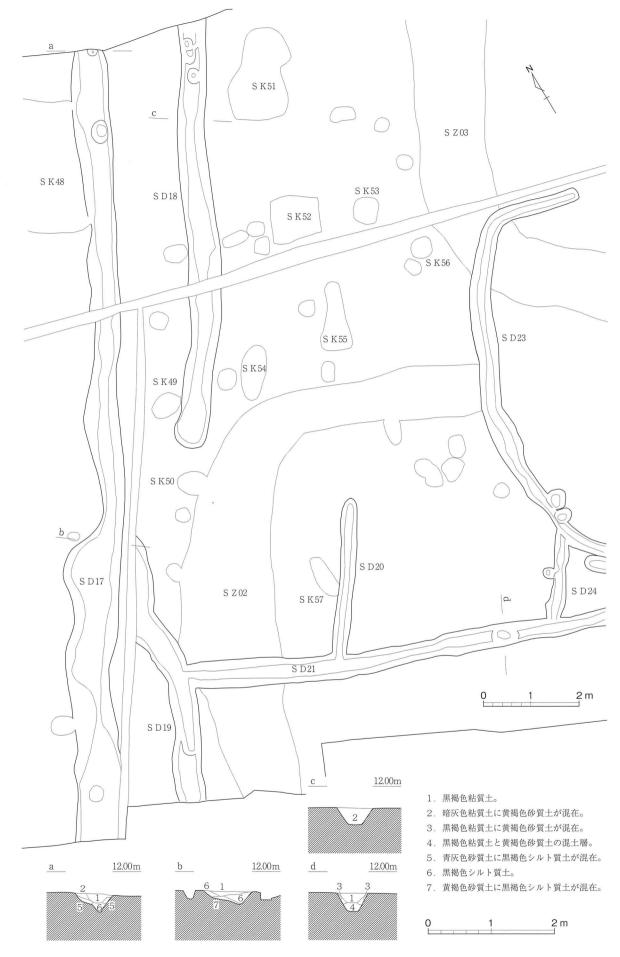




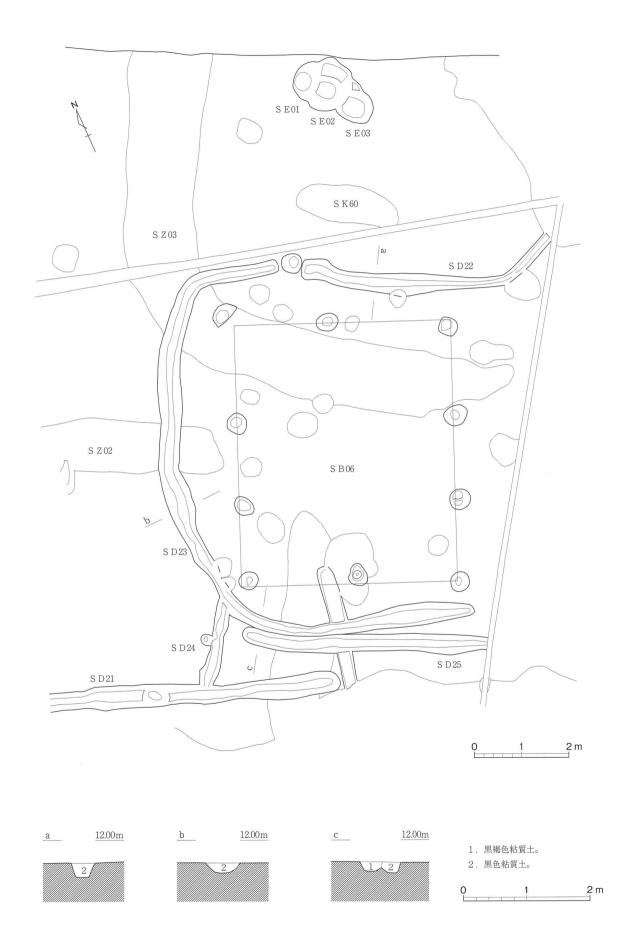
- 1. 黄褐色砂質土。(表土)
- 2. 暗灰色粘質土。
- 3. 明灰色粘質土。
- 4. 黑褐色粘質土。
- 5. 黄褐色砂質土。(地山土)
- 6. 青灰色シルト質土。(地山土)
- 7. 青灰色粗砂。(地山土)

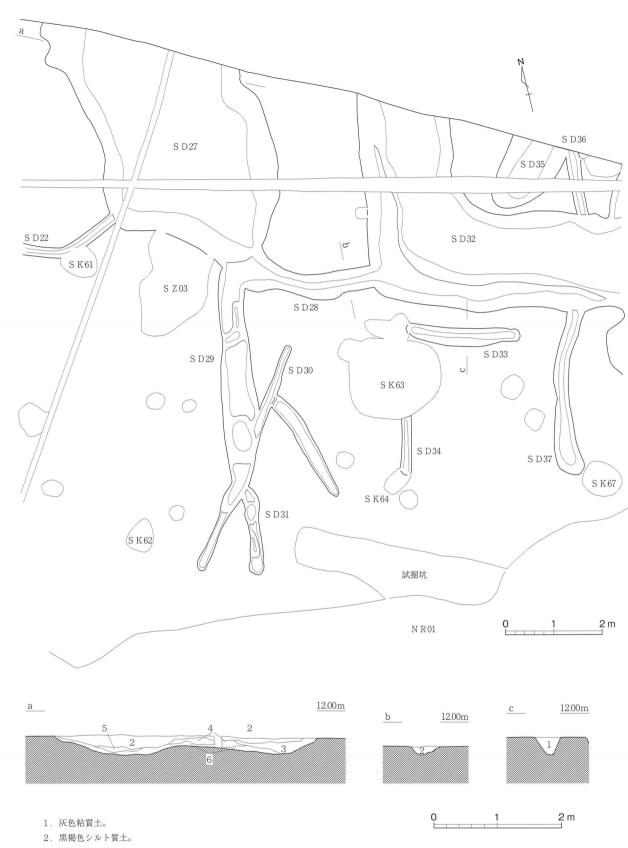




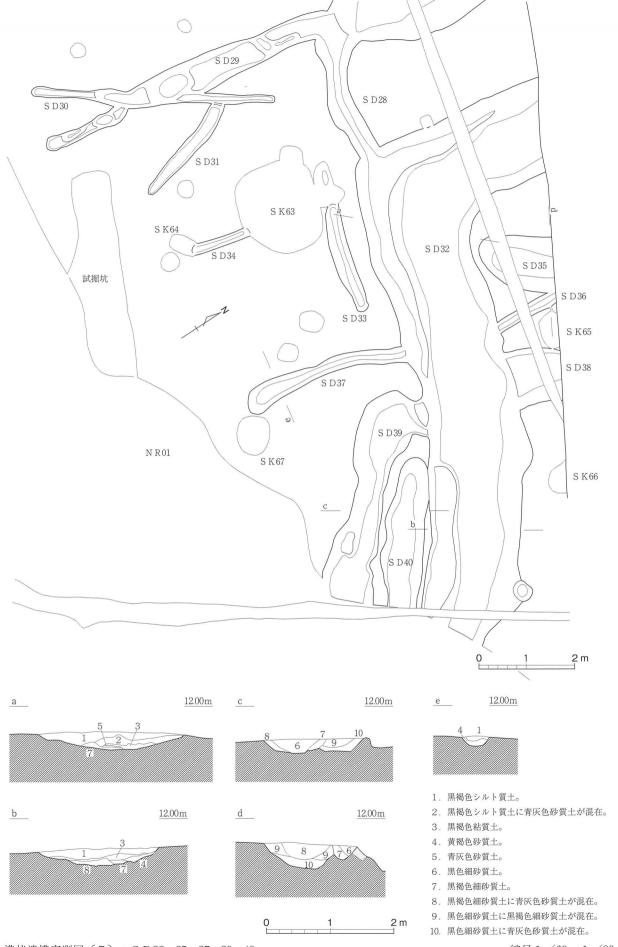


溝状遺構実測図〔4〕: S D17·18·21



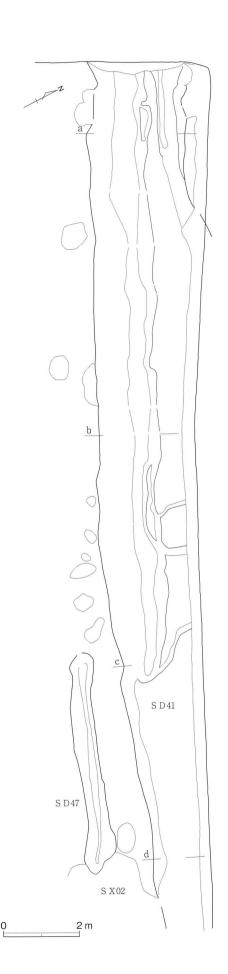


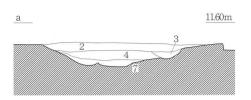
- 3. 黑褐色細砂質土。
- 4. 黒褐色シルト質土に黄褐色砂質土が混在。
- 5. 黑褐色粘質土。
- 6. 黒褐色粘質土に黄褐色砂質土が混在。

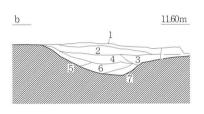


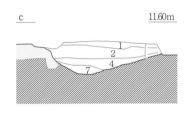
溝状遺構実測図〔7〕: S D 32·35~37·39·40

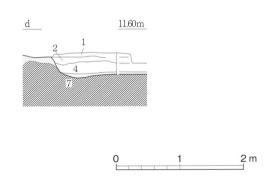
縮尺1/60·1/80



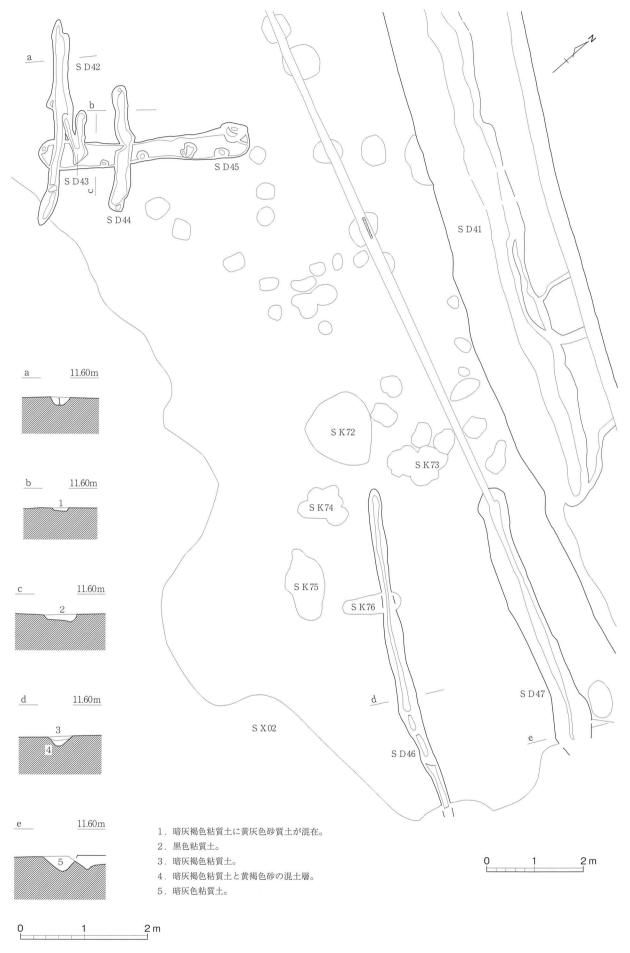


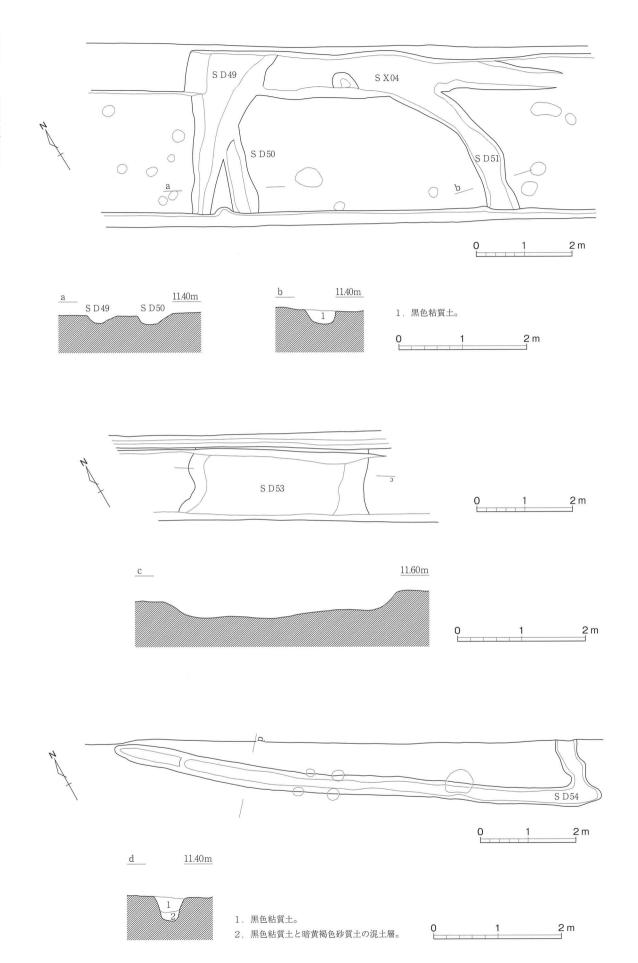






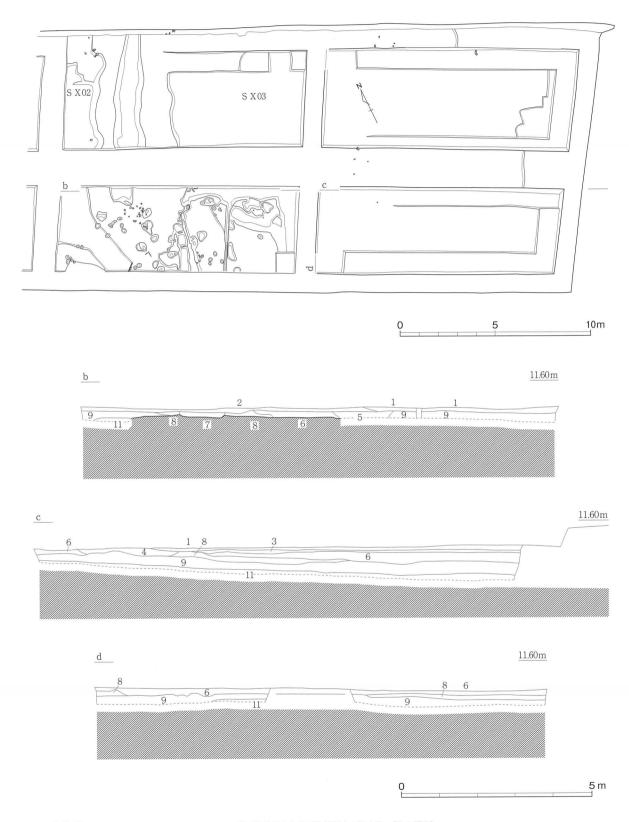
- 1. 灰褐色粘質土に黄灰色砂が混在。
- 2. 灰褐色粘質土。
- 3. 暗灰色粘質土に黄灰色砂が混在。
- 4. 灰褐色粘質土と黄灰色砂の混土層。
- 5. 暗灰褐色粘質土。
- 6. 暗灰色粘質土。
- 7. 灰褐色粘質土と暗灰色粘質土と黄灰色砂の混土層。



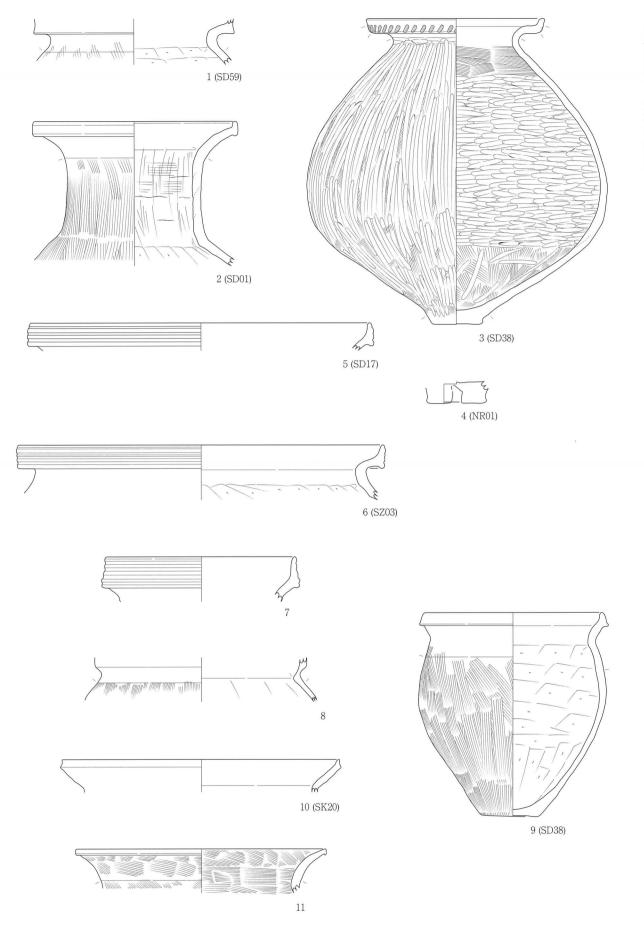




凹地SX02実測図

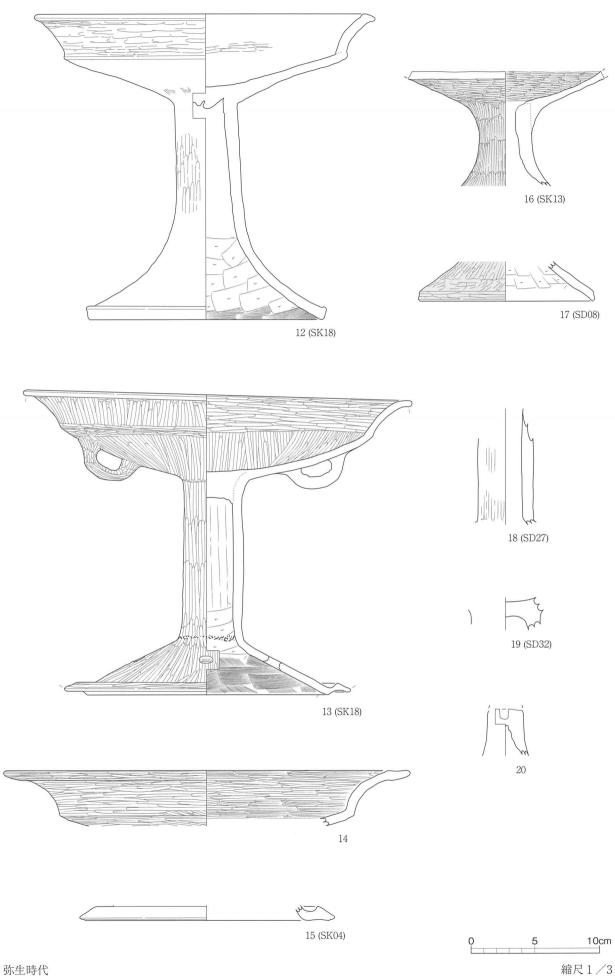


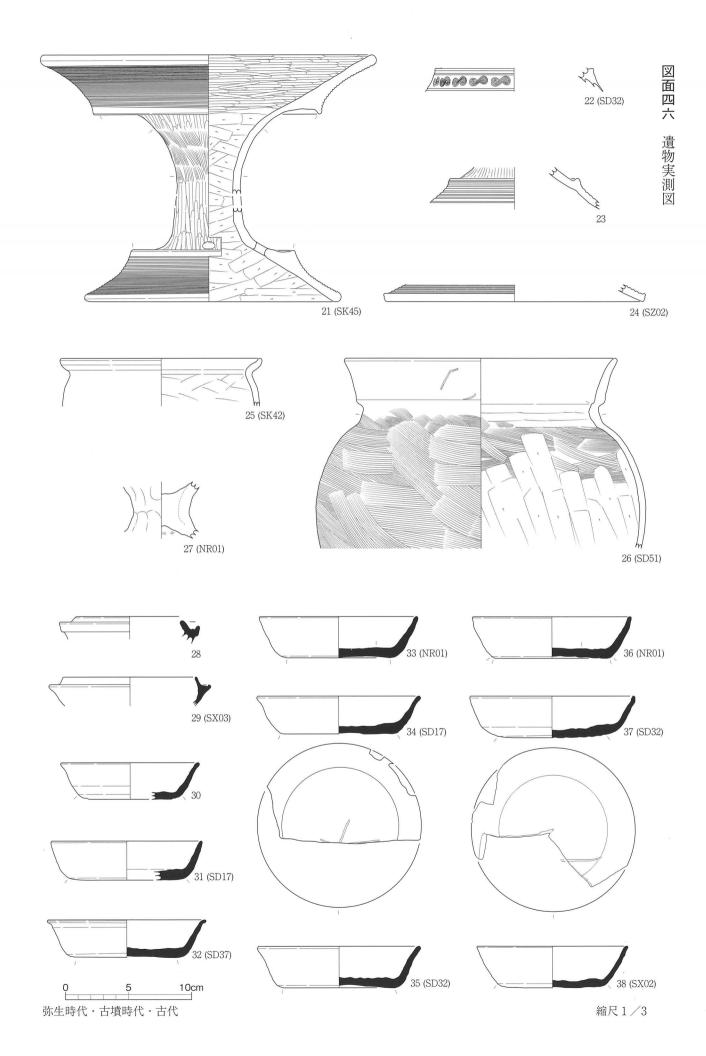
- 1. 灰色粘質土。
- 2. 暗灰色粘質土。
- 3. 灰白色粘質土。
- 4. 灰褐色砂質土。
- 5. 灰褐色粘質土
- 6. 暗灰色粘質土に暗灰色砂質土が混在。
- 7. 黄灰色砂質土と暗灰色粘質土の混土層。(SD覆土)
- 8. 暗灰褐色粘質土。
- 9. 黑色腐植土。
- 10. 褐色腐植土。
- 11. 灰色粘質土に腐植物が混在。



0 5 10cm 縮尺1/3

弥生時代





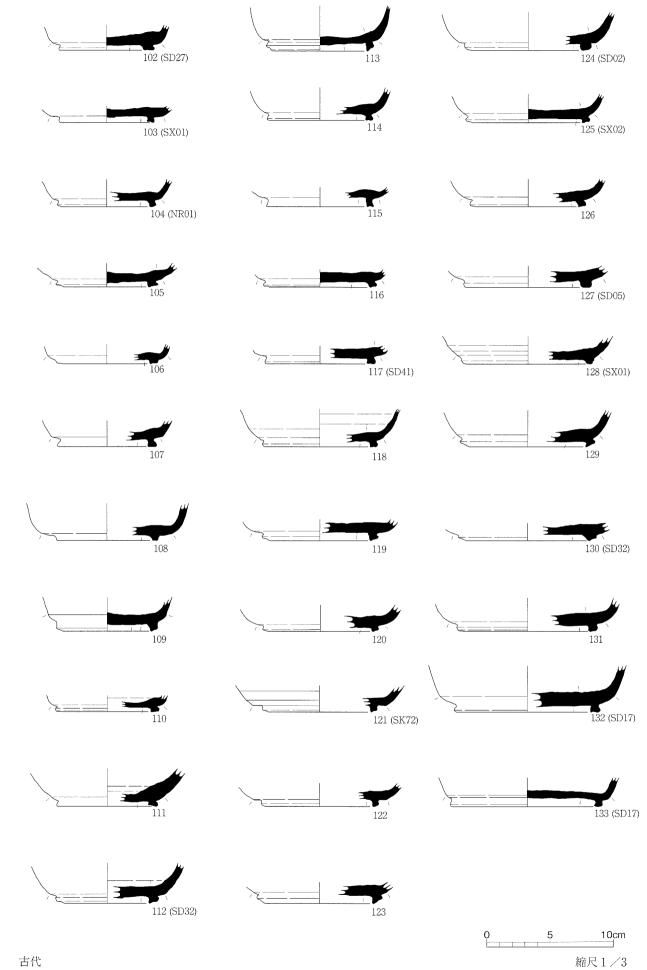
• 61 (SD32)

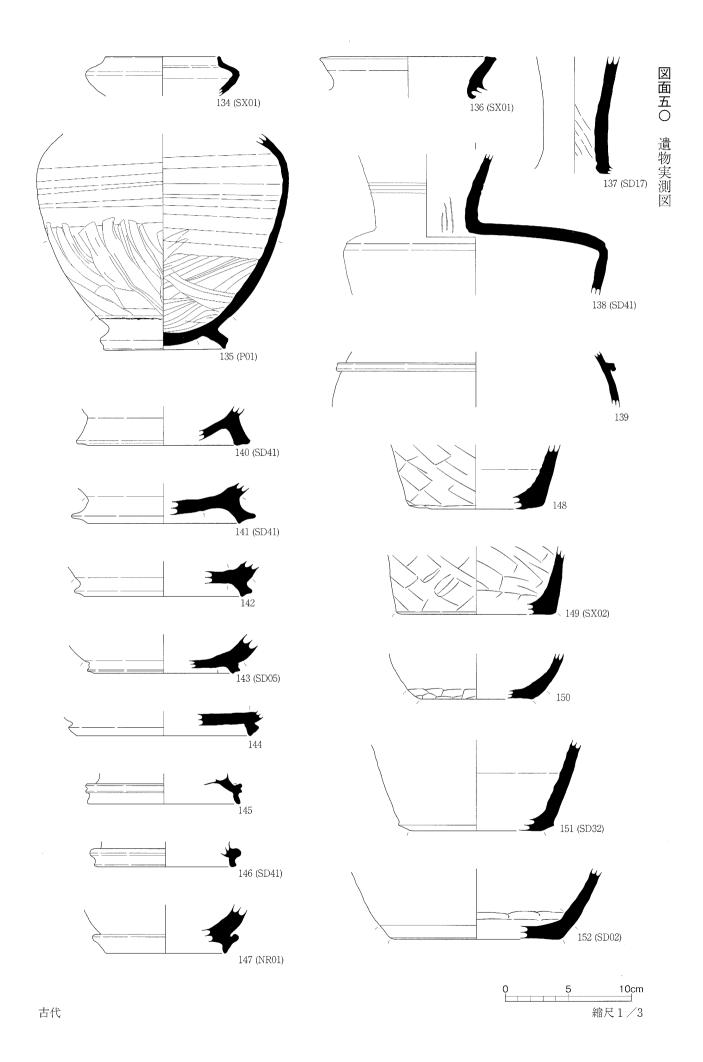
古代

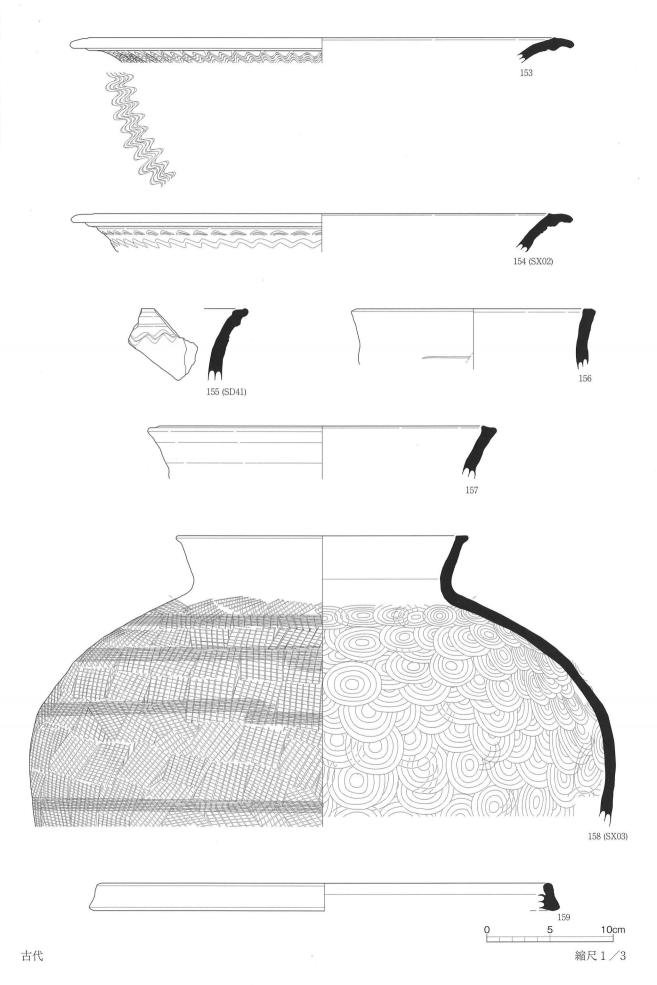
縮尺1/3

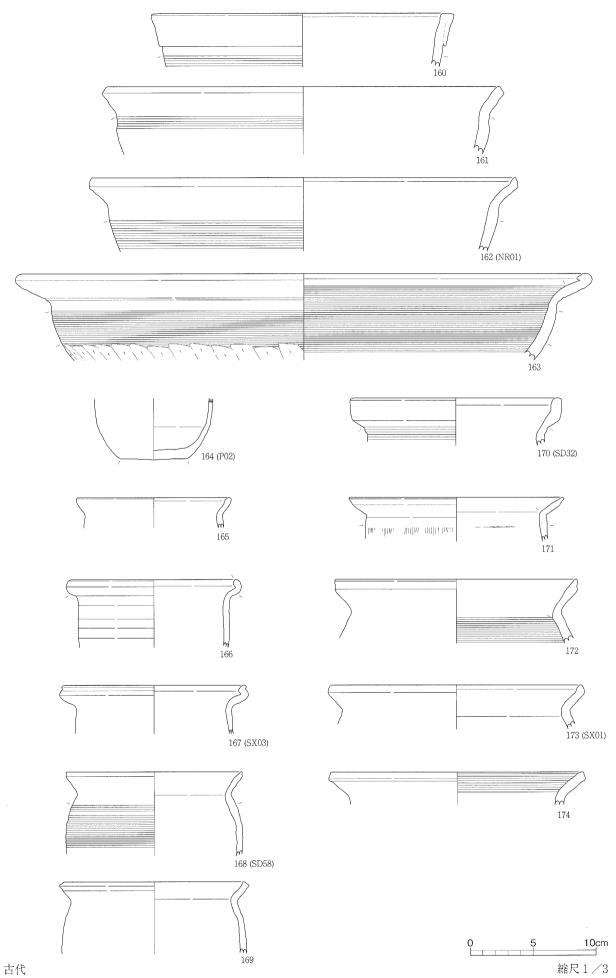
図面四八

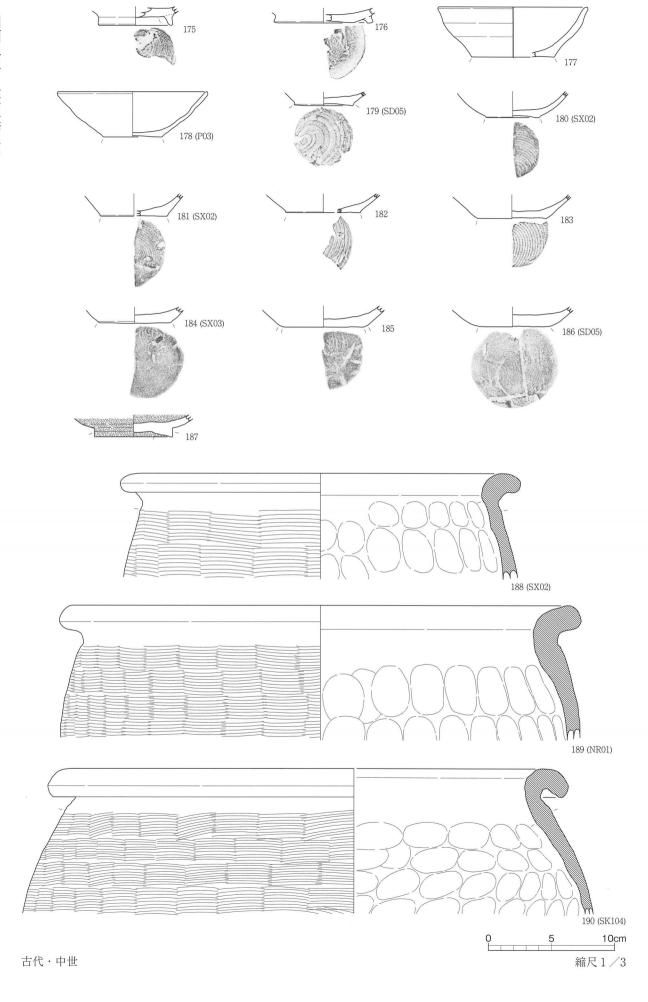
遺物実測図

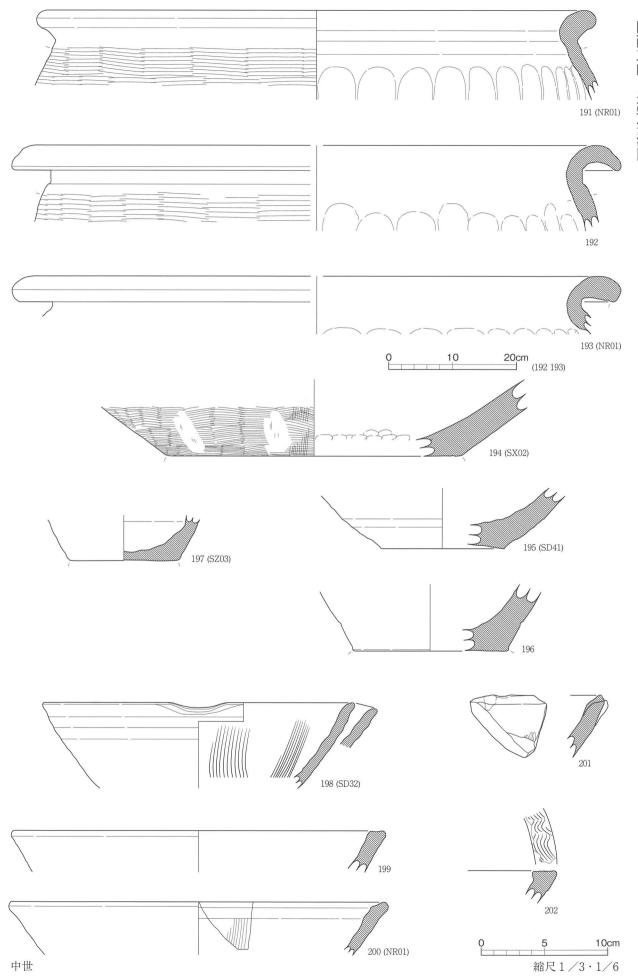












中世

図面五六

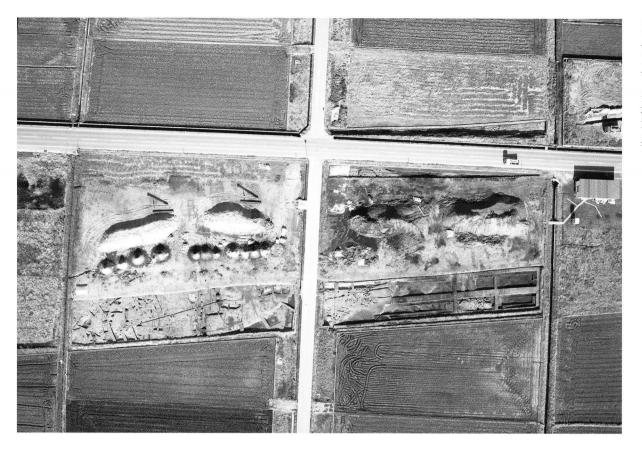
遺物実測図



1. 大遠景 (南)



2. 遠景(北西)



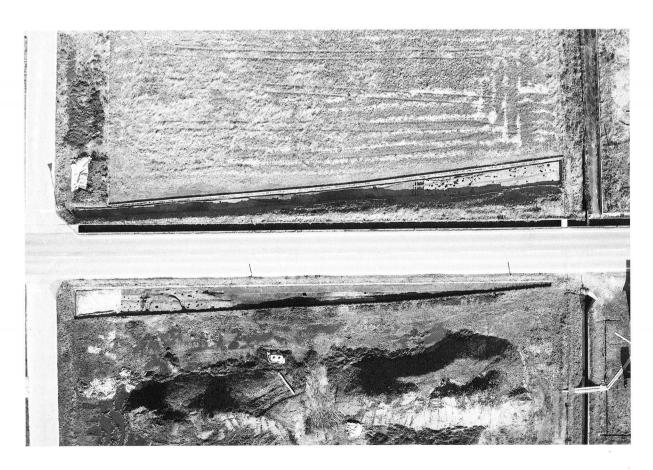
1. 調査地区全景(直上)



2. 1区全景(直上)



1. 2区全景(直上)



2. 3・4区全景(直上)



1. 1区検出状況(東南東)



2. 1区検出状況 (西南西)



1. 1区掘削状況(南西)



2. 1区掘削状況(東北東)



1. 2区検出状況(西北西)



2. 2区検出状況(東南東)



1. 2区掘削状況(東南東)



2. 2区掘削状況(北西)



1. 3区検出状況(北西)



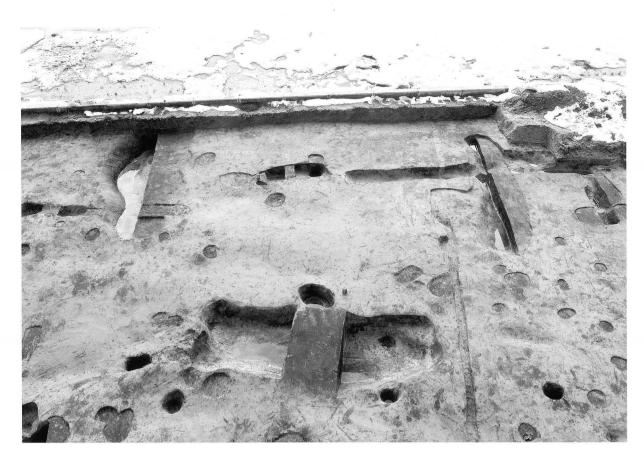
2. 4区検出状況(南東)



1. 3 · 4 区掘削状況(北西)



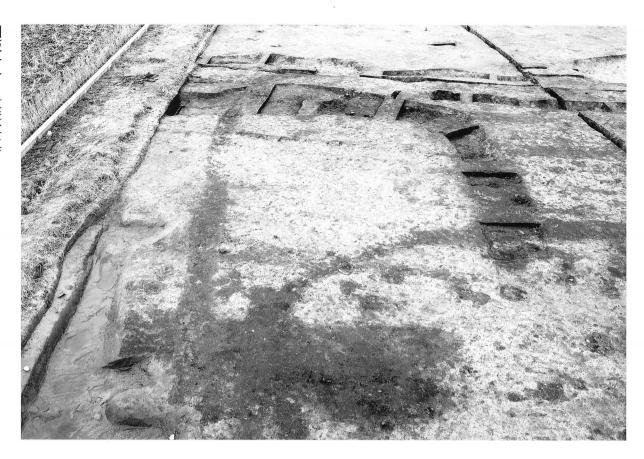
2. 3 · 4 区掘削状況 (東南東)



1. 方形周溝墓SZ01掘削状況(北東)



2. 方形周溝墓SZ01掘削状況(北西)



1. 方形周溝墓SZ02検出状況(東南東)



2. 方形周溝墓SZ02検出状況(西北西)



1. 方形周溝墓SZ02掘削状況(西北西)



2. 方形周溝墓SZ02掘削状況(北西)



1. 方形周溝墓SZ03検出状況(北東)



2. 方形周溝墓SZ03検出状況(南)



1. 方形周溝墓SZ03掘削状況(北西)



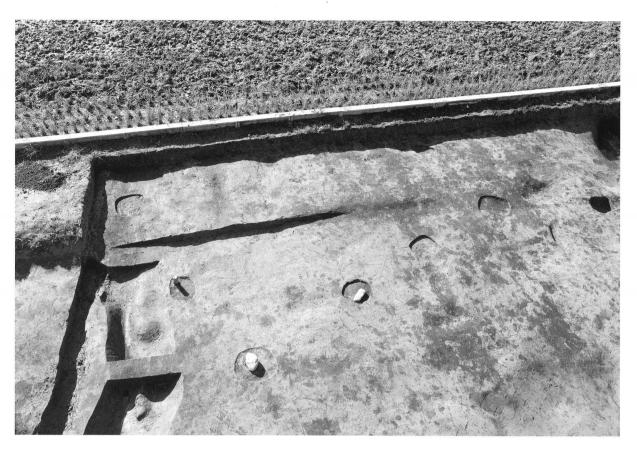
2. 方形周溝墓SZ03掘削状況(南)



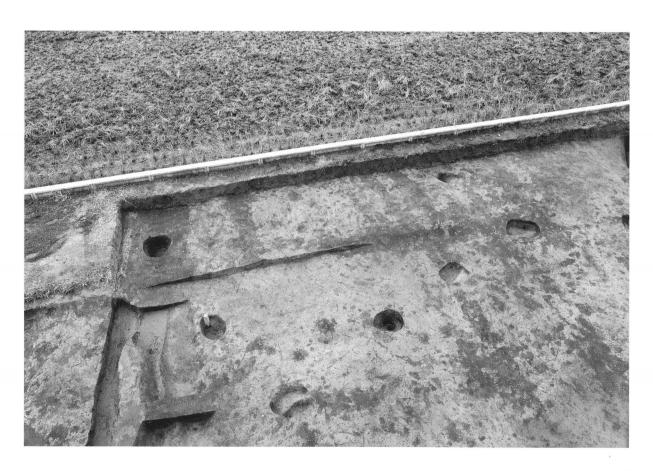
1. 掘立柱建物SB01完掘状況(北)



2. 掘立柱建物SB01完掘状況(北東)



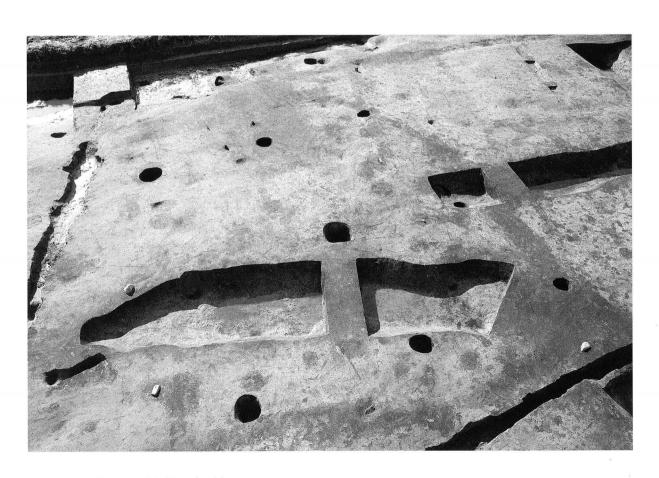
1. 掘立柱建物SB04検出状況(北東)



2. 掘立柱建物SB04完掘状況(北東)



1. 掘立柱建物SB05·06検出状況(北東)



2. 掘立柱建物SB05完掘状況(北東)



1. 掘立柱建物SB07完掘状況(南東)



2. 掘立柱建物SB08完掘状況(南東)



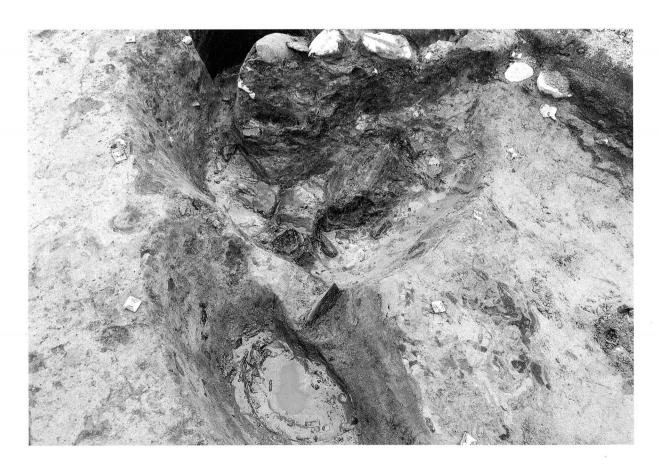
1. 井戸SE01~03完掘状況(東)



2. 井戸SE01~03断ち割り状況(北東)



1. 井戸SE01完掘状況(北東)



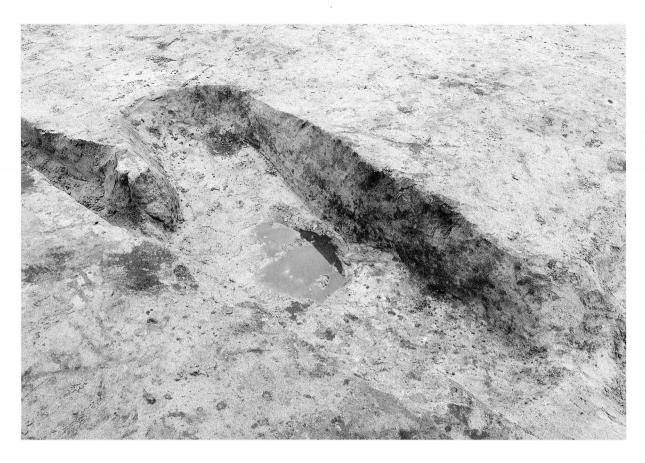
2. 井戸SE02遺物出土状況(北)



1. 土坑SK07完掘状況(南)



2. 土坑 S K 14完掘状況 (北)



1. 土坑 S K 18完掘状況(北)



2. 土坑 S K 18完掘状況(北東)



1. 土坑SK18遺物出土状況(南南東)



2. 土坑 S K 18遺物出土状況(東南東)



1. 土坑 S K73 完掘状況 (西)

2. 土坑 S K 74 完掘状況 (西)

3. 土坑 S K 76 完掘状況 (西)



1. 溝状遺構 S D 02 · 05 · 06掘削状況 (北東)



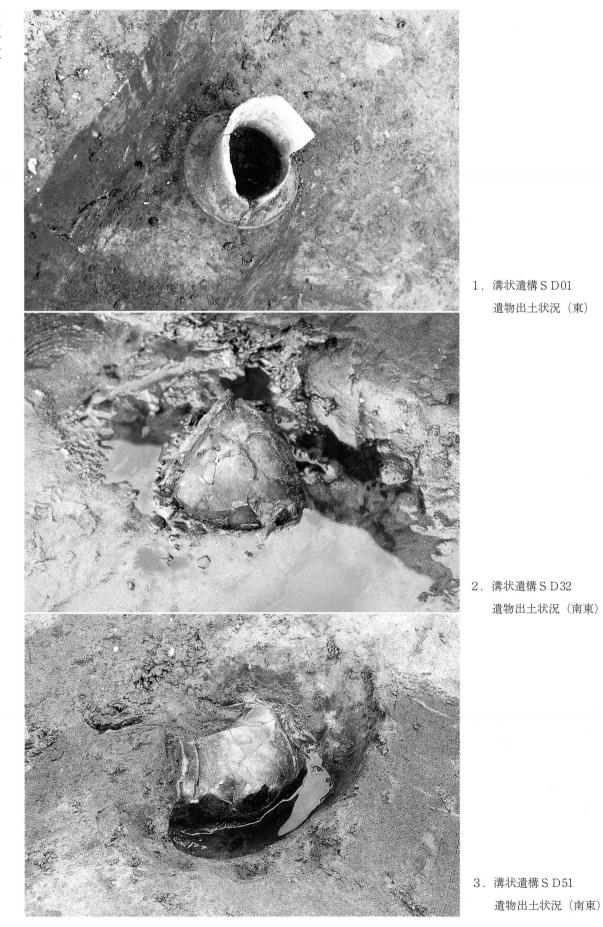
2. 溝状遺構SD05~09、土坑SK08完掘状況(北東)



1. 溝状遺構 S D 02 堰確認状況(北西)

2. 溝状遺構 S D 02 堰近景(北西)

3. 溝状遺構 S D 02 堰近景 (北)





 ピットP01 遺物出土状況(北西)

2. ピットP02 遺物出土状況(南)

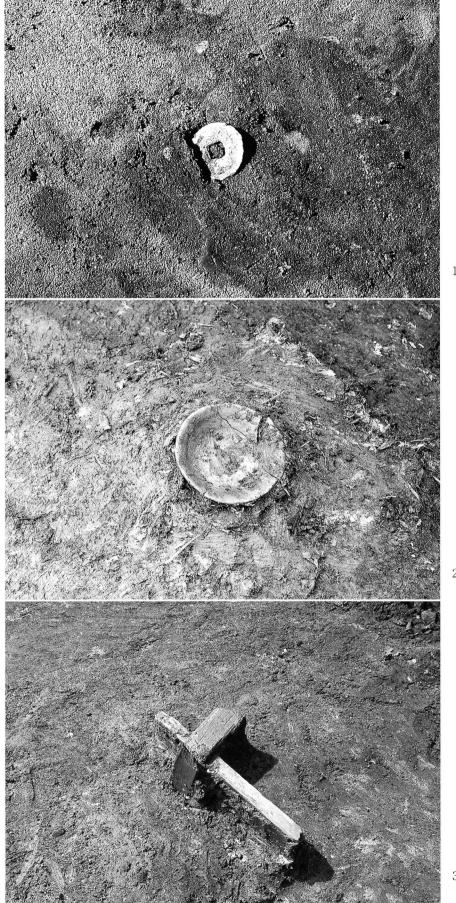
3. ピットP03 遺物出土状況 (北北西)



1. 凹地SX03全景(西北西)



2. 凹地S X 03全景 (東南東)



1. 溝状遺構 S D 32 遺物出土状況 (北西)

2. 凹地SX03 遺物出土状況(南)

3. 凹地SX03 遺物出土状況(北北西)



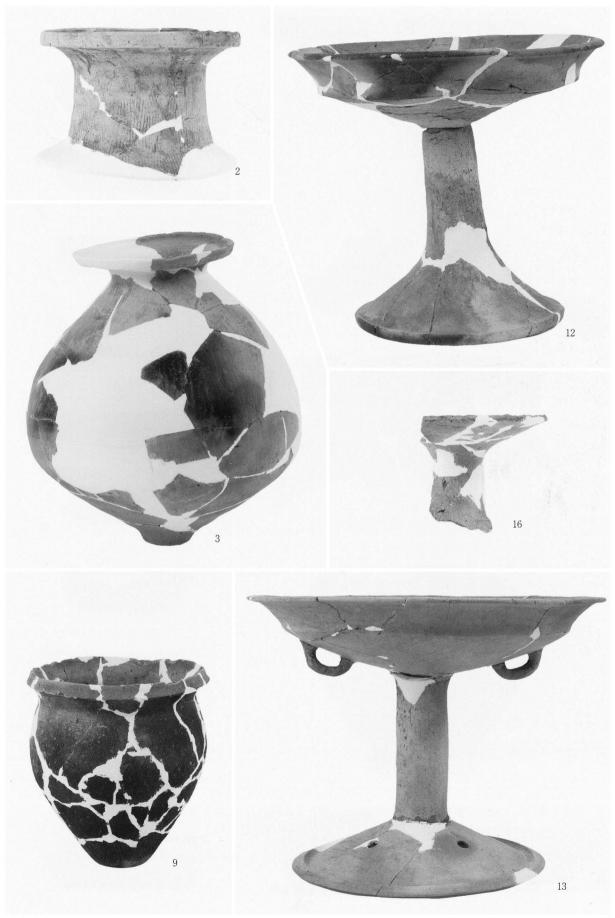
1. 作業風景(東)



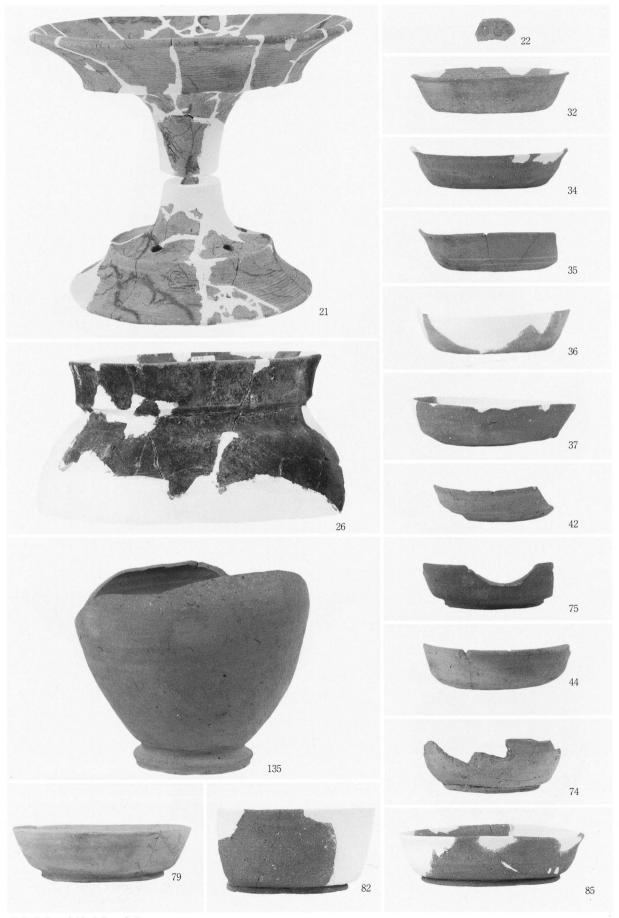
2. 作業風景(東)



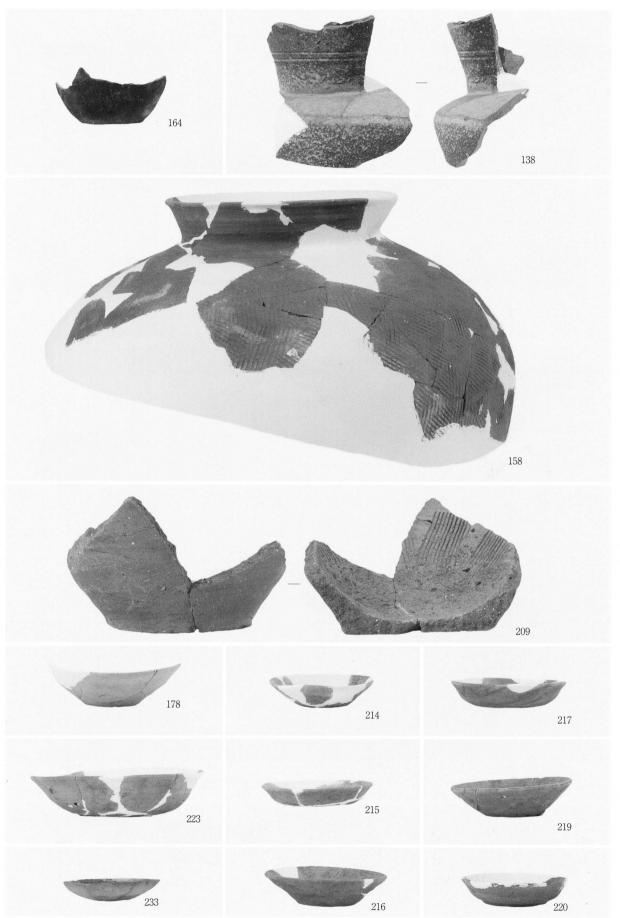
3. 作業風景(西北西)



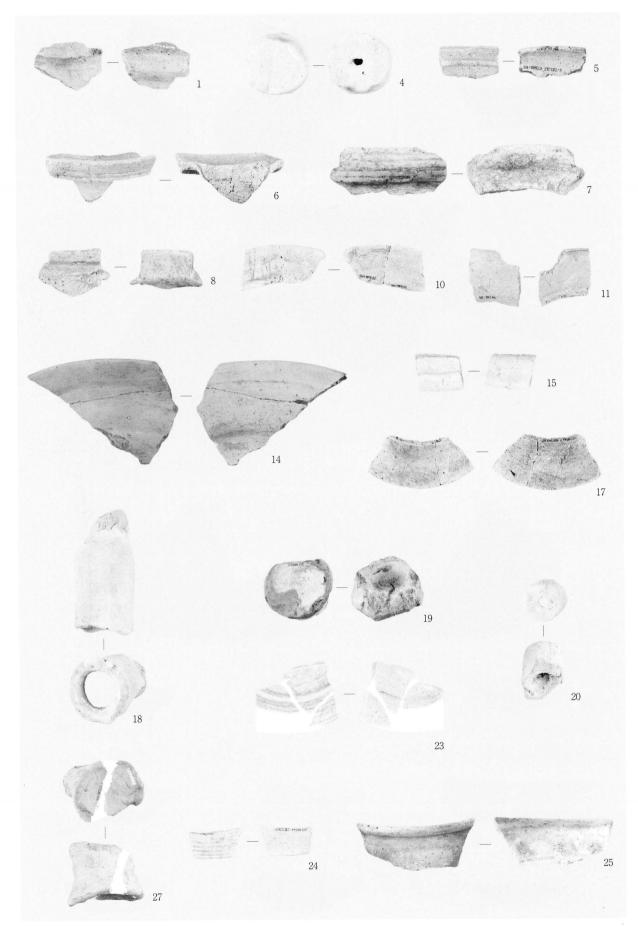
弥生時代



弥生時代・古墳時代・古代



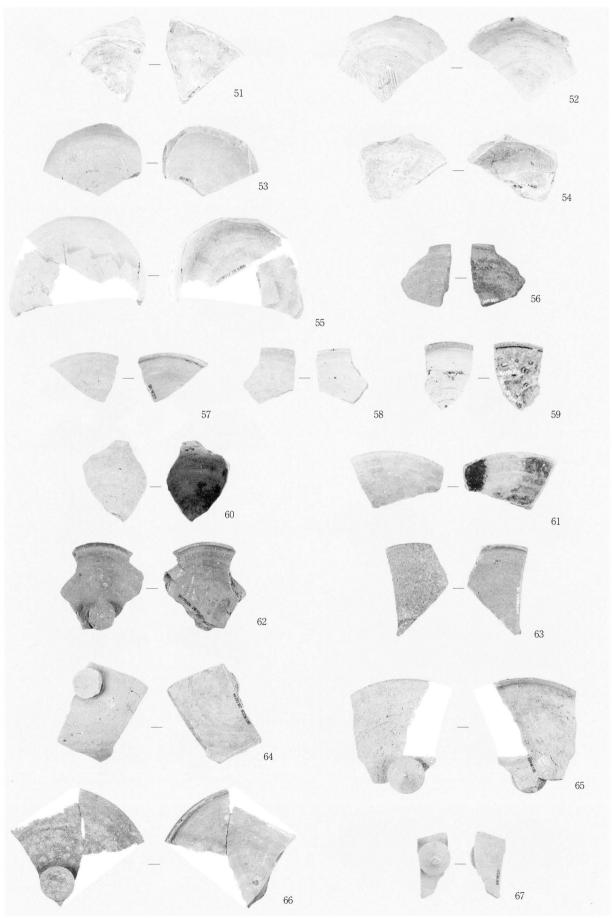
古代



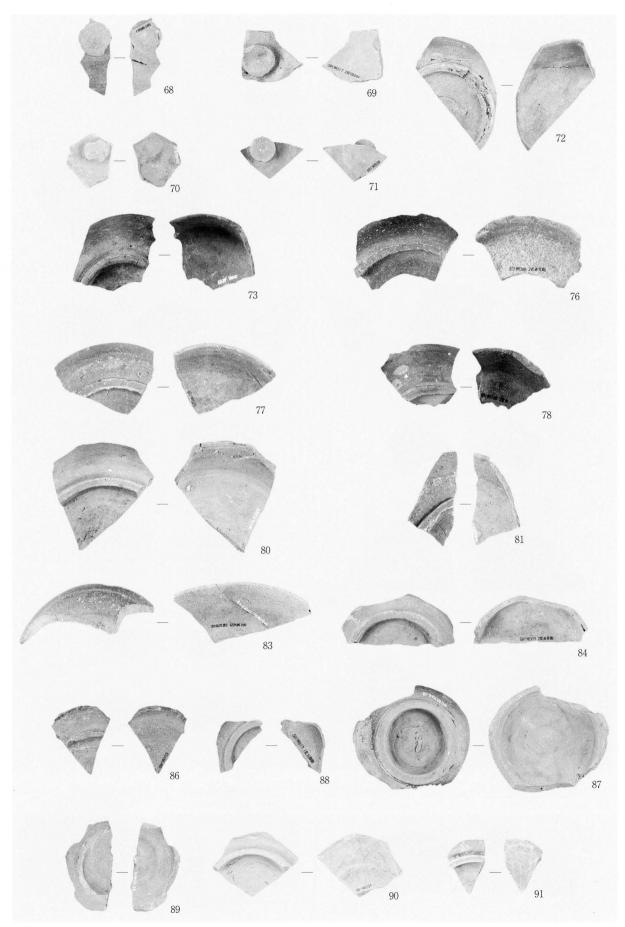
古代



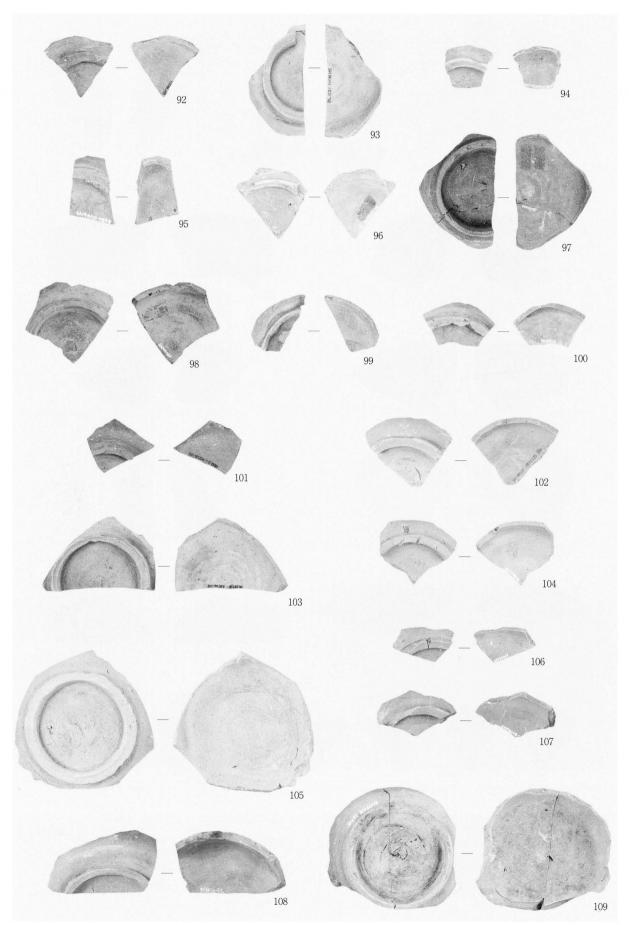
古代



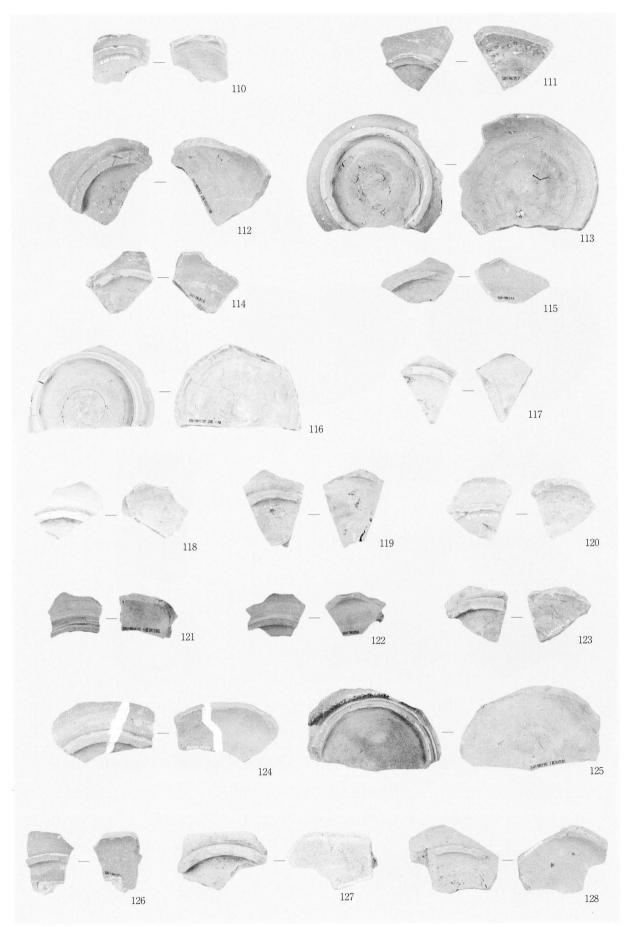
古代

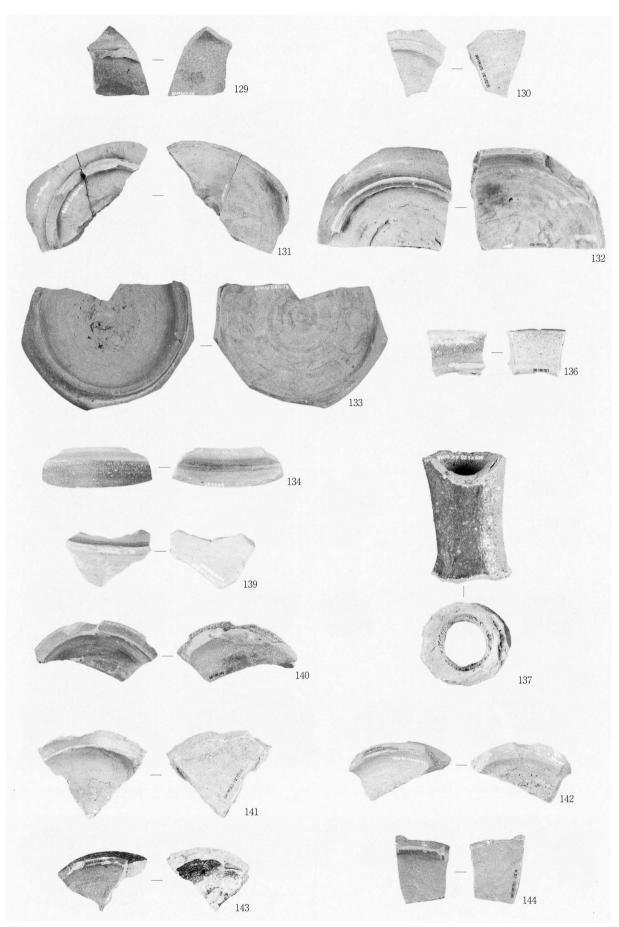


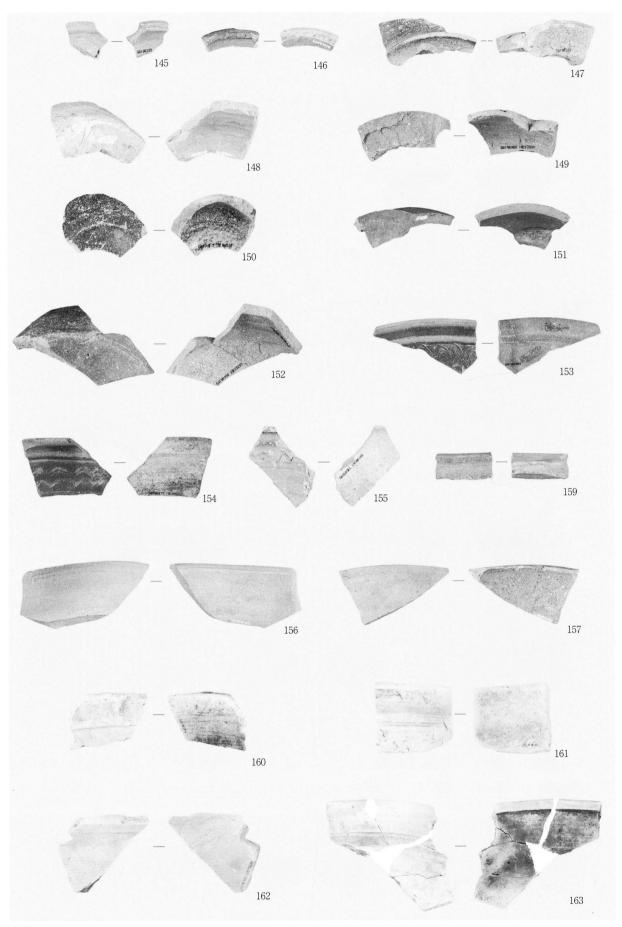
古代



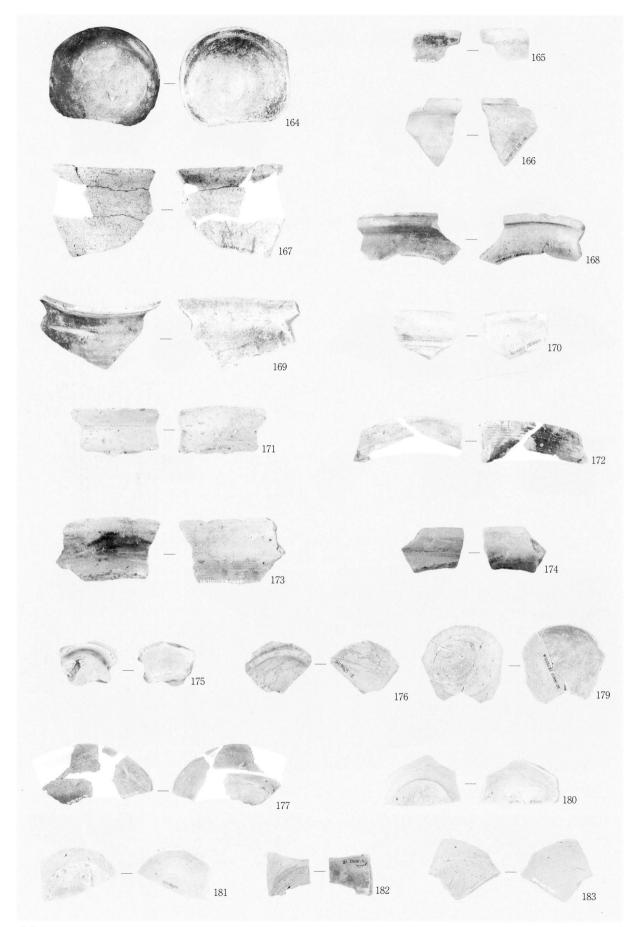
古代

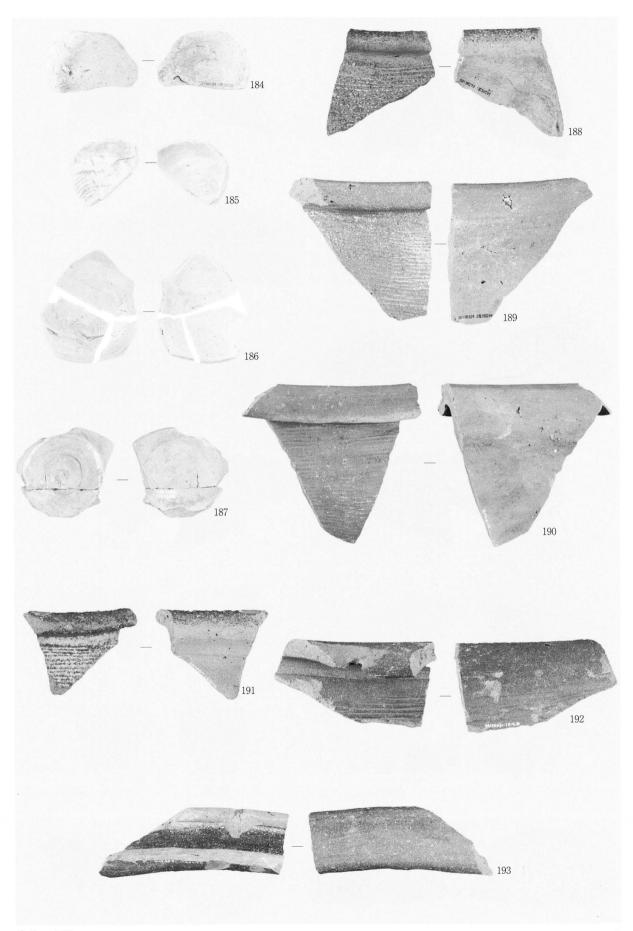




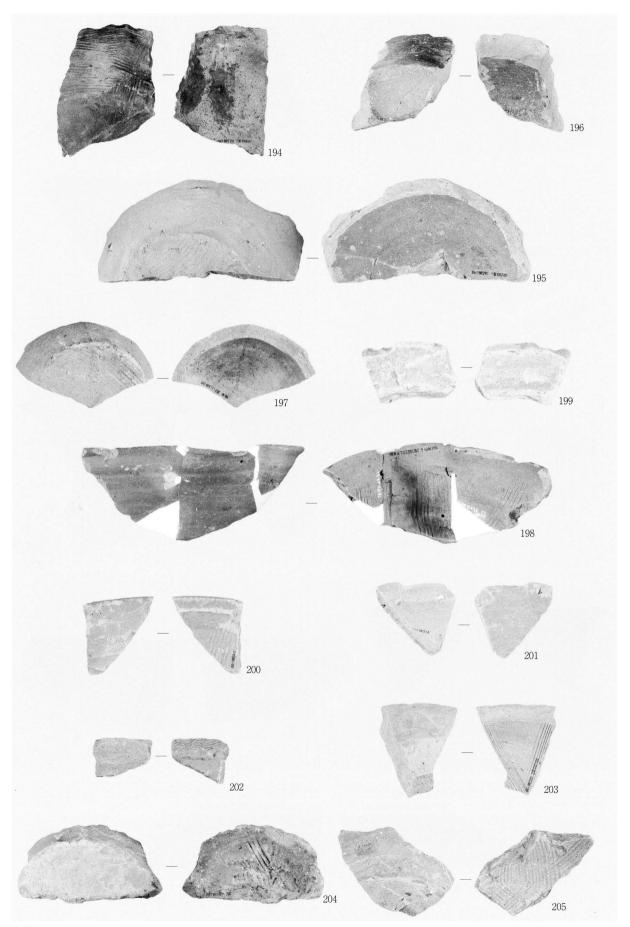


古代

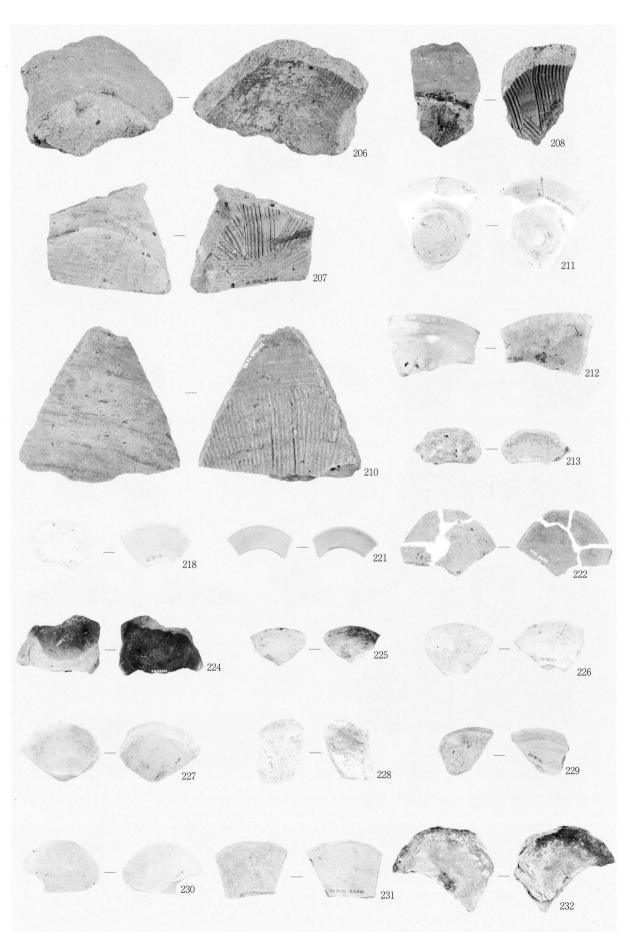


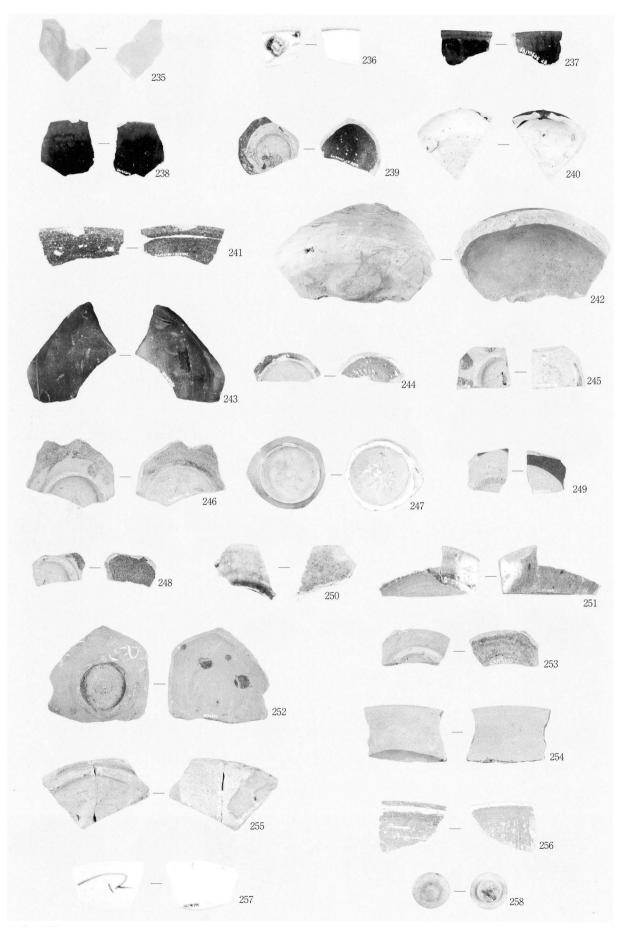


古代・中世

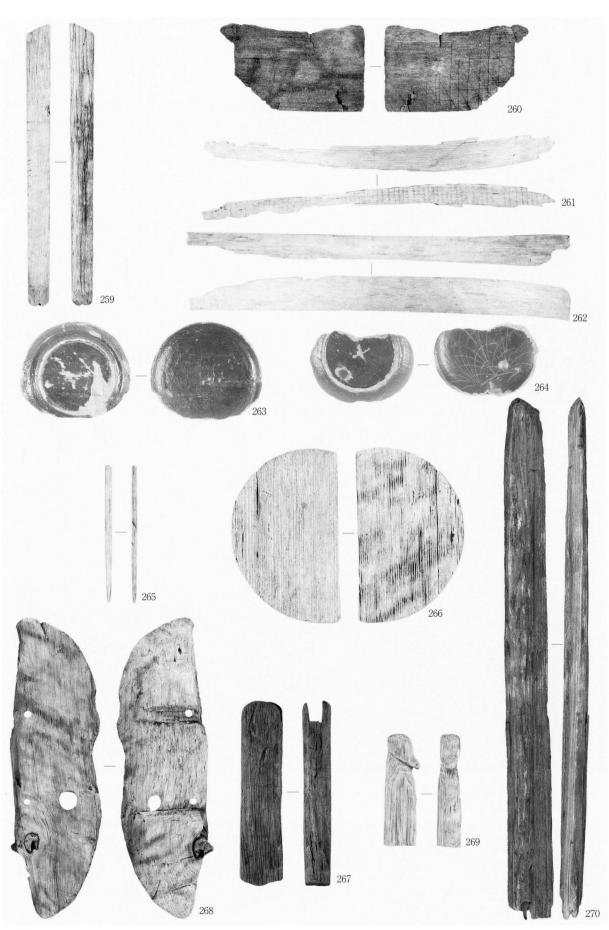


中世





中世・近世



木製品

別表1 遺構一覧

方形周溝墓

遺構名	グリッド	形状	個別規模	出土遺物	備考	図面No.
S Z 01	(6~7, 11~13)	4辺が独立した周溝で 構成されている。3箇 所の陸橋部を確認。	(西) 長さ:3.32m 幅:0.57~0.96m 深さ:60cm (北) 長さ:3.33m 幅:0.89~1.24m 深さ:95cm (東) 長さ:3.0m 幅:1.08~1.72m 深さ:60cm	土師器 須恵器	主体部無し。 SK29・30、SD10・16、ピットに 切られる。	図面〇六 図面一二
S Z 02	(9~11, 10~12)	1箇所の陸橋部を確 認。	(北東)長さ:12.7m 幅:0.88~1.68m 深さ:90cm (西)長さ:4.88m 幅:1.06~1.2 深さ:60cm	弥生土器 土師器 須惠器 24 41	主体部無し。 SB05・06、SD21・23・25・26、 NR01、ピットに切られる。	図面〇七 図面一三
S Z 03	(11~13, 11~13)	1箇所の陸橋部を確 認。	(西南)長さ:12.8m 幅:1.24~1.71m 深さ:90cm (東)長さ:2.68m 幅:1.2~1.4m 深さ:60cm	弥生土器 土師器 須惠器 陶磁器 6 197	主体部無し。 SB05・06、SD22・23・27、ピッ トに切られる。	図面〇七 図面一四
S Z 04 (SK13)	(6~7、 15)	楕円形の溝、1辺のみ 確認。	長軸:2.48m 短軸:1.08m 深さ:31cm	弥生土器 土師器 16	隣接する調査区の結果から方形周溝 墓の南辺であると考えられる。	図面〇六 図面二三
S Z 05 (SD38 · SD40)	(15, 10~11)	溝の一部のみ確認。	(SD38)長さ:1,19m以上 幅:1,1~1,2m 深さ:不明 (SD40)長さ:3,2m 幅:0,6~0,9m 深さ:17cm	土師器 須恵器 3 9	(SD38) SD32、カクランに切られる。 (SD40) SD39、NR01に切られる。	図面〇六 図面三八

掘立建物

遺構名	グリッド	規模	形態・掘り方平面形	出土遺物	備考	図面No.
S B 01	(7~8、 14~15)	桁行2間(4m)× 梁行1間(2m)以上	東西棟、側柱の建物。 座標東に対し2度北へ偏る。 不整楕円ないし不整円形。	土師器	北側は調査区外へ延びる。 SB04・09・10とほぼ同軸。	図面〇六 図面一五
S B 02	(7~8, 13~14)	桁行2間(4.6m)× 梁行2間(3.6m)	南北棟、側柱の建物。 不整楕円ないし不整円形。	無し	SK42、SD12〜14との切り合い不明。 SB03と重複。	図面〇六 図面一六
S B 03	(7~8、 12~14)	桁行3間(4.8m)× 梁行2間(4.8m)	北東〜南西棟、側柱の建物。 不整楕円ないし不整円形。	土師器	SB02と重複。SB07とほぼ同軸。	図面〇六 図面一六
S B 04	(8~9、 11)	桁行3間(4.8m)× 梁行2間(3.2m)以上	東西棟、側柱の建物。 不整楕円ないし不整円形。	無し	ピットとの切り合い不明。 南側は調査区外へ延びる。 SB01・09・10とほぼ同軸。	図面〇七図面一七
S B 05	(11~12, 11~12)	桁行2間(5.6m)× 梁行2間(4.8m)	北北東〜南南西棟、総柱の建物。 不整楕円ないし不整円形。	土師器	S Z 02・03、 S D 22・23を切る。 S B 06と重複。 S B 06より新しいと 考える。	図面〇七 図面一五
S B 06	(11~12, 10~12)	桁行3間(5.6m)× 梁行2間(4.6m)	北北東〜南南西棟、側柱の建物。 不整楕円ないし不整円形。	無し	S Z 02・03を切る。	図面〇七 図面一七
S B 07	(18~19, 8~10)	桁行2間(4.6m)× 梁行2間(4.4m)	北北東〜南南西棟、側柱の建物。 不整方形ないし不整楕円。	土師器 須恵器 陶磁器	SD41、カクランに切られる。北側 は調査区外へ延びる。SB03とほぼ 同軸。	図面〇八
S B 08	(17~18, 8~9)	桁行2間(4.8m)以上× 梁行1間(1.8m)	西北西〜東南東棟、側柱の建物。 不整方形ないし不整楕円。	土師器 須恵器	SD41、カクランに切られる。 北側は調査区外へ延びる。	図面〇八
S B 09	(32~33, 13)	桁行2間(2.9m)× 梁行2間(2.0m)	東西棟、総柱の建物。 不整楕円ないし不整円形。	無し	SK87との切り合い不明。南側は調査区外へ延びる。SB01・04・10とほぼ同軸。	図面
S B 10	(32~33, 13)	桁行2間(2.4m)× 梁行2間(2.2m)	東西棟、側柱の建物。 不整楕円ないし不整円形。	無し	S K 91・92、S D 57との切り合い不明。北側は調査区外へ延びる。 S B 01・04・09とほぼ同軸。	図面――
S B11	(33, 12~13)	桁行2間(3.0m)× 梁行1間(1.0m)	東西棟、総柱の建物。 不整楕円ないし不整円形。	土師器	SK90・95との切り合い不明。南側 は調査区外へ延びる。	図面一一

柵

1110						
遺構名	グリッド	規模	方向・掘り方平面形	出土遺物	備考	図面No.
S A01	(8~10, 13~14)	4間(6.0m)	座標東に対し5°北に偏している。 不整楕円ないし不整円形。	土師器	北側は調査区外へ延びる可能性も有り。	図面〇六 図面二一
S A 02	(34~35\ 12~13)	4間 (9. 4m)	座標北に対し28°西に偏している。 不整楕円ないし不整円形。	土師器	部分的確認のため、掘立の可能性も 有り。	図面一一 図面二一
S A 03	(35~36、12)	2間 (6. 2m)	座標北に対し25°西に偏している。 不整楕円ないし不整円形。	無し	部分的確認のため、掘立の可能性も 有り。	図面一一 図面二一
S A 04	(35、12)	2間 (2. 2m)	座標北に対し56°東に偏している。 不整楕円ないし不整円形。	無し	SK100との切り合い不明。 部分的確認のため、掘立の可能性も 有り。	図面一一 図面二一

井戸

遺構名	グリッド	平面形	規模	出土遺物	備考	図面No.
S E 0 I	(12、13)	楕円形	長輔:84cm 短軸:66cm 深さ:44cm	土即器、不製品	SE02を切る。 水溜めに曲物を使用。腐食が進んで いたため取り上げできず。	図面〇七 図面二一
S E 02	(12, 12~13)	楕円形	長軸: 1.16m 短軸: 96cm 深さ: 40cm		SE03を切り、SE01に切られる。 底面で底板の無い楕円形の曲げ物を 確認。	図面〇七 図面二一
S E 03	(12、12~13)	不整楕円形	長軸: 92cm 短軸: 76cm 深さ: 42cm		SE02に切られる。 底面で底板の無い楕円形の曲げ物を 確認。	図面〇七 図面二一

土坑

遺構名	グリッド	平面形	規模	出土遺物	備考	図面No.
S K01	(2, 16)	楕円形	長軸:0.70m 短軸:0.51m 深さ:34cm	無し	S K 02を切る。	図面〇六 図面二二
S K02	(2、16)	楕円形	長軸:0.60m 短軸:0.40m 深さ:31cm	無し	SK01に切られる。	図面〇六 図面二二
S K03	(3, 15)	楕円形	長軸:1.20m 短軸:0.80m 深さ:18cm	無し		図面〇六 図面二二
S K04	(3~4、 14~15)	楕円形	長軸:1.60m 短軸:0.88m 深さ:40cm	弥生土器 土師器、須恵器 15・40・56	S K05を切る。	図面〇六 図面二二
S K05	(2、14~15)	楕円形	長軸:0.80m 短軸:0.45m 深さ:25cm	須恵器	ピットを切り、S K04に切られる。	図面〇六 図面二二
S K06	(2, 14)	不整方形	長軸:1.10m 短軸:0.78m 深さ:30cm	土師器 須恵器	S D 04を切る。	図面〇六 図面二二
S K 07	(3、14~15)	不整楕円形	長軸:1.84m 短軸:1.05m 深さ:24cm	土師器 須恵器	SD05と切り合い不明。	図面〇六 図面二二
S K08	(5, 15~16)	楕円形	長軸:2.59m 短軸:0.69m 深さ:40cm	無し	S D 02に切られる。	図面〇六 図面二二
S K 09	(5, 15)	不整円形	長軸:0.80m 短軸:0.80m 深さ:35cm	無し	SD07を切る。	図面〇六 図面二三
S K10	(4、14~15)	不整楕円形	長軸:2.70m以上 短軸:0.99m 深さ:39cm	土師器 須恵器	SX01に切られる。方形周溝墓の一 辺の可能性有。	図面〇六
S K 11	(4、13~14)	不整楕円形	長軸:0.54m 短軸:0.38m 深さ:16cm	無し		図面〇六図面二三
S K 12	(6、15)	隅丸方形	長軸:0.74m 短軸:0.37m 深さ:16cm	無し		図面〇六図面二三
S K 13 (S Z 04)	(6~7、15)	楕円形	長軸:2.48m 短軸:1.08m 深さ:31cm	弥生土器 土師器 16	SZ04の方形周溝墓の一辺。	図面〇六図面二三
S K14	(6、15)	不整楕円形	長軸:1.56m 短軸:0.79m 深さ:28cm	珠洲		図面〇六 図面二三
S K 15	(6、14~15)	楕円形	長軸:2.46m 短軸:0.71m 深さ:12cm	土師器 須恵器		図面〇六 図面二三
S K 16	(7、15)	不整円形	長軸:0.58m 短軸:0.44m 深さ:14cm	無し		図面〇六図面二三
S K 17	(6、14)	隅丸方形	長軸:0.62m 短軸:0.52m 深さ:36cm	無し		図面〇六 図面二三
S K 18	(5~6, 13~14)	楕円形	長軸:2.27m 短軸:0.83m 深さ:50cm	弥生土器 土師器12・13	SX01、カクランに切られる。SK 19と方形周溝墓となる可能性有。	図面〇六 図面二四
S K 19	(5, 13)	楕円形	長軸:1.78m以上 短軸:0.72m 深さ:49cm	土師器	SX01に切られる。SK18と方形周 溝墓となる可能性有。	図面〇六 図面二四
S K 20	(6、13)	楕円形	長軸:1.00m 短軸:0.50m 深さ:26cm	土師器10 (SK21と接合)		図面〇六 図面二四
S K21	(5~6, 12~13)	楕円形	長軸:0.84m 短軸:0.38m 深さ:26cm	土師器 須恵器 10(SK20と接合)		図面〇六 図面二四
S K22	(7、14)	楕円形	長軸:1.12m 短軸:0.62m 深さ:37cm	土師器		図面〇六 図面二四
S K23	(6~7、 13~14)	楕円形	長軸:0.74m 短軸:0.52m 深さ:25cm	土師器		図面〇六 図面二四
S K24	(7、13~14)	隅丸方形	長軸:0.74m 短軸:0.66m 深さ:28cm	土師器	カクランに切られる。	図面〇六 図面二五
S K25	(7、14)	楕円形	長軸:0.56m 短軸:0.50m 深さ:18cm	無し	S D 12に切られる。 S B 02との切り合い不明。	図面〇六 図面二五
S K26	(7, 14)	楕円形	長軸:0.70m 短軸:0.48m 深さ:30cm	上師器	ピットに切られる。	図面〇六 図面二五

S K 27	(7、13)	楕円形	長軸:0.84m 短軸:0.50m 深さ:33cm	無し	カクランに切られる。	図面〇六 図面二五
S K 28	(7、13)	不整円形	長軸:0.68m 短軸:0.52m 深さ:16cm	土師器 須恵器		図面〇六 図面二五
S K 29	(7, 12~13)	円形	長軸:0.45m 短軸:0.34m 深さ:26cm	無し	S Z 01を切る。	図面〇六 図面二五
S K 30	(7, 12~13)	円形	長軸:0.56m 短軸:0.46m 深さ:31cm	無し	S Z 01を切る。	図面〇六 図面二五
S K31	(7~8、13)	不整方形	長軸:0.75m 短軸:0.65m 深さ:35cm	土師器	ピットに切られる。	図面〇六 図面二五
S K 32	(7、13)	不整形	長軸:0.60m 短軸:0.46m 深さ:40cm	無し		図面〇六 図面二五
S K 33	(8, 12~13)	楕円形	長軸:0.65m 短軸:0.49m 深さ:10cm	無し		図面〇六 図面二五
S K34	(7、12)	楕円形	長軸:0.78m 短軸:0.58m 深さ:12cm	無し		図面〇六 図面二五
S K35	(7、11~12)	不整方形	長軸:0.86m 短軸:0.72m 深さ:15cm	無し		図面〇六 図面二五
S K 36	(7~8、12)	楕円形	長軸:0.82m 短軸:0.32m 深さ:10cm	無し	ピットに切られる。	図面〇六 図面二六
S K.37	(8、14)	不整円形	長軸:0.63m 短軸:0.53m 深さ:19cm	土師器		図面〇六 図面二六
S K 38	(8、14)	円形	長軸:0.58m 短軸:0.51m 深さ:18cm	陶磁器		図面〇六 図面二六
S K 39	(8、14)	楕円形	長軸:0.54m 短軸:0.41m 深さ:18cm	無し		図面〇六 図面二六
S K 40	(8、14)	不整方形	長軸:0.92m 短軸:0.49m 深さ:26cm	土師器 須恵器		図面〇六 図面二六
S K 41	(8、13)	隅丸方形	長軸:0.57m 短軸:0.54m 深さ:30cm	上師器	S D15、カクランに切られる。	図面〇七 図面二六
S K 42	(8、13)	隅丸方形	長軸:1.40m 短軸:0.93m 深さ:18cm	土師器 須恵器 25	カクランに切られる S B02とは切り合い不明。	図面〇七 図面二六
S K 43	(8~9、13)	隅丸方形	長軸:0.58m 短軸:0.44m 深さ:38cm	須恵器 柱根	カクランに切られる。 SK44とは切り合い不明。	図面〇七 図面二六
S K 44	(8~9, 13)	隅丸方形	長軸:0.66m 短軸:0.48m 深さ:22cm	上師器	カクランに切られる。 SK43とは切り合い不明。	図面〇七 図面二六
S K 45	(9、12~13)	隅丸方形	長軸:0.54m 短軸:0.52m 深さ:14cm	土師器 21	S K 46を切る。	図面〇七 図面二六
S K 46	(9、12~13)	隅丸方形	長軸:0.72m 短軸:0.58m 深さ:26cm	土師器	S K45に切られる。	図面〇七 図面二六
S K47	(9、12)	円形	長軸:0.54m 短軸:0.46m 深さ:19cm	無し		図面〇七 図面二六
S K 48	(9~10, 13~14)	不整方形	長軸:3.53m 短軸:2.18m 深さ:28cm	土師器、須恵器 74	SD17を切る。 ピットとの切り合い不明。	図面〇七 図面二七
S K 49	(9~10, 12)	不整円形	長軸:0.68m 短軸:0.46m 深さ:44cm	無し		図面〇七 図面二七
S K 50	(9~10, 12)	楕円形	長軸:0.70m 短軸:0.50m 深さ:35cm	須恵器	S Z 02を切る。	図面〇七 図面二七
S K51	(10~11, 13)	不整形	長軸:2.06m 短軸:1.31m 深さ:36cm	無し		図面〇七 図面二七
S K 52	(10~11, 12~13)	方形	長軸:1.03m 短軸:1.19m 深さ:50cm	無し		図面〇七 図面二七
S K 53	(11, 12)	隅丸方形	長軸:0.58m 短軸:0.52m 深さ:25cm	無し		図面〇七 図面二七
S K 54	(10, 12)	楕円形	長軸:1.18m 短軸:0.53m 深さ:22cm	無し		図面〇七 図面二七
S K 55	(10, 12)	不整形	長軸:1.46m 短軸:0.66m 深さ:30cm	無し		図面〇七 図面二七
S K 56	(11, 12)	円形	長軸:0.50m 短軸:0.45m 深さ:38cm	無し		図面〇七 図面二七
S K57	(10, 11)	楕円形	長軸:0.94m 短軸:0.38m 深さ:66cm	無し	SD20との切り合い不明。	図面〇七 図面二七
S K58	(10, 11)	不整楕円形	長軸:0.77m 短軸:0.40m 深さ:20cm	無し		図面〇七 図面二八
S K 59	(11, 11)	楕円形	長軸:0.69m 短軸:0.62m 深さ:10cm	無し		図面〇七 図面二八
S K 60	(12、12)	楕円形	長軸:2.17m 短軸:0.87m 深さ:11cm	無し	カクランに切られる。	図面〇七 図面二八
S K61	(12, 11~12)	楕円形	長軸:0.77m 短軸:0.66m 深さ:17cm	弥生土器 須恵器	S D22に切られる。	図面〇七 図面二八

S K 62	(12, 10)	不整楕円形	長軸:0.72m 短軸:0.56m 深さ:10cm	無し		図面〇七 図面二八
S K 63	(13~14, 11)	不整方形	長軸:2.00m 短軸:1.72m 深さ:32cm	土師器、須恵器 珠洲	S D 34、ピットを切る。	図面〇七 図面二八
S K 64	(13~14, 10)	隅丸方形	長軸:0.62m 短軸:0.37m 深さ:14cm	無し	S D 34を切る。	図面〇七 図面二八
S K 65	(15, 11)	円形	長軸:0.96m 短軸:0.37m 深さ:43cm	土師器 須恵器	S D 38、ピットを切る。 北側は調査区外へ延びる。	図面〇七 図面二八
S K 66	(15、11)	円形	長軸:0.70m 短軸:0.37m 深さ:23cm	無し	北側は調査区外へ延びる。	図面〇七 図面二八
S K 67	(14, 10)	円形	長軸:0.84m 短軸:0.72m 深さ:23cm	土師器		図面〇七 図面二八
S K 68	(14、9)	楕円形	長軸:0.68m 短軸:0.59m 深さ:12cm	土師器	NR01に切られる。	図面〇七 図面二九
S K 69	(14, 9)	楕円形	長軸:0.86m 短軸:0.64m 深さ:28cm	木製品		図面〇七 図面二九
S K70	(14、9)	楕円形	長軸:0.87m 短軸:0.37m 深さ:18cm	無し	NR02に切られる。	図面〇七 図面二九
S K71	(14、8)	楕円形	長軸:0.66m 短軸:0.35m 深さ:51cm	無し	NR02、カクランに切られる。南側 は調査区外へ延びる。	図面〇七 図面二九
S K72	(19~20, 7~8)	不整円形	長軸:1.56m 短軸:1.4m 深さ:12cm	土師器 須恵器		図面〇八 図面二九
S K73	(20、8)	楕円形	長軸:1.08m 短軸:38cm 深さ:22cm	土師器	ピットを切る。	図面〇八 図面二九
S K74	(20, 7)	楕円形	長軸:96cm 短軸:48cm 深さ:18cm	土師器 須恵器	ピットを切り、ピットに切られる。	図面〇八 図面二九
S K75	(20, 7)	不整楕円形	長軸:1.56m 短軸:80cm 深さ:20cm	無し		図面〇八 図面二九
S K76	(20, 7)	楕円形	長軸:1.24m 短軸:44cm 深さ:10cm	無し	S D 46を切る。	図面〇八 図面二九
S K77	(24、15)	不整円形	長軸:56cm 短軸:40cm 深さ:28cm	無し		図面一〇 図面二九
S K78	(25, 14)	楕円形	長軸:64cm 短軸:28cm 深さ:16cm	無し		図面一〇 図面二九
S K79	(29, 12)	円形	長軸:46cm 短軸:26cm以上 深さ:12cm	無し	北側は調査区外へ延びる。	図面―― 図面三〇
S K80	(25、17)	隅丸方形	長軸:88cm以上 短軸:66cm以上 深さ:18cm	須恵器	SD52を切る。 北側は調査区外へ延びる。	図面一〇 図面三〇
S K81	(26、17)	楕円形	長軸:68cm 短軸:30cm以上 深さ:22cm	無し	SD52との切り合い不明。	図面一〇 図面三〇
S K82	(27、16)	円形	長軸:54cm以上 短軸:27cm以上 深さ:6cm	無し	南側は調査区外へ延びる。	図面一〇 図面三〇
S K83	(28, 16)	楕円形	長軸:80cm以上 短軸:53cm深さ:12cm	無し	南側は調査区外へ延びる。	図面一〇
S K84	(29、15)	楕円形	長軸:60cm 短軸:53cm 深さ:20cm	無し	北側は調査区外へ延びる。	図面一〇 図面三〇
S K85	(31, 14)	楕円形	長軸:1.04m以上 短軸:51cm以上 深さ:14cm	無し	SD56との切り合い不明。 南側は調査区外へ延びる。	図面―― 図面三〇
S K86	(33, 13)	不整形	長軸:0.89m 短軸:0.56m 深さ:6cm	無し	カクランに切られる。 ピットとの切り合い不明。	図面一一図面三〇
S K87	(33、13)	不整形	長軸:0.74m 短軸:0.24m以上 深さ:7cm	土師器	カクランに切られる。	図面―― 図面三〇
S K88	(33, 13)	楕円形	長軸:0.58m 短軸:0.36m 深さ:24cm	土師器	SK92との切り合い不明。	図面――
S K89	(33, 13)	楕円形	長軸:0.57m 短軸:0.26m 深さ:20cm	無し	ピットとの切り合い不明。	図面―― 図面三〇
S K 90	(33, 13)	楕円形	長軸:1.00m 短軸:0.32m 深さ:23cm	無し	カクランに切られる。 SB11との切り合い不明。	図面――
S K91	(33, 13)	不整形	長軸:1.00m 短軸:0.62m 深さ:24cm	無し	カクランに切られる。SB10との切り合い不明。 北側は調査区外へ延びる。	図面―― 図面三―
S K92	(33、13)	不整楕円形	長軸:1.00m 短軸:0.34m以上 深さ:10cm	無し	SK88、ピットとの切り合い不明。	図面—— 図面三—
S K93	(33、13)	楕円形	長軸:0.68m 短軸:0.28m以上 深さ:18cm	無し	カクランに切られる。	図面―― 図面三―
S K94	(33、13)	不整形	長輔:1.20m以上 短輔:7cm以上 深さ:24cm	土師器	カクラン、ピットに切られる。北側 は調査区外へ延びる。	図面―― 図面三―
S K95	(33、12)	不整方形	長軸:0.60m 短軸:0.21m 深さ:31cm	無し	SD58との切り合り不明。 南側は調査区外へ延びる。	図面—— 図面三—
S K 96	(33、12)	不整円形	長軸:0.38m 短軸:0.26m以上 深さ:34cm	無し	南側は調査区外へ延びる。	図面――

S K97	(33、13)	不整楕円形	長軸:0.56m 短軸:0.38m 深さ:30cm	無し	SD58との切り合い不明。	図面—— 図面三一
S K98	(34、13)	隅丸方形	長軸:1.16m 短軸:0.22m 深さ:9cm	無し	ピットとの切り合い不明。 北側は調査区外へ延びる。	図面 図面三
S K 99	(34、12~13)	不整楕円形	長軸:0.93m 短軸:0.39m 深さ:8cm	無し	ピットとの切り合い不明。	図面 図面三-
S K100	(35、12)	不整形	長軸:1.00m以上 短軸:55cm以上 深さ:6cm	土師器	SK101、ピットの切り合い不明。 北側は調査区外へ延びる。	図面 図面三-
S K 101	(35、12)	不整楕円形	長軸:74cm以上 短軸:21cm以上 深さ:4cm	無し	SK100との切り合い不明。 北側は調査区外へ延びる。	図面一一 図面三一
S K 102	(35~36, 12)	不整方形	長軸:70cm以上 短軸:45cm 深さ:12cm	土師器	ピットとの切り合い不明。 北側は調査区外へ延びる。	図面 図面三-
S K 103	(15、11)	円形	長軸:41cm 短軸:40cm 深さ:12cm	須恵器	S D32を切る。	図面〇七
S K 104	(17、7)	不整楕円形	長軸:80cm 短軸:40cm 深さ:25cm	珠洲 190		図面〇八

溝状遺構

遺構名	グリッド	方向	規模	出土遺物	備考	図面No.
S D 01	(2、15)	西北西~東南東	長さ2.90m以上 幅0.5~0.9m 深さ27cm	土師器、珠洲 陶器、煙管、2	SD02に切られる。 西側は調査区外へ延びる。	図面三二
S D02	(1~6、14~ 16)	西南西~東北東	長さ19.34m以上 幅1.7~4.2m 深さ51cm	土師器、須惠器 陶器 124・152・206・ 254・257	SD01・05・06を切る。 両端は調査地区外へ延びる。	図面〇六 図面三二 図面三三
S D 03	(3~14、15)	西~南東	長さ4.84m 幅0.3~0.8m 深さ21cm	土師器	S D04を切る。	図面〇六 図面三二
S D04	(2~3、14~ 15)	北~南南西	長さ4.79m以上 幅0.7~1.5m 深さ36cm	土師器	SK06、SD03に切られる。 南側は調査区外へ延びる。	図面〇六 図面三二
S D05	(3~4、14~ 15)	北北東~南	長さ8.28m以上 幅0.5~0.7m 深さ28cm	土師器44・73・99・ 127・143・179・ 186・222	SD02、SX01に切られる。	図面〇六 図面三二
S D 06	(4~5\ 14~15)	北北東~南南西	長さ9.34m 幅0.6~1.1m 深さ32cm	土師器	SD02に切られる。 SD05との切り合いは不明。	図面〇六 図面三二
S D07	(4~5, 15)	北西~南東	長さ4.26m 幅0.7~1.0m 深さ34cm	土師器	SK09に切られる。SD08・SK10 で方形周溝墓の可能性が考えられ る。	図面〇六
S D 08	(5~6, 14~15)	北東~南西	長さ8.08m 幅0.9~1.3m 深さ44cm	土師器	カクランに切られる。SD07・SK 10で方形周溝墓の可能性が考えられ る。	図面〇六 図面三四
S D 09	(6、14)	北東~南西	長さ4.74m 幅0.4~0.6m 深さ18cm	土師器	カクラン、ピットに切られる。	図面〇六 図面三四
S D 10	(5~6, 12~13)	北西~南東	長さ5.60m 幅0.3~0.6m 深さ11cm	無し	SZ01を切り、SX01、カクランに 切られる。	図面〇六
S D11	(8~14、15)	南北	長さ1.44m以上 幅0.3~0.5m 深さ29cm	土師器、陶磁器	北側は調査区外へ延びる。	図面〇六
S D 12	(7、14)	南北	長さ3.0m 幅0.3~0.5m 深さ13cm	土師器、須恵器	SB02、SK25を切り、カクランに 切られる。SD11・13〜15と同方向 にはしり、規模も似ている。畝の残 りの可能性も有。	図面〇六
S D13	(7, 8, 13, 14)	南北	長さ4.2m 幅0.3~0.4m 深さ15cm	土師器	SB02、ピットを切る。SD11・ 12・14・15と同方向にはしり、規模 も似ている。畝の残りの可能性も有。	図面〇六
S D14	(8, 13~14)	南北	長さ2.64m 幅0.3~0.4m 深さ15cm	無し	SB02を切る。SD11~13・15と同 方向にはしり、規模も似ている。畝 の残りの可能性も有。	図面〇六
S D15	(8、13)	ほぼ南北	長さ1.58m 幅0.2~0.4m 深さ15cm	無し	SK41を切り、カクランに切られる。SD11~15と同方向にはしり、 規模も似ている。畝の残りの可能性 も有。	図面〇六
S D16	(7、12)	北西~南東	長さ3.0m 幅0.2~0.4m 深さ21cm	無し	S Z 01を切る。	図面〇六
S D17	(8~10, 11~14)	北東~南西	長さ16.7m以上 幅0.4~1.5m 深さ30cm	土師器、須惠器 5·31·34·77·81· 82·132·133· 137	SB04、SK48、カクランに切られ る。両端は調査地区外へ延びる。	図面〇七 図面三五
S D 18	(10~11, 12~13)	北東~南西	長さ8.86m以上 幅0.5~0.7m 深さ32cm	土師器、須恵器	カクランに切られる。 北側は調査区外へ延びる。	図面〇七 図面三五
S D 19	(9, 11~12)	北西~南西	長さ4.76m以上 幅0.5~0.7m 深さ22cm	無し	SZ02を切り、カクランに切られる。SD21とは切り合い不明。南側 は調査区外へ延びる。	図面〇七
S D 20	(10, 11)	北東~南西	長さ3.34m以上 幅0.3~0.35m 深さ10cm	無し	SK57を切る。SD21とは切り合い 不明。SD21と同時期の可能性多。	図面〇七
S D21	(9~11, 10~11)	西北西~東南東	長さ10,50m 幅0.3~0.6m 深さ17cm	須恵器 94	SZ02を切る。SD19・20・24とは 切り合い不明。	図面〇七 図面三五
S D 22	(12~13, 12)	東北東~西南西 西北西~東南東	長さ5.54m以上 幅0.2~0.5m 深さ24cm	須恵器	SK61を切り、SB05、SD27に切 られる。	図面〇七

	ī		<u> </u>		0.7.00 02 0.D.00⊀.₩II.M. 0.D.05	
S D23	(11~12, 10~12)	西北西~東南東 北北東~南南西	長さ16.42m 幅0.45~0.5m 深さ16cm	無し	S Z 02・03、S D 26を切り、S D 25 に切られる。S D 24とは切り合い不 明。逆コの字形にはしる。	図面〇七図面三六
S D 24	(11、10~11)	北東~南西	長さ1.78m 幅0.2~0.4m 深さ10cm	無し	ピットに切られる。 SD21・23との切り合い不明。	図面〇七
S D25	(11~12, 10 ~11)	北西~南東	長さ3.12m 幅0.35~0.4m 深さ18cm	無し	SZ02、SD23を切り、カクランに 切られる。	図面〇七 図面三六
S D 26	(11、10~11)	ほぼ南北	長さ1.98m 幅0.25~0.3m 深さ16cm	無し	SZ02を切り、SD23・25、NR01 に切られる。	図面〇七
S D 27	(12~13, 11~13)	ほぼ南北	長さ5.20m以上 幅3.7m 深さ31cm	土師器、須恵器 珠洲、陶器 石製品、木製品 18・102 (SD29と合流地)	S Z 03、S D 22を切り、カクランに 切られる。S D 23・29は切り合い不 明。北側は調査区外へ延びる。	図面〇七 図面三七
S D28	(13~14, 11)	ほぼ東西	長さ3.00m 幅0.4~0.8m 深さ14cm	土師器、須恵器 珠洲	S D27・29・32との切り合いは不 明。	図面〇七 図面三七
S D29	(13、10~11)	ほぼ南北	長さ4.0m以上 幅0.6~0.8m 深さ不明	土師器、須恵器 土錘	S D 27・28・30との切り合いは不明。	図面〇七
S D 30	(13、10~11)	北東~南西	長さ5.10m 幅0.2~0.4m 深さ不明	土師器	S D 29・31との切り合いは不明。	図面〇七
S D31	(13、10~11)	北北西~南南東	長さ2.42m 幅0.2~0.3m 深さ不明	無し	SD30との切り合いは不明。	図面〇七
S D 32	(14~16, 10~12)	南北 西~東南東	長さ12.30m以上 幅1.8~2.4m 深さ38cm	土師器、須恵器 珠洲、陶磁器 古銭、木製品 104・115・140・ 143・178・195・ 205・306・336・ 337・352・357	S D 36・37・38・39・40を切り、N R 01、カクランに切られる。 L 字形 にはしる。北側は調査区外へ延び る。	図面〇七 図面三八
S D33	(13~14, 11)	西北西~東南東	長さ2.34m 幅0.3~0.4m 深さ27cm	土師器 須恵器	ピットに切られる。	図面〇七 図面三七
S D 34	(14、10~11)	ほぼ南北	長さ1.23m 幅0.2m 深さ10cm	無し	S K 63・64に切られる。	図面〇七
S D35	(14, 11~12)	北東~南西	長さ1.55m以上 幅1.0~1.5m 深さ42cm	土師器 陶磁器	SD36、カクランに切られる。北側 は調査区外へ延びる。16世紀頃の陶 磁器が出土。	図面〇七 図面三八
S D 36	(14~15, 11)	南北	長さ1.45m以上 幅0.2~0.3m 深さ28cm	無し	SD32、カクランに切られる。北側 は調査区外へ延びる。SD37と同一 遺構の可能性も有り。	図面〇七 図面三八
S D37	(14, 10~11)	北北東~南南西	長さ3.45m 幅0.2~0.5m 深さ15cm	土師器、須恵器 32・42	SD32に切られる。SD36と同一遺 構の可能性も有り。	図面〇七 図面三八
S D 38 (S Z 05)	(15, 11)	ほぼ南北	長さ1.19m以上 幅1.1~1.2m 深さ不明	無し	SD32、カクランに切られる。北側 は調査区外へ延びる。SD39と同一 遺構の可能性も有り。	図面〇七
S D 39	(14~15\ 10~11)	北西~南東	長さ4.57m以上 幅0.6~1.1m 深さ20cm	弥生土器 土師器 須恵器	SD40を切り、SD32、NR01に切られる。北側は調査区外へ延びる。 SD38と同一遺構の可能性も有り。	図面〇七 図面三八
S D 40 (S Z 05)	(15、10~11)	北西~南東	長さ3.2m 幅0.6~0.9m 深さ17cm	土師器 須恵器	SD39、NR01に切られる。方形周 溝墓になる可能性有。	図面〇七 図面三八
S D 41	(17~22, 8~10)	西北西~東南東	長さ22.0m以上 幅1.2~2.6m以上 深さ 48cm	土師器、須恵器 珠洲、陶磁器 木製品、土錘	SB07・08を切る。両端及び北側は 調査地区外へ延びる。	図面〇八 図面三九
S D 42	(18、7~8)	北西~南東	長さ4.40m 幅0.2~0.4m 深さ14cm	弥生土器 土師器、須恵器 木製品	S D 45を切り、 S D 43、 S X 02に切られる。	図面〇八 図面四〇
S D 43	(18、7~8)	北西~南東	長さ1.14m 幅0.2~0.3m 深さ10cm	無し	SD42・SD45を切る。Vの字には しる。	図面〇八
S D 44	(18, 7~8)	北西~南東	長さ2.68m 幅0.2~0.4m 深さ7cm	無し	S D 45を切る。	図面〇八 図面四〇
S D 45	(18、7~8)	北北東~南南西	長さ4.44m 幅0.4~0.7m 深さ12cm	土師器、須恵器	S D 42~44に切られる。	図面〇八 図面四〇
S D 46	(20~21, 7)	北西~東南東	長さ6.80m 幅0.2~0.5m 深さ16cm	弥生土器 土師器、須恵器	S K76、 S X 02に切られる。	図面〇八 図面四〇
S D 47	(20~21, 7~8)	西北西~東南東	長さ5.86m 幅0.5~0.6m 深さ23cm	土師器、須恵器	S X 02、 カクランに切られる。	図面〇八 図面四〇
S D48	(25~26, 4~6)	北北東~南南西	長さ9.00m以上 幅0.7~1.6m 深さ22cm	無し	北側は調査区外へ延びる。	図面〇九
S D 49	(23~24、15)	北東~南西	長さ3.74m以上 幅0.3~1.3m 深さ17cm	土師器 須恵器	SD50、SX04との切り合い不明。 両端は調査地区外へ延びる。	図面一〇 図面四一
S D 50	(23~24, 15)	北北東~南南西	長さ1.6m以上 幅0.4~0.6m 深さ18cm	土師器 須恵器	SD49、SX04との切り合い不明。 両端は調査地区外へ延びる。	図面一〇
S D 51	(24、14~15)	北西~南南西	長さ3.87m以上 幅0.45~0.65m 深さ23 cm	土師器	S X 04に切られる。湾曲してはしる。南側は調査区外へ延びる。	図面一〇
S D 52	(25~26, 17)	北西~南東	長さ4.02m以上 幅0.25~0.55m 深さ22 cm	無し	SK80に切られ、SK81、SD53と の切り合い不明。両端は調査地区外	図面一〇
S D 53	(26~27, 16~17)	北東~南西	長さ4.00m以上 幅1.4~1.45m 深さ44cm	無し	へ延びる。 SD52との切り合い不明。両端は調 査地区外へ延びる。	図面一〇 図面四一
S D 54	(28~29, 15~16)	北西~南東 南北	長さ10.40m以上 幅0.3~0.5m 深さ40cm	土師器	ピットに切られる。 L 字形にはし る。 北側は調査区外へ延びる。	図面一〇

S D 55	(31, 14)	南北	長さ1.76m以上 幅0.3~0.7m 深さ31cm	上師器	両端は調査地区外へ延びる。	図面――
S D 56	(31, 14)	北北東~南南西	長さ1.81m以上 幅1.5~2.2m 深さ19cm	上師器	SK85との切り合い不明。 両端は調査地区外へ延びる。	図面
S D 57	(32~33, 13)	北西~南	長さ1.54m以上 幅0.3~0.6m 深さ5cm	無し	SK89との切り合い不明。北側は調査区外へ延びる。	図面
S D 58	(33~34, 12~13)	北北東~南南西	長さ2.46m以上 幅0.3~1.4m 深さ11cm	土師器	SK95・97との切り合い不明。北側は調査区外へ延びる。	図面一一
S D 59	(26、3~4)	北東~南西	長さ2.3m以上 幅0.6m 深さ20cm	弥生土器 1	南側は調査区外へ延びる。	図面〇九

凹地

遺構名	グリッド	規模	埋土状況	出土遺物	切り合い	図面No.
S X 01	(3~6, 13~14)	縦:11.8m 横:5.5m以上 深さ:80cm	1. 暗灰色粘質 2. 明灰色砂質 3. 明灰色粘質 4. 暗灰褐色粘質 5. 灰色粘質 6. 暗灰色砂質 7. 黒褐色粘質		SK10・18・19、SD05・06・21を 切る。現場段階では溝となっていた が、断面などから凹地に変更。	図面〇六
S X 02	(17~26, 3~8)	縦:44.4m 横:13.8m以上 深さ:48cm以上	1. 暗灰色粘質 2. 黒色腐植 3. 褐色腐 植 4. 灰色粘質土に腐植物が混在	土師器、須惠 器、珠洲、陶磁 器、木製品、種 子	SD41・42・46・ビットを切る。S X03と同時期のものと考える。腐植 土から木製品が出土。途中で掘削を 止めた為、深さは確認高になってい る。	図面〇八 図面四二
S X 03	(26~31, 1~5)	縦:23.4m 横:14.2m以上 深さ:76cm以上	1. 灰色粘質 2. 灰白色粘質 3. 灰褐色砂 質 4. 灰褐色粘質 5. 暗灰色粘質土に暗 灰色砂質土が混在 6. 暗灰褐色粘質 7. 黒 色腐植 8. 灰色粘質土に腐植物が混在	器、珠洲、陶磁	S X02と同時期のものと考える。腐植土から多くの木製品が出土。途中で掘削を止めた為、深さは確認高になっている。	図面〇九 図面四三
S X 04	(24~25 14~15)	縦:6.4m 横:1.1m以上 深さ:27cm	不明	土師器	S D 51を切り、S D 50とは切り合い 不明。	図面一〇

自然流路

遺構名	グリッド	規模	出土遺物	方向	切り合い	図面No.
NR01		長さ:20.6m以上 幅:3.2~4.2m 深さ:63cm	土師器 須惠器 珠洲 陶磁器 土錘 4·27·33·36·43·49·59·64·67·69· 90·92·97·104·147·162·189·191· 193·200·203·237·238·247·251· 252	西~東北東	SZ02、SK68、SD26・32・39・ 40を切り、カクランに切られる。緩 やかに弧を描きながらはしる。両端 は調査区外へ延びる。東隣の2区で は確認されなかった。	図面〇七
N R 02		長さ:6.8m以上 幅:2.4~2.8m以上 深さ:41cm	無し	北東~南西	SK70を切り、カクランに切られる。北側でNR01と合流。東側・南側は調査区外へ延びる。部分的な確認のため性格は明確ではないが現段階では流路と考える。	図面〇七

別表 2 遺物観察表

万	リ表	2 \mathfrak{x}	遺物観察									_	
M.	±#1 157°	海地々	维恕	9.0 (A)E	法	量(cn	1)	ボナホ	BA.L	Jate -44	色調	調整	/ats ±±.
No.	地区	遺構名	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	焼成	内面 外面	内面 外面	備考
		one o	Director i mm	color					celor	-	にぶい黄橙色	ケズリ、摩耗のため調整不明	
1	2区	SD59	弥生土器	壺	_	3.7	_		密	良	にぶい黄橙色	ヨコナデ、ハケメの痕跡あり	
n	1 12	CDOI	弥生土器	West.	10.1	11.5	_	10/10	ote		にぶい黄橙色	ヨコナデ、ケズリ	剥離著しくケズリの単
2	1区	SD01	95年工程	虀	16.1	11.5	_	12/12	密	良	にぶい黄橙色	ヨコナデ、ハケメ	位不明
3	1区	SD38	弥生土器	壺	13. 9	24.3	4. 1	4/12	nde		沒養色(炸蒜上半)異應色(麻煎下半)	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ (横方向)	櫛状工具による刻み目
J.	116	סטעה	外土 上帝	SE	13.9	24.3	4.1	4/12	密	良	浅黄色体部上半に黒班	ヨコナデ、ミガキ(横方向)、髑整後ミガキ(縦方向)	(外面口縁部)
4	1区	NR01	弥生土器	壺	-	1.8	4.7	12/12	密	良	灰白色	摩耗の為調整不明	
4	112	NKO1	かエエが	52.		1.0	4. 1	12/12	100	尺	灰白色	摩耗の為調整不明	
5	1区	SD17	弥生土器	壺	26.6	2.2	_	1/12以下	密	良	にぶい黄橙色	ヨコナデ	擬凹線
	1 22	ODI	Municipal Annual Control	315.	20.0	2. 5		1/125	111	100	橙色	ヨコナデ	DAS TETADIS
6	1区	SZ03	弥生土器	甕	28.6	4.4	_	1/12以下	密	良	橙色	ヨコナデ、ケズリ	擬凹線、全体的に磨耗
			,,								橙色	ヨコナデ	している
7	2区		弥生土器	薨	14. 8	3.55	_	2/12	粗	良	灰褐色	ヨコナデ	外面口縁部煤付着、凹
										L	灰褐色	ヨコナデ	線4条
8	2区		弥生土器	獾	-	3. 5	_	_	密	良	にぶい黄橙色	ヨコナデ	口縁端部擬凹線か?
				ļ		<u> </u>					にぶい黄橙色	ヨコナデ、ハケメ	
9	1区	SD38	弥生土器	甕	14.0	16. 2	4.7	12/12	粗	やや良	橙色	ヨコナデ、ケズリ	
											にぶい赤褐色	ヨコナデ、ハケメ	
10	1区	SK21 SK20	弥生土器	蹇	21.8	2.6	-	1/12	密	良	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	ヨコナデ	
				-					-	 		ヨコナデ	
11	2区		弥生土器	甕	19.5	3.5	-	1/12	やや密	良	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	ハケメ	
		<u> </u>		 						\vdash		ハグメ 脚部端部ハケメ、内面ケズリ、調整不明	A 45-44 1 - 78-45 - 44 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
12	1区	SK18	弥生土器	高杯	25.3	24. 3	18.3	11/12	密	やや良	灰褐色 浅黄橙色	脚部ヨコナデ、調整不明	全体的に磨耗著しく調 整不明
								<u> </u>			及異位占	ミガキ(杯部体上半は横方向、下	
13	1区	SK18	弥生土器	高杯	30.1	24. 2	18. 9	12/12	密	良	橙色	半は縦方向)脚部(細かいハケメ、	漆付着
			77	17711			10,0	10,12			浅黄色	柱状部はケズリと縦方向のナデ) 横方向のミガキ	34.13/8
											にぶい黄橙色	ミガキ	
14	不明	不明	弥生土器	高杯	31.6	4.4	-	1/12	密	良	にぶい黄橙色	ミガキ	
											灰白色	ヨコナデ	******
15	1区	SK04	弥生土器	高杯	-	1.2	20. 1	1/12以下	密	良	灰黄色	ヨコナデ	
		SZ04 (SK1						-			浅黄色	ミガキ、赤彩、脚部ナデ	***************************************
16	1区	3)	弥生土器	高杯	_	9.1		_	密	良	灰黄色	ヘラミガキ、赤彩	
				4							明灰褐色	ヨコナデ、ヘラ削り	
17	1区	SD08	弥生土器	高杯	_	3. 15	13.5	3/12	やや粗	良	明灰褐色	ヘラ削り、ヘラ摩き	赤彩
10		0007	76-6-1 00	ndo Jose				. (10			黄灰色	ナデ	,
18	1区	SD27	弥生土器	高杯	_	9.2	-	1/12	密	やや良	浅黄色	ミガキか?摩耗のため調整不明	
19	1区	SD32	弥生土器	高杯	_	2.6	_	_	oter		灰白色	ナデ	
19	10.	3932	20.77.7.49	1414		2.0			密	良	にぶい橙色	調整不明	
20	2区		弥生土器	高杯		3.7		_	やや密	良	浅黄橙色	摩耗の為調整不明	
20	200		かってて出	IPJTI		3. 1			\ \ \	JX.	浅黄橙色	摩耗の為調整不明	
21	1区	SK45	弥生土器	器台	26. 1	19.6	19.3	12/12	密	良	灰黄色	ヘラケズリ、ミガキ	穿孔の間隔から4ヶ所の日が推定できる/2ヶ
	A. ph.:	DATAD)/1·	95-13	20.1	10.0	10.0	12/12	713	100	灰黄色	ミガキ、ハケメ	の孔が推定できる(3ヶ 所は確認) 擬凹線文
22	1区	SD32	弥生土器	器台脚裾部		1.9	_	_	密	良	にぶい黄橙色	摩耗のため調整不明	二条の沈線、スタンプ
											橙色	ナデ	文
23	1区		弥生土器	器台脚部		3.5	_		密	良	浅黄橙色	摩耗のため調整不明	沈線
L										Ė	浅黄橙色	ミガキ	
24	1区	SZ02	弥生土器	器台脚部	_	1.35	20.3	1/12以下	密	良	にぶい黄橙色	ヨコナデ	
 								<u> </u>			にぶい橙色	ヨコナデ	
25	1区	SK42	土師器	216 376	15.8	3. 7	-	3/12	密	良	灰褐色	ナデ、ヨコナデ	
				-							灰褐色	ヨコナデ	
0.5			1 4-4							_	にぶい黄橙色	胴部ハケ(2種類の工具使用)、	A Maria Cara
26	3区	SD51	土師器	甕	21.7	15. 1	_	9/12	密	良		胴中央~下部ケズリ	全体的にスス付着
		ļ	ļ	ļ					ļ		黒褐色	ヨコナデ、ハケメ	
27	1区	NR01	土師器	高杯	-	4.5			密	良	にぶい黄橙色	調整不明、ハケメの痕跡あり	
				-							にぶい橙色	ハケ調整後のナデ、指頭圧痕あり	
			須恵器	杯G	11.0	1.8	-	1/12	密	良	灰白色	ロクロナデ	
28	2区			-							灰白色	ロクロナデ	
28	2区			i	10.4	2. 3	-	2/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
28 29	2区	SX03	須恵器	杯G							灰色	ロクロナデ	
		SX03	須恵器	杯G									
		SX03	須恵器 須恵器	杯G 杯A	11.0	2. 9	_	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
29	2区	SX03			11.0	2. 9	_	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
29	2区	SX03			11.0	2. 9	9. 2	1/12 3/12	密	良不良	灰色 灰褐色	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ヨコナデ	
29 30	2区		須恵器	杯A							灰色 灰褐色 灰褐色	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ヨコナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
29 30	2区		須恵器	杯A							灰色 灰褐色	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ヨコナデ	

											£	alors with	
No.	地区	遺構名	種類	器種		量(cn		残存率	胎土	焼成		調整 内面	備考
1.0.	-3.0	ASS.117-E4	1277		口径	器高	底径				外面	外面	
33	1区	NR01	須恵器	杯A	12.4	3. 25	8. 20	3/12	密	良	灰色	ナデ、ロクロナデ	
		(11101	5A7E4111	,,,,,				-,			灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
34	1区	SD17	須恵器	杯A	12.8	3.0	8.6	6/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
											灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
35	1区	SD32	須恵器	杯A	12.8	3.3	8.8	2/12	密	良	灰色・黄灰色	ロクロナデ	
											灰色・黄灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
36	1区	NR01	須恵器	杯A	12.4	3. 3	9. 2	4/12	密	良	灰色・黄灰色 灰色・黄灰色	ナデ、ロクロナデ	
											灰色・黄灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
37	1区	SD32	須恵器	杯A	12.9	3.3	8.6	7/12	密	良	灰色・黄灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
											にぶい黄橙色	ロクロナデ	
38	2区	SX02	須恵器	杯A	12.0	3.3	_	1/12以下	密	やや良	にぶい黄橙色	ロクロナデ、ヘラ切り	
			Contractor INIT	l=				0./40			灰色	ヨコナデ(ロクロ調整)	
39	2区	SX02	須恵器	杯A	12.0	3.75	8.5	8/12	密	良	灰色	ヨコナデ(ロクロ調整)、ヘラ切り	
40	1.57	CWO 4	海市里	÷T A	11 04	2.4	9 9	1/10	ntes	良	灰色	ロクロナデ	
40	1区	SK04	須恵器	杯A	11.84	3.4	8. 2	1/12	密	尺	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
41	1区	SZ02	須恵器	杯A	21.4	3. 23	8. 0	3/12	密	良	灰色	ヨコナデ	口縁部内外に油煙
41	114	3202	クタレビい合か	-del-ang	21.4	0.20	5.0	J, 14	1.1.1		灰色	ヨコナデ、ヘラ切り	
42	1区	SD37	須恵器	杯A	11.0	3.2	5.6	4/12	密	良	灰色・黄灰色	ロクロナデ	
			7				<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>	灰色・黄灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
43	1区	NR01	須恵器	杯A	10.8	3.0		2/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
					_						灰色	ロクロナデ、ヘラ切り、重ね焼の痕跡あり	
44	1区	SD05 SD06	須恵器	杯A	12.8	4.0	9. 9	4/12	密	良	灰色	ヨコナデ (ロクロ調整) ョコナデ (ロクロ調整)、ヘラ切り後ナデ	
		3200					-	ļ	-	\vdash	灰白色	ョコナテ (ロクロ調整)、ヘラ切り後ナア ロクロナデ	
45	1区	SX01	須恵器	杯A	13.0	3. 2	-	3/12	密	良	灰白色	ロクロナデ	
											灰色	ロクロナデ	
46	1区	SX01	須恵器	杯A	13.0	2. 9		2/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
									<u> </u>	-	浅黄色	ロクロナデ	
47	2区		須恵器	杯A	13. 4	3. 1	-	2/12	密	良	灰黄色	ロクロナデ	
										_	灰色	ロクロナデ	
48	2区		須恵器	杯A	12.2	2.4	_	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
<u></u>	, 57	MDOS	你士®	4-7° A	_	0.05	0.7	9/19	tribs	良	灰色	ロクロナデ	
49	1区	NR01	須恵器	杯A		2.65	9. 7	3/12	密	尺	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
50	1区		須恵器	杯A		2.8		3/12	密	身やゆ	灰白色	ロクロナデ	
00	1 2.5		SMIGNED	11.11	ļ	2.0	ļ	0712			灰白色	ロクロナデ、ヘラ切り後ヨコナデ	
51	2区		須恵器	杯A	_	2.7	9.6	3/12	密	良	明灰色	ロクロナデ	
										ļ	明灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	4.4
52	2区	SX02	須恵器	杯A	-	3.7		4/12	密	良	灰黄色	ロクロナデ	
<u> </u>					ļ	 					灰黄色	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ナデ	
53	1区		須恵器	杯A	-	2.97	9. 7	3/12	密	良	明灰色 明灰色	ヨコナデ、ヘラ切り	
				<u> </u>						-		ロクロナデ	
54	1区		須恵器	杯A	-	3.2	_	2/12	密	やや良	にぶい黄色 灰白色	ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ	
		 			 	l				1	灰色	ロクロナデ、ナデ	
55	1区	包含層	須恵器	杯A	-	2. 9	7.8	4/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	底部外面へラ記号
<u> </u>			/ma-k	Jane arts		, .			,	,	灰色	ロクロナデ	
56	1区	SK04	須恵器	杯蓋	-	2.2	_		密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ削り後ロクロナデ	
	1 10-0	İ	(PE also 00	47-56-	10 5		_	1/10	ste	di	黄灰色	ロクロナデ	
57	1区		須恵器	杯蓋	12.5	2.1	<u> </u>	1/12	密	良	黄灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
58	2区	SD41	須恵器	杯蓋	13.5	1.8	_	1/12	密	良	黄灰色	ロクロナデ	
58	412.	3D41	須芯菇	小型	10.0	1.0		1/14	110	120	黄灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
59	1区	NR01	須恵器	杯蓋	12.5	1.8	_	1/12	密	良	灰白色	自然釉付着により調整不明	
ٽٽ		1	->-VOLUME		1	L.,				L	灰白色	ロクロナデ、ヘラ削り	
60	1区		須恵器	杯蓋	13.0	1.85	_	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	内面:スス付着
	<u> </u>		ļ		ļ	<u> </u>			<u> </u>		灰白色	ロクロナデ、ヘラ切り	
61	1区	SD32	須恵器	杯蓋	13.8	2.4	_	2/12	密	不良	にぶい黄橙色	ロクロナデ、ナデ	内面スス付着
		-	-	 	 				-	├	にぶい黄橙色 幸匹色	ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ ナデ、ロクロナデ	
62	1区	SD32	須恵器	杯蓋	11.4	3.0	-	1/12	密	良	青灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
	\vdash				-		 		 	 	京灰色 灰黄色	ロクロナデ	
63	1区		須恵器	杯蓋	13. 4	3.1	-	1/12	密	良	<u>灰黄色</u> 暗灰黄色	ロクロナデ、ヘラ切り、つまみ貼付時ナデ	
 	├─	<u> </u>	-	-	 	-	<u> </u>	 			灰色	ロクロナデ	
64	1区	NR01	須恵器	杯蓋	-	2.7	-	_	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ削り、つまみ貼付時ナデ	
	<u> </u>	1		 	†					<u> </u>	灰白色	ロクロナデ後ナデ	
65	1区	SZ01	須恵器	杯蓋	15.0	2.0	_	2/12	密	良	灰白色	ロクロナデ、ヘラ削り、つまみ貼付時ナデ	
	•			A.							t	•	

					注	量(cm	.)				色調	調整	
No.	地区	遺構名	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	焼成	内面	內面	備考
					口压	4542 (6)	ASC Table				外面	外面	
66	1区		須恵器	杯蓋	15.0	2.35	-	2/12	密	良	黄灰色	ロクロナデ	
											黄灰色	ロクロナデ、ヘラ切り、つまみ貼付時ナデナデ	
67	1区	NR01	須恵器	杯蓋	-	2.15	-	-	密	良	<u>灰色</u> 灰色	ロクロナデ、つまみ貼付時ナデ	
	\vdash										灰色	ロクロナデ	
68	1区		須恵器	杯蓋	_	2.0	-	_	密	良	灰色	ヘラ削り、つまみ貼付時ナデ	
						2.0					灰色	ナデ	
69	1区	NR01	須恵器	杯蓋	-	1.8	-	*****	密	良	灰色	つまみ貼付時ナデ	
											黄灰色	ナデ	
70	1区		須恵器	杯蓋	-	1.6	-	_	密	良	黄灰色	つまみ貼付時ナデ、調整不明	
			and refer to to	1-1-11-							黄灰色	ロクロナデ後ナデ	
71	1区		須恵器	杯蓋	-	1.5	-	_	密	良	黄灰色	つまみ貼付時ナデ	
72	1区		須恵器	杯B	10.2	4. 2	6.8	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
12	1 🗠		海总部	ηγ. D	10.2	4. 2	0.0	1/12	405	J.C.	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
73	1区	SD05	須恵器	杯B	11.2	4. 2	6.4	2/12	密	良	暗灰色	ナデ、ヨコナデ	
-10	167	SD06	SHARME	77.0	11.2	1. 5	· · ·	5, 12		^	暗灰色	ヨコナデ、ヘラ切り	
74	1区	SK48	須恵器	杯B	11.8	4. 45	6.8	9/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
											灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
75	1区	SK103	須恵器	杯B	12.4	3. 7	7.6	4/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ナデ	
	ļ									<u> </u>	暗灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
76	1区	包含層	須恵器	杯B	14.8	3.8	10.2	2/12	密	良	灰色	ロクロナデ ヘニ切り	内面降灰
	-				-					<u> </u>	暗灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
77	1区	SD17	須恵器	杯B	-	3.8	8. 0	5/12	密	良	暗灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
	-										灰色	ロクロナデ	
78	1区		須恵器	杯B	13.6	3.2	7.8	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
	-										白色	ロクロナデ	
79	1区	包含層	須恵器	杯B	14. 56	4.3	8. 25	12/12	密	やや良	明褐色	ロクロナデ、ヘラ切り	
	-							·		_	灰色	ロクロナデ	
80	1区	SD32	須恵器	杯B	15.7	4.3	11.8	2/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
	İ									_	灰色	ロクロナデ	
81	1区	SD17	須恵器	杯B	14.7	3.7	9.8	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	1
	1	0010	/# # 00	dert to	10.0	7.0	0.0	0./10	telor		灰色	ロクロナデ、ナデ	体如に社領1大
82	1区	SD17	須恵器	杯B	16.2	7.0	8.6	3/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	体部に沈線1本
83	3区	包含層	須恵器	杯B	17.0	4. 9		4/12	密	良	灰色	ヨコナデ	体部に沈線2本
00	3匹	以日層	2月/四十分	סיףן	17.0	4. 3		4/12	1111	×	灰色	ヨコナデ	P DITC (CIDAL T
84	1区	包含層	須恵器	稜椀	_	2.35	6.5	4/12	密	良	青灰色	ロクロナデ	
			7700 110	12170							青灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
85	1区	SD22	須恵器	稜椀	12.4	5.1	11.3	9/12	密	良	灰色	ロクロナデ、底部ロクロナデ後ナデ	
			20,75,46								灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
86	1	0000	2月755-66								暗青灰色	ロクロナデ	
	2区	0,000	須惠器	杯B	-	1.8	5.2	2/12	密	良			
	2区	0,522		杯B	_	1.8	5.2	2/12	密		暗青灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
87	2区	3,22		杯B 杯B	-	1.8 2.7	5. 2 5. 0		密密		暗青灰色 青灰色	ロクロナデ	
		0,000	須惠器								暗青灰色 青灰色 青灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
		0,000	須惠器								暗青灰色 青灰色 青灰色 青灰色	ロクロナデ	
87	2区	OPER TO THE PROPERTY OF THE PR	須惠器 須惠器 須惠器	杯B 杯B		2. 7	5. 0 6. 0	4/12 1/12	密密	良良	暗青灰色 青灰色 青灰色 青灰色 青灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	
87	2区	3,22	須惠器	杯B	_	2. 7	5.0	4/12	密	良	暗青灰色 青灰色 青灰色 青灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ	
87 88 89	2X 2X 1X		須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	杯B 杯B		2.7	5. 0 6. 0 6. 0	4/12 1/12 1/12	密密	良良良	暗青灰色 青灰色 青灰色 青灰色 青灰色 黄灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ	
87	2区	NR01	須惠器 須惠器 須惠器	杯B 杯B		2. 7	5. 0 6. 0	4/12 1/12	密密	良良	暗青灰色 青灰色 青灰色 青灰色 黄灰色 黄灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
87 88 89 90	2 Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z	NR01	須恵器 須恵器 須恵器 須恵器 須恵器	杯B 杯B 杯B		2.7 2.1 1.9	5. 0 6. 0 6. 0	4/12 1/12 1/12 3/12	密密密	良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰色 青灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ナデ	
87 88 89	2X 2X 1X	NR01	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	杯B 杯B		2.7	5. 0 6. 0 6. 0	4/12 1/12 1/12	密密	良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰色 青灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
87 88 89 90	2区 2区 1区 1区 不明	NR01 不明	須恵器 須恵器 須恵器 須恵器 須恵器	杯B 杯B 杯B		2. 7 2. 1 1. 9 2. 2 1. 5	5. 0 6. 0 6. 0 6. 9 6. 0	4/12 1/12 1/12 3/12 1/12	密密密	良良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰色 青灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 灰灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ヘラ切り	
87 88 89 90	2 Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z	NR01	須恵器 須恵器 須恵器 須恵器 須恵器	杯B 杯B 杯B		2.7 2.1 1.9	5. 0 6. 0 6. 0	4/12 1/12 1/12 3/12	密密密	良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰色 青灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 灰色 灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	
87 88 89 90 91	2区 2区 1区 1区 不明	NR01 不明 NR01	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	杯B 杯B 杯B 杯B		2. 7 2. 1 1. 9 2. 2 1. 5	5. 0 6. 0 6. 0 6. 9 6. 0	4/12 1/12 1/12 3/12 1/12 2/12	密密密密	良良良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰色 青灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
87 88 89 90	2区 2区 1区 1区 不明	NR01 不明	須恵器 須恵器 須恵器 須恵器 須恵器	杯B 杯B 杯B	-	2. 7 2. 1 1. 9 2. 2 1. 5	5. 0 6. 0 6. 0 6. 9 6. 0	4/12 1/12 1/12 3/12 1/12	密密密	良良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰色 青灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、・ ロクロナデ、・ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ	
87 88 89 90 91	2区 2区 1区 1区 不明	NR01 不明 NR01	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	杯B 杯B 杯B 杯B	-	2. 7 2. 1 1. 9 2. 2 1. 5	5. 0 6. 0 6. 0 6. 9 6. 0	4/12 1/12 1/12 3/12 1/12 2/12	密密密密	良良良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰色 青灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、・ハラ切り ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ	
88 89 90 91 92	2区 2区 1区 1区 不明 1区	NR01 不明 NR01 SX03	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器		-	2. 7 2. 1 1. 9 2. 2 1. 5 1. 65 2. 2	5. 0 6. 0 6. 0 6. 9 6. 0 6. 6	4/12 1/12 1/12 3/12 1/12 2/12 4/12	密密密密密密	良良良良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰色 青灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、・ハラ切り ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ	
87 88 89 90 91 92	2区 2区 1区 1区 不明 1区	NR01 不明 NR01 SX03	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器		-	2. 7 2. 1 1. 9 2. 2 1. 5 1. 65 2. 2	5. 0 6. 0 6. 0 6. 9 6. 0 6. 6	4/12 1/12 1/12 3/12 1/12 2/12 4/12	密密密密密密	良良良良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰色 青灰灰色 黄灰灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰灰色 黄灰	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、・ハラ切り ロクロナデ、・ハラ切り ロクロナデ・、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ 、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ	
87 88 89 90 91 92 93	2区 2区 1区 1区 不明 1区 2区	NR01 不明 NR01 SX03	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器		-	2. 7 2. 1 1. 9 2. 2 1. 5 1. 65 2. 2 13. 0	5. 0 6. 0 6. 0 6. 9 6. 6 6. 6 6. 6	4/12 1/12 1/12 3/12 1/12 2/12 4/12 1/12	密密密密密密密	良良良良良良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰色 青灰灰色 黄灰灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色 黄灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
87 88 89 90 91 92 93	2区 2区 1区 1区 不明 1区 2区	NR01 不明 NR01 SX03	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器		-	2. 7 2. 1 1. 9 2. 2 1. 5 1. 65 2. 2 13. 0	5. 0 6. 0 6. 0 6. 9 6. 6 6. 6 6. 6	4/12 1/12 1/12 3/12 1/12 2/12 4/12 1/12	密密密密密密密	良良良良良良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰灰色 青灰灰色 黄灰灰色 黄灰灰色 黄灰灰色 黄香灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ	
87 88 89 90 91 92 93 94	2区 2区 1区 1区 不明 1区 2区 1区	NR01 不明 NR01 SX03	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器		-	2. 7 2. 1 1. 9 2. 2 1. 5 1. 65 2. 2 13. 0 2. 28	5. 0 6. 0 6. 0 6. 9 6. 0 6. 6 6. 6 6. 0	4/12 1/12 1/12 3/12 1/12 2/12 4/12 1/12 1/12	密密密密密密密密密密	良良良良良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰灰色 青灰灰色 黄灰灰色 黄灰灰色 黄灰灰色 黄水灰色 黄香灰灰灰灰 黄香灰灰	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
87 88 89 90 91 92 93 94	2区 2区 1区 1区 不明 1区 2区 1区	NR01 本明 NR01 SX03	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器		-	2. 7 2. 1 1. 9 2. 2 1. 5 1. 65 2. 2 13. 0 2. 28	5. 0 6. 0 6. 0 6. 9 6. 0 6. 6 6. 6 6. 0	4/12 1/12 1/12 3/12 1/12 2/12 4/12 1/12 1/12	密密密密密密密密密密	良良良良良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰色 青灰灰色 黄灰灰色 黄灰灰色 黄灰灰色 黄灰灰色 黄灰灰色	ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ スラ切り ロクロナデ ロクロナデ スラ切り フクロナデ スラ切り フクロナデ スラ切り ナデ ロクロナデ スラ切り	
87 88 89 90 91 92 93 94 95	2区 2区 1区 1区 不明 1区 2区 4区	NR01 本明 NR01 SX03	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	杯B	-	2.7 2.1 1.9 2.2 1.5 1.65 2.2 13.0 2.28	5. 0 6. 0 6. 9 6. 0 6. 6 6. 6 6. 8	4/12 1/12 1/12 3/12 1/12 2/12 4/12 1/12 1/12 2/12	密密密密密密密密密密密	良良良良良良良良良	暗曹灰色 青灰色 青灰灰色 青灰灰色 黄灰灰色 黄灰灰色 黄灰灰色 黄水灰色 黄香灰灰灰灰 黄香灰灰	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

			I		ù±.	量(cn	.)		T	T	色調	調整	I
No.	地区	遺構名	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	焼成	内面	内面	備考
-					- 1	20 (**)	MEX I.I.I.			ļ	外面	外面	
99	1区	SD05	須恵器	杯B		1. 45	7. 3	1/12	密	良	明青灰色	ロクロナデ、ナデロクロナデ	
											灰色	ロクロナデ	
100	2区		須恵器	杯B	_	1. 85	6.1	2/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
101	otr		Cast vier CO	±z*n	_	0.55		0.770			灰色	ロクロナデ	
101	2区		須恵器	杯B	_	2. 55	6.8	2/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
102	1区	SD27	須恵器	杯B	_	1. 85	7.4	3/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
		SD29	5000 HB			1.00		0,12		^	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
103	1区	SX01	須恵器	杯B	_	1.3	7.3	6/12	密	良	明灰色	ロクロナデ	
											青灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
104	1区	NR01	須恵器	杯B		2.2	6.9	3/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
											灰色	ロクロナデ、ナデ	
105	1⊠	SX01	須恵器	杯B	_	1.9	6.6	4/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
100	1 07	± (.	Awards DD	±7° D	_			1/10		_	青灰色	ロクロナデ	
106	1区	表土	須恵器	杯B		1.55	6. 9	1/12	密	良	青灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
107	1区	表土	須恵器	杯B	_	2.05	7. 8	2/12	密	良	青灰色	ロクロナデ	
			500000	112				2,15			青灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
108	1区	包含層	須恵器	杯B		2. 95	7.8	2/12	密	良	青灰色	ロクロナデ、ナデ	
											青灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
109	1区	包含層	須恵器	杯B	-	2. 7	7. 0	10/12	密	良	暗青灰色	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ ヘラ切り	転用硯
\vdash											暗青灰色 灰色	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	
110	4区		須恵器	杯B	-	1.3	6. 9	2/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
		- ^ -	ALALLE BR								灰色	ロクロナデ	
111	1区	包含層	須恵器	杯B		3.0	7. 8	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	底内面自然釉付着
112	1区	SD32	須恵器	杯B		3. 2	6. 7	3/12	密	良	青灰色	ロクロナデ	
112	12	3002	次尺心的	1410		0.2	0. 1	3/12	100	R	青灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
113	2区		須恵器	杯B	_	3.6	7.4	9/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ナデ	
			7.0								灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
114	1区		須恵器	杯B	_	2.6	8. 4	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
											灰色	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	
115	1⊠		須恵器	杯B	-	1.5	8. 4	2/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
											黄灰色	ロクロナデ、重ね焼の痕跡か?	
116	1区		須恵器	杯B	-	1. 45	8. 1	6/12	密	良	黄灰色	ヘラ切り	内面付着物あり
117	2区	SD41	須恵器	杯B	_	1. 43	8. 4	1/10	ote		明灰色	ナデ、ロクロナデ	
111	212	3041	/具/心部	44,0		1.45	0.4	1/12	密	良	明灰色	ロクロナデ	
118	1区		須恵器	杯B		3.0	8. 0	1/12	密	良	白灰色	ロクロナデ	
<u> </u>											白灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
119	不明	不明	須恵器	杯B		1.7	8. 0	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
					-						灰色	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	
120	4⊠		須恵器	杯B	-	2.1	8.2	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
											青灰色	ロクロナデ	
121	2区	SK72	須恵器	杯B	_	2.1	8.2	1/12	密	良	青灰色	ヘラ削り	
122	2区		須恵器	杯B	_	1. 85	8. 5	1/10	Store	p	青灰色	ロクロナデ、ナデ	
144			次成形石	מיוץ		1.00	0.0	1/12	密	良	青灰色	ロクロナデ	
123	1区	表土	須恵器	杯B		1.7	8. 5	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ナデ	
			~							Ľ.	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
124	1区	SD02	須恵器	杯B	-	3.04	8. 9	2/12	やや密	良	青灰色	ヨコナデ	
											青灰色	ヨコナデ、ヘラ切り	
125	2区	SX02	須恵器	杯B	-	23	9.7	4/12	密	良	明灰色 青灰色	ナデ、ヨコナデ ヨコナデ、ヘラ切り	
<u> </u>											灰色	ロクロナデ、底部ヨコナデ	
126	1区		須恵器	杯B	-	2.2	-	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
127	1区	SD05	須恵器	杯B		1.7	10.1	9/10	sts		にぶい黄橙色	摩耗著しく調整不明	
161	110	SD06	次总额	קוא	_	1. (10.1	2/12	密	不良	にぶい黄橙色	ヘラ切りか?摩耗の為調整不明	W000
128	1区	SX01	須恵器	杯B	_	2. 2	9.8	3/12	密	良	明青灰色	ロクロナデ	
<u> </u>										- `	明青灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
129	1区	表土	須恵器	杯B	-	2. 9	9.2	2/12	密	良	青灰色	ロクロナデ、ナデ	
											青灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
130	1区	SD32	須恵器	杯B	-	1.4	9.8	1/12	密	良	灰色	ナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
											灰色	ロクロナデ、ナデ	
131	1区	表土	須恵器	杯B		265	1.0	4/12	密	良	灰色	ロクロナデ、ヘラ切り	
Щ					اا						~		

No. 地区 132 1区 133 1区 134 1区 135 1区 136 1区 137 1区 138 2区 139 1区 140 2区 141 2区 141 1区 142 1区 143 1区 144 1区 145 1区 146 2区 147 1区 148 1区	 SD17 SD17 SD17 SX01 F01 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01 SD17 SD41 SD41 SD41 SD41 SD41 SD41 SD65 SD06 SD06 	種類 須惠器 器 須惠 器	 器種 杯B 水B 水B 水B 水B 水B 空機瓶 平取耳瓶 取取取瓶 取取取瓶 取取瓶 取取 空速 取取 空速 地域 	口径 - 9.0 - 12.4	聚高 3.7 2.3 3.15 17.15 4.3 9.3 11.2 4.4 301 3.2	應径 11.6 12.1 - 9.5 - 13.8 12.0 21.6	残存率 4/12 7/12 4/12 8/12 1/12 - - 3/12 2/12	胎密密密密密密密密密密密	良良良良	色調 大田 大田 </th <th>ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ 降灰により調整不明瞭 ロクロナデ</th> <th>備考 内外面自然釉 (緑灰色) 付着 自然釉付着 自然釉付着</th>	ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ 降灰により調整不明瞭 ロクロナデ	備考 内外面自然釉 (緑灰色) 付着 自然釉付着 自然釉付着
133 1	区 SD17 区 SX01 区 P01 区 SX01 区 SD17 区 SX01 区 SD17 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD6 SD06	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	「不	9.0	3.7 2.3 3.15 17.15 4.3 9.3 11.2 4.4 301 3.2	11. 6 12. 1 - 9. 5 - - - 13. 8	7/12 4/12 8/12 1/12 3/12	密密密密密	良良良良良良良良	灰色 (やや灰褐色) 灰色 (やや灰褐色) 灰	ロクロナデ、ヨコナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ヨコナデ ヨコナデ、手持ちヘラ削り、ナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ログロナデ ログロナデ	色) 付着 自然釉付着 自然釉付着
133 1	区 SD17 区 SX01 区 P01 区 SX01 区 SD17 区 SX01 区 SD17 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD6 SD06	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	「不	9.0	2. 3 3. 15 17. 15 4. 3 9. 3 11. 2 4. 4 301 3. 2	9.5 - 13.8 12.0	7/12 4/12 8/12 1/12 3/12	密密密密密	良良良良良良良良	灰色 (やや灰褐色)	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ヨコナデ ヨコナデ、手持ちヘラ削り、ナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ	色) 付着 自然釉付着 自然釉付着
134	区 SX01 区 P01 区 SX01 区 SD17 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD6 SD06 区 SD05	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	小型壺 壺 横瓶 長頸瓶 平瓶 双耳瓶 壺 · 瓶類 壺 · 瓶類 壺 · 瓶類	9.0	3.15 17.15 4.3 9.3 11.2 4.4 301 3.2	9.5	4/12 8/12 1/12 - - - 3/12	密密密密	良良良良良良良良	灰色 灰灰色 灰灰色 灰灰色 黄野色 音質 変数 変数 変数 変数 変数 変数 変数 変数 変数 変数	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ ロクロナデ ヨコナデ、手持ちヘラ削り、ナデ ロクロナデ、降灰 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ	色) 付着 自然釉付着 自然釉付着
134	区 SX01 区 P01 区 SX01 区 SD17 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD6 SD06 区 SD05	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	小型壺 壺 横瓶 長頸瓶 平瓶 双耳瓶 壺 · 瓶類 壺 · 瓶類 壺 · 瓶類	9.0	3.15 17.15 4.3 9.3 11.2 4.4 301 3.2	9.5	4/12 8/12 1/12 - - - 3/12	密密密密	民 良 良 良 良 良	灰色 灰灰色 灰灰色 黄	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ コクロナデ ヨコナデ ヨコナデ、手持ちヘラ削り、ナデ ロクロナデ、降灰 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ	色) 付着 自然釉付着 自然釉付着
135 IE 136 IE 137 IE 138 ZE 139 IE 140 ZE 141 ZE 142 IE 143 IE 144 IE 145 IE 146 ZE 147 IE 148 IE	区 P01	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	遊 横瓶 長頸瓶 平瓶 双耳瓶 壶 · 瓶 類 壺 · 瓶 類 類 類 類 類 類 類 類		17. 15 4. 3 9. 3 11. 2 4. 4 301 3. 2 2. 8	9.5	8/12 1/12 — — — — — 3/12	密密密	良良良良良	灰色 灰色 灰色 変色 黄音 音	ロクロナデ ロクロナデ ヨコナデ、手持ちへラ削り、ナデ ロクロナデ、降灰 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ	色) 付着 自然釉付着 自然釉付着
135 IE 136 IE 137 IE 138 ZE 139 IE 140 ZE 141 ZE 142 IE 143 IE 144 IE 145 IE 146 ZE 147 IE 148 IE	区 P01	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	遊 横瓶 長頸瓶 平瓶 双耳瓶 壶 · 瓶 類 壺 · 瓶 類 類 類 類 類 類 類 類		17. 15 4. 3 9. 3 11. 2 4. 4 301 3. 2 2. 8	9.5	8/12 1/12 — — — — — 3/12	密密密	良良良良良	灰色 灰色 灰色 黄げ色 音質灰色 ズリーブ灰色 黄質 灰色 灰色	ロクロナデ ヨコナデ ヨコナデ、手持ちヘラ削り、ナデ ロクロナデ、降灰 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ログロナデ 降灰により調整不明瞭 ロクロナデ	色) 付着 自然釉付着 自然釉付着
136 1E 137 1E 138 2E 139 1E 140 2E 141 2E 142 1E 143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E	区 SX01 区 SD17 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD42 区 SD05 SD06	須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器	横瓶 長頸瓶 平瓶 双耳瓶 壺・瓶類 壺・瓶類	12.4	4. 3 9. 3 11. 2 4. 4 301 3. 2 2. 8	- - - 13. 8	1/12 — — — — — — 3/12	密密密	良良良良良	灰色 灰色 黄 所 色 暗 黄 灰 色 ズ リーブ 灰色 黄 灰 色 灰 氏	ココナデ ココナデ、手持ちヘラ削り、ナデ ロクロナデ、降灰 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ログロナデ 降灰により調整不明瞭 ログロナデ	色) 付着 自然釉付着 自然釉付着
136 1E 137 1E 138 2E 139 1E 140 2E 141 2E 142 1E 143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E	区 SX01 区 SD17 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD42 区 SD05 SD06	須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器須恵器	横瓶 長頸瓶 平瓶 双耳瓶 壺・瓶類 壺・瓶類	12.4	4. 3 9. 3 11. 2 4. 4 301 3. 2 2. 8	- - - 13. 8	1/12 — — — — — — 3/12	密密密	良良良良	灰色 黄灰色 暗黄灰色 灰色 オリーブ灰色 黄灰色 灰色	ココナデ、手持ちへラ削り、ナデ ロクロナデ、降灰 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ 降灰により調整不明瞭 ロクロナデ	色) 付着 自然釉付着 自然釉付着
137 1E 138 2E 139 1E 140 2E 141 2E 142 1E 143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E	区 SD17 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD42 区 SD05 SD06	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	長頸瓶 平瓶 双耳瓶 壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類	-	9. 3 11. 2 4. 4 301 3. 2 2. 8	- - - 13. 8	- - - 3/12	密密	良良良良	黄灰色 暗黄灰色 灰色 オリーブ灰色 黄灰色 灰色 灰色	ロクロナデ、降灰 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ 陸灰により調整不明瞭 ロクロナデ	自然釉付着
137 1E 138 2E 139 1E 140 2E 141 2E 142 1E 143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E	区 SD17 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD42 区 SD05 SD06	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	長頸瓶 平瓶 双耳瓶 壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類	-	9. 3 11. 2 4. 4 301 3. 2 2. 8	- - - 13. 8	- - - 3/12	密密	良良良	暗黄灰色 灰色 オリーブ灰色 黄灰色 黄灰色 灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ 降灰により調整不明瞭 ロクロナデ	自然釉付着
138 2E 139 1E 140 2E 141 2E 142 1E 143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E 148 1E	区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD05 SD06	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	平瓶 双耳瓶 壺 · 瓶類 壺 · 瓶類 壺 · 瓶類 壺 · 瓶類	-	11. 2 4. 4 301 3. 2 2. 8	13.8	- - 3/12	密密	良良	オリーブ灰色 黄灰色 黄灰色 灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ 降灰により調整不明瞭 ロクロナデ	
138 2E 139 1E 140 2E 141 2E 142 1E 143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E 148 1E	区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD41 区 SD05 SD06	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	平瓶 双耳瓶 壺 · 瓶類 壺 · 瓶類 壺 · 瓶類 壺 · 瓶類	-	11. 2 4. 4 301 3. 2 2. 8	13.8	- - 3/12	密密	良良	黄灰色 黄灰色 灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ 降灰により調整不明瞭 ロクロナデ	
139 1E 140 2E 141 2E 142 1E 143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E	区 SD41 I SD41 I SD41 I SD41 I SD65 SD06 I	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	双耳瓶 壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類	-	4. 4 301 3. 2 2. 8	13.8	3/12	密	良	黄灰色 灰色 灰色	降灰により調整不明瞭 ロクロナデ	体部上方に突帯
139 1E 140 2E 141 2E 142 1E 143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E	区 SD41 I SD41 I SD41 I SD41 I SD65 SD06 I	須惠器 須惠器 須惠器 須惠器 須惠器	双耳瓶 壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類	-	4. 4 301 3. 2 2. 8	13.8	3/12	密	良	灰色	ロクロナデ	体部上方に突帯
140 2E 141 2E 142 1E 143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E 148 1E	区 SD41 区 SD41 区 表土 区 SD05 SD06	須恵器 須恵器 須恵器 須恵器 須恵器	壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類	-	301 3.2 2.8	13.8	3/12			灰色		体部上方に突帯
140 2E 141 2E 142 1E 143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E 148 1E	区 SD41 区 SD41 区 表土 区 SD05 SD06	須恵器 須恵器 須恵器 須恵器 須恵器	壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類	-	301 3.2 2.8	12.0					ロクロナデ	
141 2 E 142 1 E 143 1 E 144 1 E 145 1 E 146 2 E 147 1 E 148 1 E	図 SD41	須恵器 須恵器 須恵器 須恵器	壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類	-	3.2	12.0		密	良	灰色		
141 2 E 142 1 E 143 1 E 144 1 E 145 1 E 146 2 E 147 1 E 148 1 E	区 SD41区 表土区 SD05 SD06区 区 区 区 区 区 区 区 区 区 区 区 区 区 区 区 区 区 区	須恵器 須恵器 須恵器 須恵器	壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類	-	2.8		2/12				ナデ	
142 1E 143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E 148 1E	表土素土SD05SD06 X	須恵器 須恵器 須恵器 須恵器	壺・瓶類 壺・瓶類 壺・瓶類	-	2.8		2/12		\vdash	灰色	ロクロナデ	
143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E 148 1E	▼ SD05 SD06	須恵器 須恵器 須恵器	壺・瓶類	_		21.6		密	良	灰色 灰色 灰色	ナデ ロクロナデ	
143 1E 144 1E 145 1E 146 2E 147 1E 148 1E	▼ SD05 SD06	須恵器 須恵器 須恵器	壺・瓶類	_		21.6			_		無調整	
144 1区 145 1区 146 2区 147 1区 148 1区	∑ SD06	須恵器	壺・瓶類		9 1		1/12	密	良	灰色 灰色	ヨコナデ、ナデ	
144 1区 145 1区 146 2区 147 1区 148 1区	∑ SD06	須恵器	壺・瓶類		2 1					暗灰色	ナデ、ヨコナデ	
145 1 🗵 146 2 🗵 147 1 🗵 148 1 🗵	X	須恵器			3.1	11.0	2/12	密	良	暗灰色	ヨコナデ	自然釉付着
145 1 🗵 146 2 🗵 147 1 🗵 148 1 🗵	X	須恵器								褐灰色	底部ナデ、ロクロナデ	
146 2区 147 1区 148 1区			奇・新類		1. 9	13.8	1/12	密	良	黄灰色	ヘラ切り	I
146 2区 147 1区 148 1区			(42) ・ 計り 正田				. (101)	ote		黄灰色	ロクロナデ	
147 1区 148 1区	⊠ SD41	(# ± 50		-	2.4	11.9	1/12以下	密	良	灰色	ロクロナデ	
147 1区 148 1区	<u>A.</u> 3D41		壺・瓶類	_	2.0	10.6	1/12	密	良	黄灰色	ロクロナデ	
148 1区		須恵器	5足 7四块		2.0	10.0	1/12	411	100	褐灰色	ロクロナデ	
148 1区	⊠ NR01	須恵器	壺・瓶類	_	3.85	9.4	2/12	密	良	灰色	降灰により調整不明	
		71.3.2								灰色	ロクロナデ、ナデ	
149 2区	z I	須恵器	壺・瓶類	_	5. 1	10.6	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
149 2区		-		ļ						灰色	ロクロナデ、ヘラ削り ナデ	
	⊠ SX02	須恵器	壺・瓶類		5.4	12.7	1/12	密	良	灰色 灰色	ヘラ削り、底部無調整	
				_						暗灰色	ロクロナデ	
150 1区	区	須恵器	壺・瓶類	-	3.6	8. 8	3/12	密	良	暗灰色	ロクロナデ、ヘラ削り	内外面に降灰
										青灰色	ロクロナデ	
151 1区	区 SD32	須恵器	壺・瓶類		6.8	12.3	1/12	密	良	青灰色	ナデ、ロクロナデ	
150 15	Er anaa	/∓ ++ 00	-44 Met 400			10.0	1 /10	ate	ь	灰色	ヨコナデ	
152 1⊠	⊠ SD02	須恵器	壺・瓶類	_	5.6	13.6	1/12	密	良	暗灰色	ヨコナデ、回転ヘラ削り、手持ヘラ削り	
153 2⊠	K	須恵器	甕	_	36. 8	2.0	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	波状文
100 2/2	ET.	294.7EA TOT	,at		00.0	J. V	17 15	11.5		褐灰色	ロクロナデ	
154 2⊠	⊠ SX02	須恵器	甕	36.1	3.05	_	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	波状文
			ļ		ļ				_	灰褐色	ロクロナデ	
155 2⊠	区 SD41	須恵器	甕	-	5.8	-	1/12以下	密	良	灰白色	ロクロナデ	波状文
			-	 	 		 			黄灰色 灰色	ロクロナデ	
156 1区	区	須恵器	甕	18.6	4.8	-	2/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
		1	1	<u> </u>	1		1		<u> </u>	黄灰色	降灰により調整不明	
157 1区	区	須恵器	甕	27.7	4. 2	-	1/12	密	良	黄灰色	ロクロナデ	ĺ
			****				p /s -			灰色	ロクロナデ、あて具痕	
158 2区	⊠ SX03	須恵器	甕	23. 2	23. 1	_	5/12	密	良	灰白色	ロクロナデ、カキメ、平行タタキメ	
150	- 45	海士===	7-10	9E 4	2.2	_	1/1001=	, प्रदेश	良	灰色	ロクロナデ	
159 不明	明 不明	須恵器	不明	25.4	2.2		1/12以下	密	尺	灰色	ロクロナデ	
160 1⊠	R	土師器	魱	22. 3	4.0	_	1/12以下	密	良	にぶい黄橙色	ヨコナデ	
100 112			B-1	1 2 0	<u> </u>	<u> </u>	., -25,	<u> </u>	Ĺ	浅黄橙色	ヨコナデ、カキメ	
161 1⊠	区 ?	土師器	鍋	5. 4	31.0	-	1/12以下	密	良	灰黄色	ヨコナデ	1
		1	<u> </u>		1—	 	<u> </u>		-	にぶい黄橙色	ョコナデ、カキメカ?摩耗の為、調整不明	
162 1区	⊠ NR01	土師器	鍋	33. 5	5. 85	-	1/12	密	良	にぶい褐色	ヨコナデ	1
		•	ļ	-	ļ	-	-	-	<u> </u>	にぶい褐色	ヨコナデ、カキメ	
163 1⊠	1,101	<u> </u>		44. 6	6. 9	-	1/12	密	良	にぶい橙色	カキメ、ヨコナデ	1
$\vdash \vdash$		土師器	鍋			-	 			准基松点	カセマ コッナデ ヘニ判り	
1 I		土師器	鍋				I		\vdash	浅黄橙色 明褐色	カキメ、ヨコナデ、ヘラ削り	

					法	量(cn	1)	Γ	Ι		色調	調整	
No.	地区	遺構名	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	焼成	内面	内面	備考
									<u> </u>	<u> </u>	外面 にぶい黄橙色	外面 ヨコナデ	
165	1区		土師器	甕	12.0	2.4	_	1/12	密	良	にぶい黄橙色	摩耗の為、調整不明	1
166	1区		土師器	薬	13.0	5. 4	_	1/12	密	良	にぶい黄橙色	ロクロナデ	
100	112		丁山口亞	398	13.0	5.4		1/12	100	R	にぶい黄橙色	ロクロナデ、口縁部調整不明	
167	2区	SX03	土師器	甕	14.2	3. 85	_	2/12	やや密	良	灰褐色	ヨコナデ	外面やや煙
								-7			灰褐色	ヨコナデ	77.20
168	4区	SD58	上師器	甕	14.0	6.7		2/12	粗	良	灰褐色	ヨコナデ、ナデ	-
					<u> </u>						灰褐色	ヨコナデ、カキ目	-
169	1区		土師器	甕	14.2	5.7	_	3/12	密	良	淡褐色 淡褐色	ヨコナデ	1
					<u> </u>						浅黄橙色	カずかにハケメの痕跡あり	
170	1区	SD32	土師器	甕	16.0	3.8	_	1/12	密	良	浅黄橙色	ヨコナデ、カキメ	1
			1 400 00	viel				0.440			橙色	ヨコナデ、摩耗著しく調整不明	
171	1区		土師器	選	16.8	3.5		2/12	粗	良	にぶい橙色	ヨコナデ、ハケメ	
172	1区		上師器	甕	19.0	5. 1		1/12	密	良	灰褐色	ハケ状工具によるナデ	
112	1 12		7.51.40	35G	10.0	0. 1		1/12	-	М.	灰褐色	ヨコナデ	
173	1区	SX01	土師器	藩	19.7	3. 5	_	1/12以下	密	良	にぶい黄橙色	ヨコナデ	4
											にぶい黄橙色	ヨコナデ	
174	1区		土師器	甕	19. 9	2.6	-	1/12	密	良	にぶい黄橙色	カキメ	4
										<u> </u>	浅黄橙色	ョコナデ ロクロナデ	
175	1区		土師器	椀	-	1.5	5.9	3/12	密	良	灰黄色	回転糸切り	_
											明赤褐色	ヨコナデか?調整不明	
176	2区		土師器	椀	-	1.25	7.7	3/12	密	良	灰黄色	回転糸切り	外面に赤彩
177	oter		. L. ACT DUD	4ste	10.0	4.1	<i>r</i> 4	2/10	ote		褐色	ョコナデ	
177	2区		土師器	椀	10.0	4. 1	5.4	3/12	密	良	褐色	ヨコナデ、糸切り	
178	1区	P03	土師器	椀	11.8	3.6	4.6	6/12	密	良	明灰褐色	ヨコナデ	
110	1125	100		Pa	11.0	0.0	1.0	0/12	ш	L^	明灰褐色	ヨコナデ、糸切り	
179	1区	SD05	土師器	椀	_	1.1	4. 7	11/12	密	良	にぶい黄橙色	ロクロナデ	_
		SD06		1							浅黄色	ロクロナデ、回転糸切り	
180	2区	SX02	土師器	椀	-	2.1	4.3	6/12	密	良	浅黄橙色 淡赤橙色	ロクロナデ	-
											次が恒色 にぶい橙色	摩耗著しく調整不明、糸切り ロクロナデ	
181	2区	SX02	土師器	椀	_	1.8	5.2	5/12	密	良	にぶい橙色	ロクロナデ、回転糸切り	-
										-	灰黄褐色	ロクロナデ	<u> </u>
182	2区		土師器	椀		1.5	6.0	3/12	密	良	灰黄褐色	ロクロナデ、回転糸切り	
100			1. AC 00	400		1.9	- 4	0 /10	- der	_	にぶい橙色	ロクロナデ	
183	1区		土師器	椀		1.9	5.4	3/12	密	良	にぶい橙色	ロクロナデ、回転糸切り	
184	2区	SX03	土師器	椀		1.3	5. 9	6/12	密	やや良	にぶい黄橙色	摩耗著しく調整不明	_
			220-1-10								にぶい黄橙色	摩耗著しく調整不明、糸切り	
185	2区		土師器	椀		1.7	7.0	3/12	密	良	にぶい黄橙色	ロクロナデ	4
											浅黄橙色	ロクロナデ、回転糸切り ロクロナデか摩耗の為調整不明	
186	1区	SD05 SD06	土師器	椀		1.7	5.7	7/12	密	良	にぶい黄橙色 にぷい黄橙色	ロクロナアか摩耗の為調整不明ロクロナデ、回転糸切り	_
				<u> </u>					<u> </u>		灰白色	ロクロナデ	
187	1区		緑釉陶器	椀	none	1.75	6.2	1/12	密	良	灰白色	ロクロナデ、ヘラ切り	蛇の目高台
	c =	0370.0	wate SID	whet				1/1001-			黄灰色	ナデ	口縁部自然釉付着、胴
188	2区	SX02	珠洲	甕	31. 8	8. 4	1	1/12以下	密	良	黄灰色	ナデ、タタキメ	部外面降灰
189	1区	NR01	珠洲	壅	41.4	10.7	_	1/12以下	密	良	灰色	ロクロナデ、指押さえ	
100	. 12	111101	2001	,,ar.	21. 4	20.1		-,			灰色	ロクロナデ、タタキメ	
190	2区	SK104	珠洲	甕	48.6	11.5	_	1/12以下	密	良	灰色	ナデ、指押さえ	4
									ļ		灰色	ナデ、タタキメ	
191	1区	NR01	珠洲	甕	42.7	6.2	-	1/12以下	密	良	黄灰色	ナデ	口縁部自然釉付着、胴 部外面降灰
					-						黄灰色	ナデ、タタキメ ロクロナデ、指押さえ	EN THINPEDO
192	2区		珠洲	甕	106.8	6.8	_	1/12以下	密	良	灰色	ロクロナデ、指押さえ	1
				 	\vdash						灰色	ロクロナデ、指押さえ	
193	1区	NR01	珠洲	甕	97.6	4. 9	_	1/12以下	密	良	灰色	ロクロナデ、胴部降灰	1
7.0.	c.	0370.0	198- AU	otes			00.0	1 /10 121	-	_	黄灰色	指頭圧痕	二次的に砥石として使
194	2区	SX02	珠洲	甕		6.1	22.2	1/12以下	密	良	黄灰色	タタキメ、底部ナデか?	用か?内面は砥石で比 較的平穏になってい
195	2区	SD41	珠洲	甕	_	4.8	9.6	5/12	密	良	灰色	ロクロナデ	
190	414	SN#T	64.01l	360		1,0	3. 0	3/14	Hi.	戾	灰色	ロクロナデ、回転糸切り	
196	2区		珠洲	蓮	_	5.3	12. 2	1/12	密	良	灰色	ロクロナデ	1
										<u> </u>	灰色	ロクロナデ、静止糸切り	
197	1区	SZ03	珠洲	35	_	3.6	8.6	4/12	密	良	青灰色	ヨコナデ	-
				L		L			l		青灰色	ヘラ削り、静止糸切り	<u></u>

区	遺構名 SD32	種類 	器種 	口径	器高	底径	残存率	胎土	焼成	内面 外面	内面 外面	備考
+	SD32	珠洲								∠]· IEI	/ [· i&i	
+	SD32	珠洲			77 0		0 /10	ate	۱ ـ	灰色	ロクロナデにオロシメ	16 11+-11/6
_			/ La	24. 4	7.0		2/12	密	良	灰色	ロクロナデ	1条 11本=1単位
区	İ	珠洲	すり鉢	29. 1	3. 3	_	1/12以下	密	良	灰白色	ロクロナデ	口縁部オサエ、指頭圧
+										灰白色	ロクロナデ	痕
区	NR01	珠洲	すり鉢	29.6	4.1		1/12	密	良	灰白色	ロクロナデ、オロシメ	1条8本の単位のオロシ メか?
+									<u> </u>	灰白色	ロクロナデ	口縁部オサエ、指頭圧
区		珠洲	片口鉢	_	4. 9	_	_	密	良	黄灰色	ロクロナデ	痕
区		珠洲	すり鉢	_	2.6	_	1/12以下	察	良	灰色	ロクロナデ	口縁端部に波状文
_			7 7 21				-,, -,				ロクロナデ	
IZ	NR01	珠洲	すり鉢	-	5.0	_	-	密	良			
\dashv										-		オロシメ 5~7本単位
3区		珠洲	すり鉢	_	3.3	11.1	5/12	密	良	灰色	ロクロナデ、静止糸切り?	で1単位(1条)か?
区		144-344	すり鉢		43	10.0	2/12	嫁	良	灰色	ロクロナデ	
· Vina		98011	7 7 114		1.0	10.0	2/12			灰色	ロクロナデ	
区	SD02	珠洲	すり鉢	5.8	-	9. 8	3/12	密	良		摩耗しているがオロシメアリ	
-+			·					_	-		+	
2区		珠洲	すり鉢	_	5. 15	11.7	3/12	密	良			
	avon	7#- NU	-⊢ to 64			10.0	1 /10	ote		灰色	ロクロナデ、すり目	スス付着、卸し目1条
.K	2703	林彻	リリチ		0.1	13.8	1/12	**	共	黄灰色	ロクロナデ、静止糸切り	11本で1単位か?
区	SE02	珠洲	すり鉢	_	10.35	12.6	6/12	やや粗	良	灰色	ロクロナデ	内面底部使用による磨 耗か?
\dashv									_			#6/J ³ !
2区		珠洲	すり鉢	-	9. 4	-	1/12	密	良			
\dashv		. 4-111	_							灰褐色	ロクロナデ	
2区	SX02	土肺器	Ш	9. 25	3.7	3.85	9/12	卷	艮	灰褐色	ロクロナデ、回転糸切り	
1区		十前槑	Ш	17.0	3, 35	_	1/12	密	良	赤灰色	ナデ、ヨコナデ	
\perp										赤灰色	ヨコナデ	
2区		土師器	m.	9. 4	1.6	nome.	5/12	密	良			
+								<u> </u>				
2区		土師器	Ш	8. 44	2.0	4.9	8/12	密	良	灰褐色	ヨコナデ、糸切り	
2区	SY02	十師哭	m	8 7	1.6	6.2	1/12	嫁	良	灰褐色	ロクロナデ	
	ONOD	77 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	300.	Ü.,	1.0	0.2	17.12		<u> </u>	灰褐色	ロクロナデ、底部糸切り	
2区	SX02	土師器	ш	9.6	2.42	4.5	11/12	密	良			
+												
2区	SX03	土師器	.m.	9.0	2. 1	5. 25	1/12	密	良	褐色	ヨコナデ、回転糸切り	
212		十年紀	m	9.4	9.5	4.8	2/12	痖	由	橙色	ヨコナデ	
4 E.S.				2. 4	5.0	*. 0	2/12	111	^	にぶい橙色	ョコナデ、調整不明	
2区	SX02	土師器	EUL.	9. 75	2.53	4.8	12/12	密	良			
+								_				
2区		土師器	Л	9.0	2.1	4. 7	8/12	密	良	暗褐色	ヨコナデ、糸切り	
2区		十年時學	Ш	1.5	7.5	_	3/19	妳	p.	にぶい橙色	ヨコナデ	
. 122				1.0	1.0		0/14	TIL!	以	にぶい橙色	ヨコナデ	
1区	SD05 SD06	土師器	ш		1.8	_	6/12	密	良	にぶい褐色	ヨコナデ	
+	טטעט							<u> </u>	_			
2区	SX02	土師器	ı	13.8	3.5	5.2	12/12	密	良	灰褐色		
	CEO.	4.67.00	mi		1.5		6/10	तर्थन	4	黒色	ヨコナデ、ハケ状工具によるナデ	
1区	2F01	工即器	Щ	_	1.5		0/12	俗	艮	にぶい黄橙色	ヨコナデ、底部未調整	
2区		土師器	П	7. 7	1.6	5. 4	2/12	密	良	灰褐色	ヨコナデ	口縁部に油と墨付着
\dashv								<u> </u>	_	灰褐色	ヨコナデ、ナデ	
2区	SX03	土師器	л	8. 2	1.5	7. 2	3/12	密	良			
\pm				_					-		指押さえ	
2区		土師器	Ш	7.4	1.95	_	3/12	密	良	明赤褐色	指押さえ	
2区		土師器	Ш	9. 4	2.1		2/12	密	良	灰白色	ナデ、ヨコナデ	N. T. C. C. C. C. C. C. C. C. C. C. C. C. C.
-12		-T-011-29-	TILL.	J. 4	2.1		2/12			灰白色	ヨコナデ、ナデ、オサエ	
			_	ا م ا	ا م ا	_	2/12	密	良	浅黄色	ヨコナデ	
2区	SX03	土師器	ш	8.8	2.5		2/12	110	100	the No. of the Case and		
2区	SX03	土帥器		8.8	2.5		2/12	100		にぶい黄橙色 明赤褐色	ョコナデ、ナデ、オサエ ョコナデ	
		X	 X	 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 すり鉢 取別 車 取別 車 取別 車 取回 車 上前器 回 取回 車 上前器 回 取回 車 上前器 回 上前器 回 取回 車 上前器 回 上前器 回 上前器 回 上前器 回 上前器 回 エー /ul>	 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 すり鉢 一 取別 まり の 上師器 皿 9.4 エ 上師器 皿 9.4 エ 上師器 皿 9.6 エ SX02 土師器 皿 9.6 エ SX02 土師器 皿 9.75 エ 上師器 皿 9.75 エ 上師器 皿 9.0 エ 上師器 皿 9.0 エ 上師器 皿 9.0 エ 上師器 皿 1.5 エ 上師器 皿 1.5 エ SX02 土師器 皿 1.3.8 エ SX02 土師器 皿 13.8 エ SX02 土師器 皿 7.7 エ SX03 土師器 皿 7.7 エ SX03 土師器 皿 7.7 エ SX03 土師器 皿 7.7 エ SX03 土師器 皿 7.7 エ SX03 土師器 皿 7.7 エ SX03 土師器 皿 7.7 エ SX03 土師器 皿 7.7 エ 上師器 皿 7.7 	 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)		 (本) (株別 すり鉢 一 2.6 一 1/12以下 (本) (株別 すり鉢 一 5.0 一 一 (本) (株別 すり鉢 一 3.3 11.1 5/12 (本) (株別 すり鉢 一 4.3 10.0 2/12 (本) (株別 すり鉢 5.8 一 9.8 3/12 (本) (株別 すり鉢 一 5.15 11.7 3/12 (本) (株別 すり鉢 一 6.1 13.8 1/12 (本) (株別 すり鉢 一 6.1 13.8 1/12 (本) (株別 すり鉢 一 10.35 12.6 6/12 (本) (株別 すり鉢 一 9.4 一 1/12 (本) (株別 すり鉢 一 9.4 一 1/12 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)		株別 すり鉢 一 2.6 一 1/12以下 密 段	大田 1 1 1 1 1 1 1 1 1	

		-		[洪	量(cn	1)	1			色.調	調整	
No.	地区	遺構名	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	焼成	内面	內面	備考
					口徑	石石 (司)	思任			<u> </u>	外面	外面	
231	2区		土師器	ш	9.0	1.85	4.7	3/12	密	良	灰褐色	ヨコナデ	4
											灰褐色	ヨコナデ、ナデ、指圧	
232	2区		土師器	ш	8. 1	2.3	_	3/12	密	良	明灰褐色	ヨコナデ	口縁部油煙
											明灰褐色	ヨコナデ、ナデ	
233	1区	包含層	土師器	ш	7.8	1.7	_	12/12	密	良	明褐色	ナデ、ヨコナデ	内面釉煙
	~							,		Ĺ.	明褐色	ヨコナデ、指押さえ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
234	2区	SX03	土師器	ш	11. 3	2. 1	_	1/12以下	密	良	灰白色	摩耗の為調整不明	_
											灰白色	摩耗の為調整不明(底部はオサエ)	
235	2区	SX03	青磁	碗	18.7	4. 8	_	1/12	密	良	オリーブ灰色	_	4
											オリーブ灰色	-	
236	3区		染付け	小皿	13. 2	2.0	_	1/12	密	良	灰色		1
	-		261117					-,			灰色		
237	1区	NR01	瀬戸美濃	天目茶碗	11.6	2.7		1/12	密	良	胎調-灰白色	-	
			1007 3000	7 1 7 1 7 1				-,			褐色~2黒褐色	_	
238	1区	NR01	瀬戸美濃	天目茶碗	13.5	3.7	_	1/12	密	良	胎調-灰白色	_	内外面施釉
200	1100	11101	ия) жия	JC II JK 190	10.0	0. 1		17 12	-		暗褐~黒色	ロクロナデ	7 37 EE 2015 FEE
239	1区		瀬戸美濃	小型椀	5. 9	2. 92	3. 15	5/12	密	良	灰色	ロクロナデ	底部外面以外鉄釉
200	1 22		100.7 50.000	77.35.00	0. 5	2. 32	0. 10	0,12			灰色	ロクロナデ、ヘラ削り	WAS EDOLL OF SYNTHE
240	2区	SX03	瀬戸美濃	香炉	6.4	4. 1	6.9	2/12	密	良	灰白色	ロクロナデ	外面上部鉄釉
240	412	3403	模广大级	1017/-	0.4	+- 1	0. 9	2/12	120	×	灰白色	ロクロナデ、糸切り	NAME OF THE PERSON AND
241	2区	SX03	瀬戸美濃	鉢	26.6	2. 1	_	1/12	密	良	淡黄灰色	ロクロナデ	鉄釉
241	410	3403	限厂天微	400	20.0	2.1		1/12	*65	R	淡黄灰色	ロクロナデ	30人 村田
0.40	457		Ter Rife J., 8.0	.1. 64		7 7	_	2/10	密	ė	明褐色	ロクロナデ	
242	4区		瓦質土器	火鉢		7.7		3/12	400	良	明褐色	ロクロナデ 菊花印	7
0.40	1.57		瓦質土器	.1. 64	_	0 55	10.0	1 /10	ote	ė	黒色	ロクロナデ	内面に「大」の刻印
243	1区		凡貴 王帝	火鉢	_	3.55	18.0	1/12	密	良	黒色	ロクロナデ、ナデ	一内面に「人」の刻印
044			+4 45				0.0	4/10	ote	_	胎調-灰色	ロクロナデ、菊花文	
244	1区		越中瀬戸	Ш	_	1.1	3.6	4/12	密	良	赤褐色	削り	1
			44.1.40							_	にぶい橙色	ロクロナデ	
245	2区		越中瀬戸		_	1.4	4.2	1/12	密	良	にぶい橙色	削り出し	7
			6 h 1 Mer								赤褐色	ロクロナデ	Amis or 1
246	2区		越中瀬戸			2. 15	5.6	4/12	密	良	赤褐色	ロクロナデ、削り	一 銹釉
0.45		ND04	delta of a Medical				4.0	1/10	nte		胎調-灰褐色	ロクロナデ	内面底部重ね焼きの
247	1区	NRO1	越中瀬戸		-	1.3	4.6	1/12	密	良	褐色	ロクロナデ、削りだし高台	跡、白釉、印花
			45.1.30								灰褐色	釉により不明	ANS. or I
248	2区	SD41	越中瀬戸		_	1.6	4. 2	3/12	密	良	灰褐色	ロクロナデ 削りだし高台	銹釉
			1.0 1.100								赤灰色	ロクロナデ	
249	1区		越中瀬戸		-	1.85	3.9	2/12	密	良	赤灰色	ロクロナデ、ヘラ削り	底部以外鉄釉
										_	灰オリーブ色	ヨコナデ	
250	2区	SD41	越中瀬戸	Ш	10.6	2.3	5.6	1/12	密	良	灰オリーブ色	ヨコナデ	内外面灰釉
											灰色	ロクロナデ	内外面口縁部灰緑色の
251	1区	NR01	越中瀬戸		12.4	2.5	7.0	3/12	密	良	褐色	ロクロナデ、ヘラ削り	釉付着
0.5.			## T 4m						,		胎調-赤灰色	ロクロナデ	見込みに(重ね焼きの
252	1区	NR01	越中瀬戸			2. 15	4. 1	1/12	密	良	暗灰色	ロクロナデ、ヘラ削り	跡)
			4.b. 1. 100						_	1_	灰オリーブ色	不明	4-7-0
253	不明	不明	越中瀬戸	Ш	_	2.0	4.2	_	密	良	灰褐色	ケズリ	内面灰釉
			18 1 O-0		l			1	l		明褐灰色	ロクロナデ	
254	1区	SD02	越中瀬戸	Ш	23. 4	2. 95	_	1/12	密	良	明褐灰色	ロクロナデ	1
			-1-7/				_			1.	明赤褐色	ロクロナデ	
255	2区		唐津	鉢	_	2. 25	9.6	3/12	密	良	明赤褐色	ロクロナデ、ケズリ	1
		ļ		1						<u> </u>	赤茶色	ロクロナデ	
0.50	2区	SD41	唐津	擂鉢	27.2	3.5	_	1/12	密	良	赤茶色	ロクロナデ	1
256	— —								 	t	灰白色	ロクロナデ	
			fitte shife	碗	13.54	3.4	_	1/12	密	良			-
257	1区	SD02	備前	1915	10.01	1	i		l		灰白色	ロクロナデ	
	1⊠	SD02	白磁	1916	10.01		ļ		<u> </u>		灰白色 浅黄色	ロクロナデ	合子ないし水瓶の蓋

木製品

No.	地区	遺構名	種別		法量		備考
140.	地区	返悔和	1里.が	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm))用·与
268	2区	SX03	下駄	23.6	6.7	1.6	半分欠損
269	2区	SX03	男根	8.9	2. 7	1.6	下端欠損
267	2区	SX02	柄	14.5	3. 4	2. 2	工具類の柄か。差込の深さは8.9cm
259	1区	SD32	板状木製品	22.7	2.0	0.8	片面にキズ多数。転用の可能性有
265	1区	SD32	箸状木製品	11.1	0.7	0.6	天部分が欠損
266	1区	SD32	曲物 (底板)	13.9	8.3	0.7	綴じ皮一部残る
263	1区	SD32	漆器皿	口径 8.5	器高 1.3	底径 5.9	黒色漆 高台欠損
264	1区	SE02	漆器皿	口径 5.9	器高 1.8	底径 -	高台と口縁は欠損。模様は草木。内外面は黒色漆。底部の穴は意図的なものか?
261	1区	SE03	井戸枠(曲物)	53. 5	3. 3	0.4	ケビキあり
262	1区	SE03	井戸枠(曲物)	60.3	4. 3	0.4	
260	1区	SE02	曲物	7. 1	11.6	0.4	ケビキあり
270	2区	包含層	棒状木製品	41.4	3.6	2. 2	一部炭化

報告書抄録

ふりがな	しもさのいせ	けきちょう	さほうこ	. <				
書名	下佐野遺跡調	『査報告』	[
副書名	県道高岡環状	∜線建設□	[事にとも	なう発掘訓	司査			
シリーズ名	高岡市埋蔵文	て化財調金	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			-		
シリーズ番号	第23冊						***************************************	
発 行 機 関	高岡市教育委	· 員会						
編集機関	高岡市教育委	を員会						
百安华优式	19~21年度	株式会社	エイ・テッ:	ク 桶谷	潤			
原案等作成	22年度	株式会社	:アーキジ	オ 上野	章・酢名	ネ 恭子・ ネ	渡辺 理気	
発行年月日	西暦2011年3	月						
ふりがな	所在地	コー	ード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	17) 1II AU	市町村	遺跡番号	0 / //	o / //		m²	
しもさの いせき 下佐野遺跡	富山県 高岡市 佐野	16202	202151	36° 43′ 41″	136° 59′ 30″	040801 ~ 050330	2,925 m²	道路建設
所収遺跡名	種別	主な	·時代	主な	遺構	主な	遺物	特記事項
下佐野遺跡	集落跡	古墳平安中	時代 時代 時代 世	方形周溝墓立柱建物1条、井戸5遺構47条、基、自然流	1棟、柵4 5基、溝状 土坑102	弥生土器、 須恵器、野 土師器、湖 越中瀬戸、 製品、会	弥生時代後 期の方形周 溝墓と古代 の掘立柱建 物の検出	

高岡市埋蔵文化財調査報告 第23冊

下佐野遺跡調査報告Ⅱ

― 県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査 ―

2011年3月

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7番50号

印刷所 平田印刷株式会社

富山県高岡市野村1485番地

